

## まえがき

平成七年一月十七日の阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた長田区は、あれから十年の時を経て街なみは随分と変化しました。しかしながら、区内各所にある歴史的遺産は大禍をまぬがれ、昔の名残をとどめています。

昭和五十二年三月に「ながたの歴史」を発刊し、大変好評を得ておりましたが絶版となり、それからかなりの年月が経ちます。区民の皆様をはじめ多方面の方から長田の歴史関係の本へのお問い合わせが多数あり、このたび内容を一新し、長田の史跡・文化財、町名の由来などを加え、より読みやすい形に改訂した新しい「ながたの歴史」を発刊する運びとなりました。

この編纂にあたり、昭和五十二年の「ながたの歴史」発刊の際にご尽力いただきました、田辺真人氏、神戸歴史クラブメンバーとして田辺氏とともに神戸の歴史を研究されている竹内隆氏に全面的なご協力を得ることができ、大変感謝しております。また、写真、挿絵等の選定においては、神戸長田コンベンション協議会のご協力も得て編纂を進めることができました。何分短期間での作業でしたので、調査が不十分な点もあろうかと思いますが、この冊子が長田の町や歴史を学ぶ一助となれば幸いです。

平成十七年三月

長田区役所

# 目次

## 第一章 長田の歴史

一・古代の長田地方			
一・一・長田の地名	5		
一・二・高取山	5		
一・三・荊藻川	6		
一・四・長田のクニと念仏山古墳	7		
一・五・大和朝廷の勢力下へ	9		
一・六・大化の改新と条里制	9		
一・七・律令制の確立と長田	12		
一・八・山陽道と蓮の池	14		
一・九・平安時代の長田の郷	15		
一・一〇・福原遷都、和田京の計画	17		
二・中世の長田地方			
二・一・一の谷の戦いと長田	19		
二・二・鶴越の坂落とし	19		
二・三・鎌倉時代の長田地方	24		
二・四・南北朝時代	25		
二・五・室町時代	28		
三・近世の長田地方			
三・一・豊臣政権下の長田	30		
三・二・幕藩体制の下で	31		
三・三・新田開発や溜め池建設	32		
三・四・民俗文化財から	36		
三・五・幕末のころの長田	38		
四・近代の長田地方			
四・一・林田村の成立	39		
四・二・神戸市への編入	40		
四・三・近代の交通と産業の発展	41		
四・四・明治の三大土木事業	42		
四・五・軽工業の発展	45		
四・六・ゴム産業の始まり	46		
四・七・電気鉄道の発展	47		
四・八・重工業の展開	48		
四・九・学校の創設	49		

四・十・耕地整理と新しい町名……………	50	長田区年表(産業関連)……………	81
四・十一・行政区「林田区」の誕生……………	52		
四・十二・阪神大水害……………	53	七・長田(神戸市)の鉄道史	
四・十三・戦時下の生活……………	56	七・一・鉄道時代の幕開け……………	84
四・十四・空襲による被害……………	57	①東海道本線……………	84
五・昭和後期の長田		②山陽本線……………	85
五・一・終戦による混乱の時代……………	58	③民鉄……………	86
五・二・長田区の誕生……………	59	④市電……………	87
五・三・長田港の建設と埋め立て事業……………	60	⑤神戸市営地下鉄……………	88
五・四・都市部の開発と公共施設の建設……………	61	七・二・長田区の鉄道駅……………	90
五・五・住民たちの運動……………	62	①JR西日本……………	90
五・六・「西の副都心」としての発展……………	63	②神戸高速鉄道……………	90
五・七・区民生活の充実に向けて……………	65	③山陽電鉄……………	91
六・平成を生きる長田		④神戸電鉄……………	92
六・一・区民とともに歩むまちづくり……………	68	⑤市営地下鉄(西神・山手線)……………	94
六・二・震災を乗り越えて……………	69	⑥市営地下鉄(海岸線)……………	95
長田区年表(明治〜現代)……………	74		

第二章 長田区内の遺跡・史跡

一・長田区内の遺跡調査から……………	96	二・二・苅藻川(かるもがわ)……………	102
一・一・上沢遺跡……………	97	二・三・源平勇士の碑(げんぺいゆうしのひ)……………	103
一・二・五番町遺跡……………	97	二・四・高福寺(こうふくじ)……………	103
一・三・三番町遺跡……………	98	二・五・駒林神社(こまがばやしじんじゃ)……………	104
一・四・長田神社境内遺跡……………	98	二・六・卅六橋(さいろくばし)……………	104
一・五・長田南遺跡……………	98	二・七・常福寺(じょうふくじ)……………	105
一・六・御蔵遺跡……………	98	二・八・大国公園(だいくこくこうえん)……………	105
一・七・神楽遺跡……………	99	二・九・鷹取カトリック教会(たかとりかとりっくきょうかい)……………	106
一・八・御船遺跡……………	99	二・十・高取山(たかとりさん)……………	107
一・九・水笠遺跡……………	99	二・十一・平忠度腕塚・胴塚(たいらのただのりうでづか・どうづか)……………	108
一・十・松野遺跡……………	100	二・十二・平盛俊塚(たいらのもりとしづか)……………	108
一・十一・二葉町遺跡……………	100	二・十三・長福寺(ちょうふくじ)……………	109
一・十二・若松町遺跡……………	101	二・十四・天神山(てんじんやま)……………	109
一・十三・長田野田遺跡……………	101	二・十五・徳本上人六字妙号石(とくほんしょうにんろくじみょうごうせき)……………	110
二・長田区内の史跡……………	102	二・十六・長田神社(ながたじんじゃ)……………	110
二・一・海泉寺(かいせんじ)……………	102		

二一十七・菅公匂いの梅旧跡(かんこうにおいのうめきゅうせき)……………	111
二一十八・西代の楠(にしだいのくすのき)……………	112
二一十九・蓮の池跡(はすのいけあと)……………	112
二二十・福聚寺(ふくしゅうじ)……………	113
二二十一・宝満寺(ほうまんじ)……………	113
二二十二・丸山衝上断層(まるやましやうじょうじょうだんそう)……………	114
二二十三・満福寺(まんぷくじ)……………	115
二二十四・御船山旧跡(みふねやまきゅうせき)……………	115
二二十五・明泉寺(みようせんじ)……………	116
史跡分布図(No1〜4)……………	117
三・長田区内の文化財から	
三ー一・黒漆金銅装神輿(こくしつこんどうそうみこし)……………	121
三ー二・木造大日如来坐像(もくぞうだいにち)	

三ー三・長田神社古式追儼式 附 鬼面 7面 (ながたじんじやくしきついなしきつけたりきめん)……………	121
三ー四・長田神社のクスノキ 2本……………	124
長田区の文化財一覧 (平成16年4月1日現在)……………	125
<b>第三章 長田の町名</b>	
一・北部地域(雲雀ヶ丘く平和台町)……………	130
二・中部地域(重池町く二番町)……………	145
三・南部地域(一番町く駒ヶ林南町)……………	159
長田区の町別面積・人口 (平成16年4月30日現在)……………	178
五十音順索引……………	185

## 第一章 長田の歴史

### 一・古代の長田地方

#### 一・一・長田の地名

長田区は神戸市の旧市街地の中央西寄りに位置し、東は兵庫区、北は北区、西は須磨区に囲まれている。東西約三キロメートル、南北約六キロメートルの区域に、約十万人の区民が生活している。

神戸の旧市街地は東西に続く大阪湾の北岸と、それに平行して走る六甲山地にはさまれている。その中央部に和田岬があって、岬の東の入り江は古代には大和田泊、中世以降は兵庫の津と呼ばれた瀬戸内海航路東端の要港で、これが神戸港の母体であった。和田岬の西方は、山と海にはさまれた神戸で最も広い平地が広がっている。その平地を高取山から流れ出す荊藻川が潤し、弥生時代から農耕社会が発展していた。神戸地域で最も広く長い田の広がる地域ということから、「長田」という

地名が起ったようで、この地名は『日本書紀』にも記されているから、奈良時代以前にさかのぼる古い地名である。

#### 一・二・高取山

高取山は江戸時代までは主に鷹取山と記され、さらに古くは「神撫（かなで）山」と呼ばれていた。カンナデとはカンナビ（神奈備などの字が当てられる）、つまり神を祭る丘や神体山を意味する言葉が訛ったものだと思われる。長田神社境内の高取山揺拝所の存在は、この山が信仰されていたことの名残だろう。高取山は六甲山地の山頂を結ぶ線からは南に張り出しているため、今でも晴れた日には芦屋川の土手や大阪のビルの上からも見えることがある。遙かに見えるこの三角の独立峰の山容も、古代の神体山をしのばせてくれる。

長田神社に関しては、天神山から神が来臨したという伝説があって、天神山は神体の高取山を祭る場所であったとも考えられ、また、伝説の天神山

は、現在の天神山ではなく美しい山容を持つ現在の丸山を指すのではないかとも考えられている。いずれにせよ、弥生時代から発展してきた長田の農耕社会で、人々が豊作を祈った対象が高取山であり、神社の形に集約された信仰対象が長田神社であった。◆



昭和5年頃の高取山全景

### 一・三・苅藻川

高取山から流れ出す苅藻川は、『平家物語』や『増鏡』にも記される古い川名である。平地が広く傾斜が緩やかな地形では、海中も遠浅で、引き潮の時には貝や海藻が採れた。苅藻川というのは、そのような事情を反映した名であつたらう。が、その上流には「桧川」や「氷谷」という地名が残されていて、もっと古い時代には「ヒのカワ」と呼ばれていた可能性がある。「ヒのカワ」のヒは、穀物を実らせる土地の靈力という意味で、靈力のある川を意味する「ヒの川（日野川・斐川・簸川などさまざまに記される）」は、西日本各地に分布している。兵庫県下最大の加古川もその上流を「ヒの上（氷上）」といい、下流域で神を祭る丘を「ヒの丘（日岡と記す）」と呼んでいて、古くは「ヒの川」だったと説かれる。なお、後述するように、明治三十四（一九〇一）年に東方にあった湊川が付け替え工事によって苅藻川に流し込まれると、新設の水路だけでなく合流点か

ら下流も「新湊川」と呼ばれるようになって、苅藻川の名は合流点より上流のみを指すようになった。

#### 一・四・長田のクニと念仏山古墳

弥生時代の日本の農耕社会クニの分立状態を、中国の史書は「分かれて百余国」と記している。長田にあったそのような地域を『日本書紀』は長田の国と記したのである。当時の支配者が権威のシンボルとしたのが青銅の剣や鉾・銅鐸などだった。やがて経済が発展しクニが拡大して、大きな権力を持った支配者たちは古墳を築き出す。長田でも念仏山古墳や大塚と呼ばれる古墳が築かれた。

#### 念仏山古墳は苅藻通七丁目から浜添通六丁目あたりにあった全長二〇〇メートルほどの前方後

円墳で、大正元年（一九一二年）にここから出土した鱒付きの円筒埴輪が兵庫県立歴史博物館に保存されている。喜谷美宣氏は出土品から、この古墳を四世紀後半のものと推測される。大和を中心に作られた鱒付円筒埴輪が出土することから、当

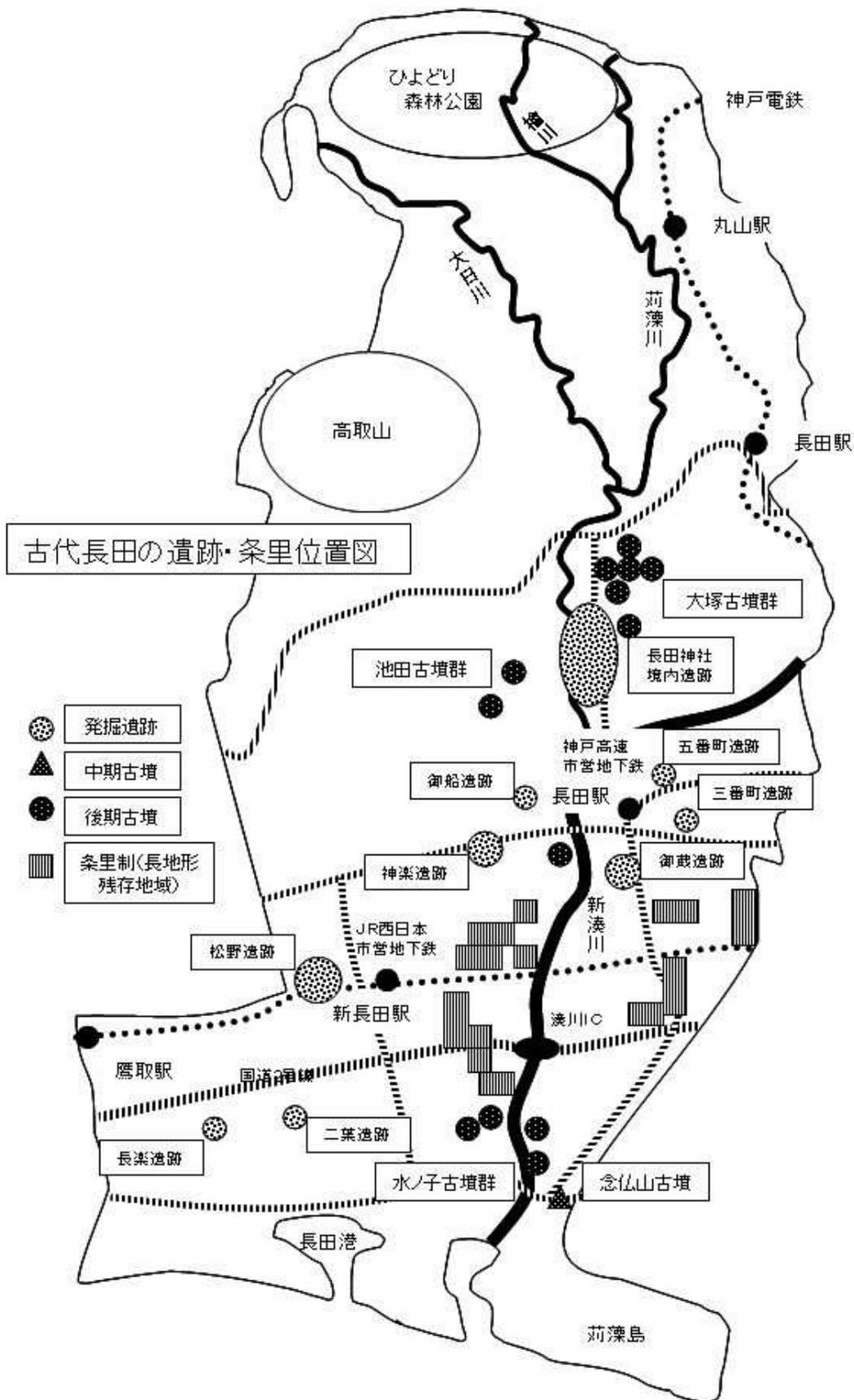
時の長田と畿内政権との関係が考えられる。この古墳は大正初期の市街地化で破壊され、全く痕跡をとどめていない。

長田区内には、このほか大塚町に規模の大きな古墳があり、池田広町には前方後円墳と思われる野々内古墳、駒栄町には雀塚（小水の子古墳）と大水の子古墳という円墳、形状は不明だが苅藻通の櫛塚などの古墳があった。大塚町や明泉寺町や池田寺町の丘陵地帯にも後期古墳と思われる遺跡の報告があるが、すべてが市街地になって

跡形もない。◆



念仏山古墳想像図



古代長田の遺跡・条里位置図

## 一・五・大和朝廷の勢力下へ

長田神社を神功皇后が創建したとする伝説も、古代の長田のクニが大和政権の勢力下に組み入れられたことの反映であろう。九州から畿内に帰還した神功皇后の船団は、武庫の水門を出て浪速の津に向かおうとしたが風が凪いで動けなくなってしまった。皇后が占うと天照大神と稚日女の神と事代主尊が、それぞれを広田の国・活田の国・長田の国に祀れと信託を下された。こうして皇后が創建したのが西宮市の広田神社、神戸市の生田神社と長田神社だと伝えられている。在来の長田の神の祭祀権を大和政権にささげてその服属を誓い、この時、高取山を神として崇めてきた従来神の神祭りが、事代主尊を祭神とするようになったのだと考えられている。事代主は、もと大和国葛城山麓に祭られていた神であった。大和政権から派遣されてきた新たな支配者の神を受け入れていたのである。

## 奈良時代の『法隆寺流記資財帳』によると、西

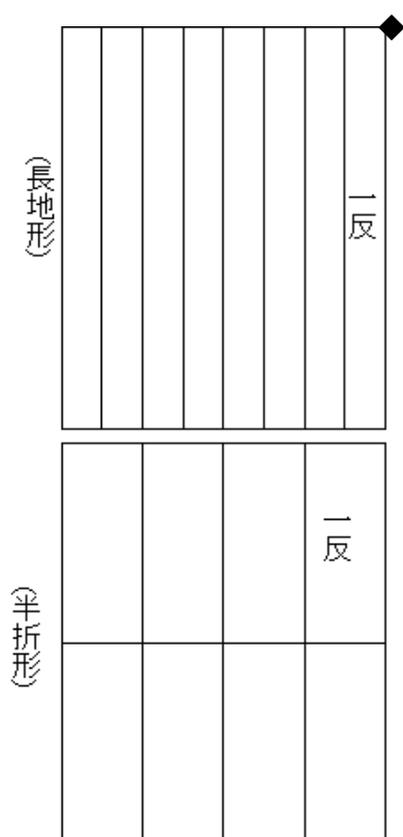
摂地方に勢力を張った凡河内氏の立てた寺が会下山の西方にあったようだが、これも、大和・河内の政権が長田地方にまで支配力を及ぼしたことの反映かもしれない。房王寺や寺池という地名は、この凡河内氏の寺に関わりのある地名だと考えられる。

## 一・六・大化の改新と条里制

大和政権は配下に入った豪族の首長に「姓」と呼ばれる称号を与えて、統一を進めていった。三世紀に漢が滅亡した後、分裂していた南北朝時代の中国で、西暦六〇〇年前後になって隋や唐などの強力な国家が成立すると、日本にも氏姓制度を克服して中央集権的な国を作ろうという人々が現れる。聖徳太子による政治改革が挫折した後、六四五年に蘇我入鹿を倒して政権を握った中大兄皇子や中臣鎌足は大化の改新と呼ばれる改革を推進していった。全国は国に分けられ、その下に郡が置かれ、五〇戸からなる地域社会は里と呼ばれた。

公地公民の原則の上で、班田収授が実行され、租庸調などの税が徴収された。

このころ開墾とともに条里制と呼ばれる土地区画が行われた。耕地を六町（約六五〇メートル）間隔の太い畦で縦横に区切り、例えばその横の列を「条」と呼ぶと、縦の列を「里」と呼んで何条何里と称して座標のように位置を示した。六町四角の耕地をさらに縦・横に六等分して三十六区画に分け、「坪」と呼び、これをさらに十等分したものが一反である。十等分する地割の方法には、「長地形」と「半折形」の二種類があった（図を参照）。



長田地域で見ると、大化の改新前の「長地形」の地割の広がりには苅藻川流域に限られ、それより東西の土地はいずれも大化の改新以後の「半折形」の地割に変わっている。このことから、苅藻川流域に広がっていた耕地を中心に、改新後にその東西の地方が開発されていったと落合重信氏は指摘している。

新開地の西から長田の地域には、碁盤の目状の整然とした町並みが作られている。この近代的な町並みは、古代の条里制の地割りを元に建設されたと考えられている。

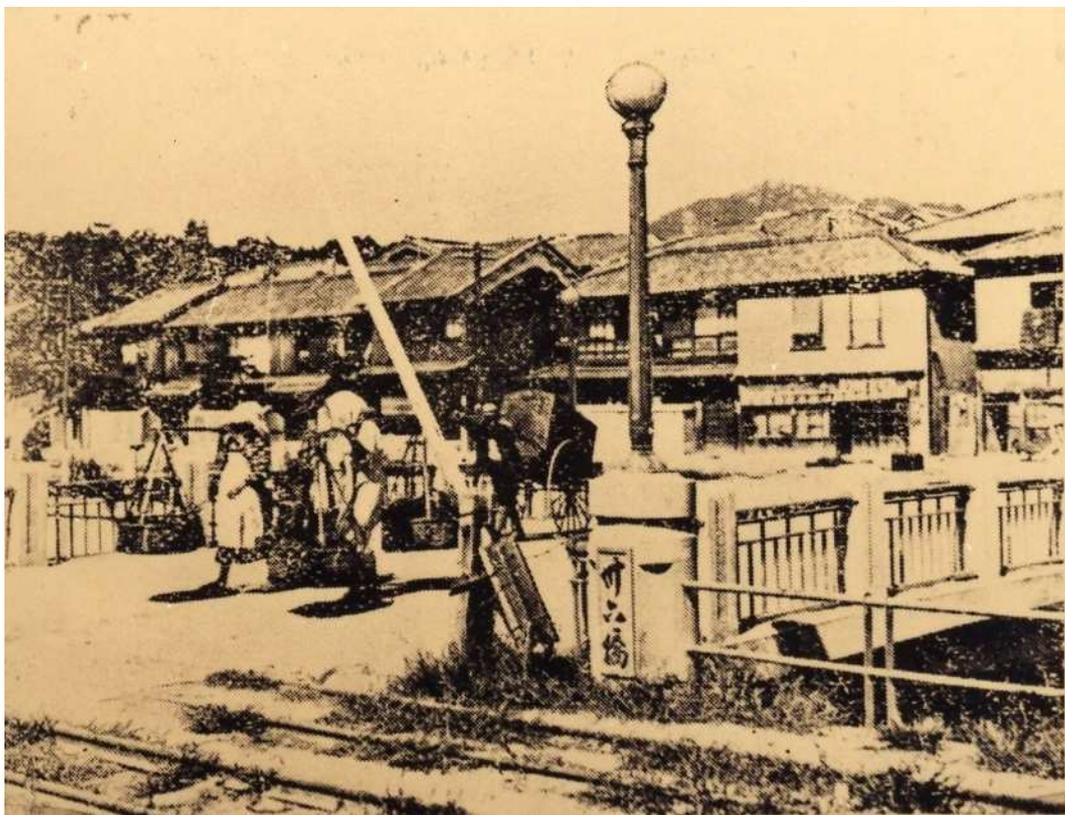
町名改正以前に残っていた小字名の中で、旧長田村地域にあった上卅六・下卅六・一ノ坪・二ノ坪、旧東尻池村域の二ノ坪・三ノ坪・四ノ坪・六ノ坪、旧西尻池村域の六ノ坪・一ノ田・十五ノ坪、旧駒ヶ林村域の九ノ坪・東五ノ坪・西五ノ坪、旧野田村域の市ノ坪などは、条里制の坪付けの呼称の名残だと思われる。この卅六は「さいろく」と読み、三十六の坪のことで、他の字名が全て消えてしまった

今も条里制の名が残る寺池町の「三六橋」

◆ 今も寺池町南西端の新湊川に架かる橋の名に残っている。



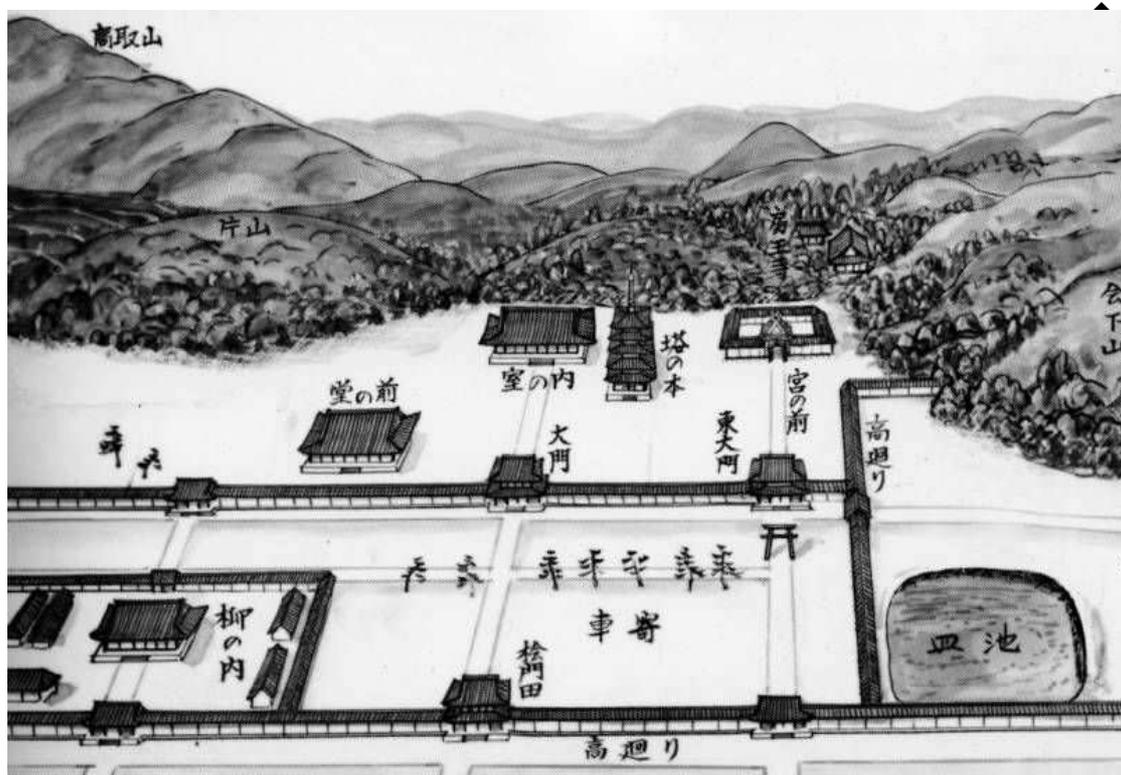
現在の「三六橋」



昭和初期の「三六橋」

### 一・七・律令制の確立と長田

大化の改新の後、律令国家が成立して国郡里の地方制度が整備される。旧湊川筋（現在の新開地本通から兵庫区役所の線）から須磨までの地域は、平安の初めごろまでは「摂津職、雄伴郡」とされた。その郡役所所在地つまり郡家は、今の室内小学校のあたりだと考えられている。室内はこの地域の旧字名「室ノ内」だが、これは「館（ムロツミ）」から来たもので、同小学校敷地からは土地整備が行われた時、白鳳時代の瓦が出土している。この地域には、塔ノ本、房王寺、宮ノ前、鳥居前、車寄、高廻り、桧門田、東大門、大門、堂ノ前などの旧字名があった。明治三十年代の新湊川開削の時に、ここからは古い寺の礎石が出土した（現在、丸山中学校の校門脇に保存）。これが地名に残る房王寺だとする、一帯には郡役所や寺院があったことになる。



旧字名による郡家の復元



## 一・八・山陽道と蓮の池

律令国家は、交通制度を整え道路を整備した。

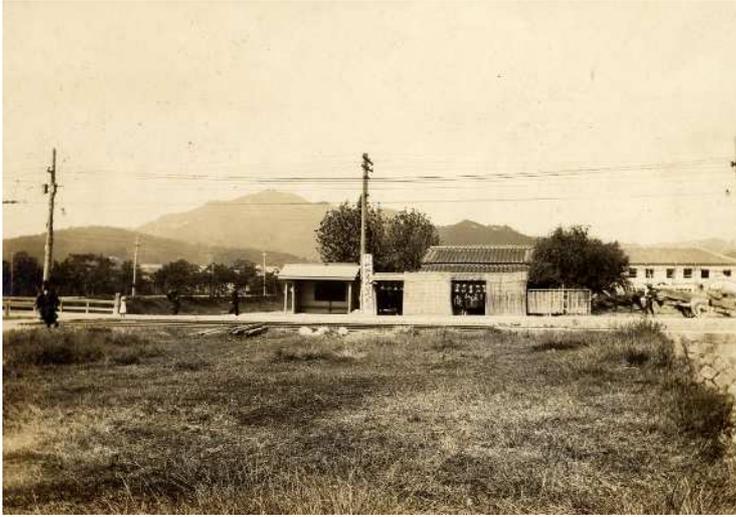
畿内から東には、東山道・東海道・北陸道が、また、西方には山陽道・山陰道・南海道・西海道の七道が建設された。このうち最も重要で「おおみち」と呼ばれた山陽道が、六甲山地と大阪湾岸にはさまれた神戸地方を貫いていた。道は古くは、上筒井から生田川を渡り、北野から諏訪山の南麓に来るとそこから南に下がって、今のモダン寺付近から直線状に西へ進み、旧湊川を渡ると兵庫区の中道（現在の「中道通」）を三番町と四番町の間を抜け、長田交差点から須磨の駅へと西に向かうものであった。長田区内にはここに今も大道通の名が生きている。

この山陽道の北にあった蓮池は今は埋め立てられて文化体育館などが建てられているが、町名や小学校名にその名を残している。江戸時代の記録では蓮池は四町二反（四ヘクター余り）の広い灌漑

池で、古くから奈良時代に行基が土地の農民を指導して造ったと伝説されてきた。西代、大谷町の常福寺には、行基が蓮ノ池を造った時に池の水門や水路に使った余材で刻んだと伝える板卒塔婆一〇基が保存されている。常福寺は、古代にこのあたりにあった蓮華寺が廃寺になった時、蓮華寺にあつたものを引き継いだのである。山陽道沿いの蓮ノ池は、荊藻川などとともに『平家物語』『増鏡』『太平記』など古典文学にしばしば描かれてきた。『平家物語』『重衡生捕』の条では、生田の森の副将だった平重衡が負け戦で馬に乗って西へ逃げていく道筋を「湊河・かるも河をもうちわたり、蓮の池をば馬手にみて、駒の林を弓手になし、板屋ど・須磨をもうちすぎて、西へさいてぞ落ちたまふ」と描写している。

古代の山陽道は、やがてもう少し南に付け代わり、中世以降に兵庫の港町が栄えると、元町通を通過してJR神戸駅付近から兵庫の津に向かって南

下して湊川を渡り、湊八幡神社の南側で兵庫の町に入り、南仲町で直角に曲がって柳原蛭子神社と今の福海寺の間で町から出はずれ、そこからはかつての山陽電鉄の路線に沿って長田交差点に至り、そこで元の山陽道に合流して直線で須磨に向かうようになり、近世には西国街道と呼ばれていた。



大正9年頃、長田交差点から西に向かう山陽道(西国街道)

#### 一・九・平安時代の長田の郷

平安時代前期に編纂された『倭名類聚鈔』は百科事典的な辞書で、その中には全国の国・郡・郷(里)を書き上げた節がある。これによると十世紀前半の摂津国の八部郡は、旧生田川筋を菟原郡との境界とし、西は須磨までだった。郡内には、東から生田郷(中央区生田町のあたり)・神戸郷(元町駅一带あたり)・宇治郷(宇治川周辺)・八部郷(兵庫区から長田区東部)・長田郷(長田区を中心)に須磨までの五郷が記録されている。

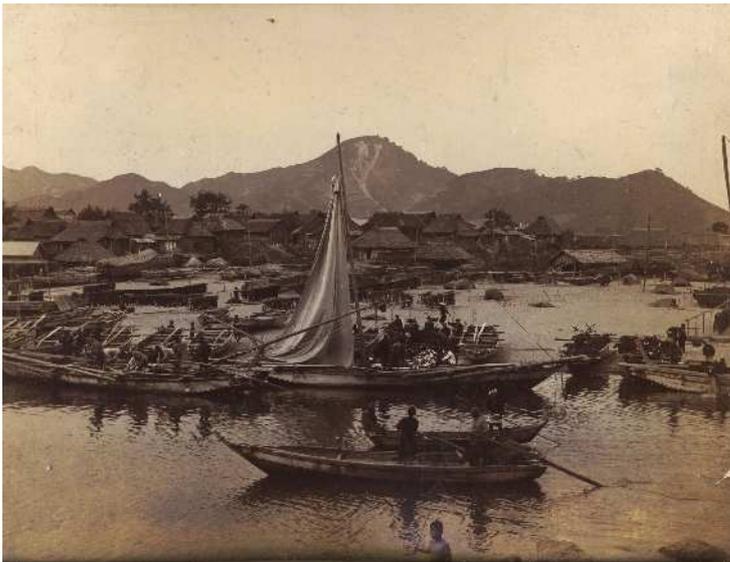
須磨という郷がない。須磨は当時、塩焼きや漁業をする海人たちがわずかに住む僻地で、独立する郷ではなかった。在原行平と松風村雨の伝説や『源氏物語』は、そのような須磨の様子を伝えているわけである。そのために、旧西須磨村の地域は今も長田神社の氏子地であり、長田神社に残されている鎌倉時代の古文書が多井畑や須磨を氏子地だと記しているのである。

奈良時代以前の瀬戸内海航路の終着港だった浪速の津に向かう途中の停泊地だった大輪田泊の重要性が増していった。平安時代には、しばしば朝廷は大輪田泊の修築を行っている。長田区内には「匂いの梅旧跡」と梅ヶ香町・菅原通など、菅原道真にちなむ地名がある。伝説では、道真が太宰府へ左遷される途中、大輪田泊に上陸し、梅の匂いに誘われてこの地に来られ見事な梅の木を見つけたという。◆



菅公匂いの梅旧跡

また、平安時代末期の治承三（一一七八）年六月九日には平清盛が宮島参詣の途中、唐船で大輪田泊を出て和田岬をまわり「小馬林」に上陸したと『山槐記』が記している。長田は大輪田泊の西はずれで、漁村の駒ヶ林がまた時に船泊まりとして利用されたことも考えられる。◆



明治27年頃の駒ヶ林の漁業と高取山

## 一・十・福原遷都、和田京の計画

十二世紀の半ばに起こった保元・平治の乱を通じて政治の実権を握った平清盛は、兵庫区平野の南にあった福原の荘を好み、しばしば来住した。また、その南の大輪田泊に注目して、沖合に築島（経が島）を建設して防波堤がわりとし、港の安全性を高め、今の神戸港の発展の基礎を作った。やがて清盛は現在の神戸の地に都を遷すことになった。

一一八〇年六月二日、平清盛の福原遷都が実行されて、清盛の孫の安徳天皇をはじめ高倉上皇や後白河法皇などが福原にあった平家一門の邸に入居した。安徳天皇の御所は平頼盛の館（今の荒田八幡神社の地）、上皇は清盛の雪見の御所（雪の御所町）に入った。間もなく新しい都としての町造りが始まった。この町は『平家物語』によると「和田の松原の西の野を点じて、九城（条）の地をわ（割）られける。一条よりしも（下）五条までは其所あって、五条よりしもはなかりけり」とあり、首都

建設は福原ではなく、和田岬の西を起点に、つまり長田地方に建設されたことがわかる。『玉葉』にも「左京条里不足事：右京平地不畿事」と書かれていて、平地の狭い神戸では京都のように九条分の都市計画ができなかったことがわかる。現在の四番町四丁目に「西野」という字名があって、ここに御所を想定し山陽道を朱雀大路として、先に述べた八部郡の条里の方向と平行して碁盤目状の都城計画を描くと、左京はちょうど五条で海岸になり、右京は山地に接するから、先の記述通りである。大正時代に『神戸市史』編集に当たった喜田貞吉氏はこうした神戸の都を復元し、和田岬の西なので仮に和田の京と名づけた。和田の京の建設中の同年八月に関東で源頼朝が平氏打倒の兵を挙げ、九月には源義仲が木曾で挙兵し、十月に富士川の戦いで平氏が敗れると、清盛は同年末には都を京都へもどさねばならなくなった。



平相国廟（兵庫区）



福原遷都八百周年記念之碑（兵庫区）

## 二・中世の長田地方

### 二・一・一ノ谷の戦いと長田

平安京にもどった清盛は翌年の一一八一年早々から熱病にかかり、閏二月四日に没した。源頼朝は鎌倉を拠点に関東の経営を進めるが、源義仲は木曾から北陸に出て、京に向かって軍を進めた。俱利伽羅峠や篠原で敗れた平家は、一一八三年に義仲軍の接近で京都から都落ちして、屋島に逃れた。しかし、都に上ぼった義仲勢は貴族社会と対立し、義仲を討ちに関東から頼朝勢が進軍することなる。頼朝勢は頼朝の弟・範頼と義経に率いられて年末には東から京に迫った。この源氏の分裂を知った四国の平家は、都奪回の好機だと屋島を発ち、神戸に戻ってきた。東の砦を生田神社の森に、西の砦を須磨一ノ谷に設けてその間の福原・兵庫・板宿・須磨に平家軍十万が陣取ったと『平家物語』は記している。この数字には大幅な誇張があるだろうが、翌寿永三(一一八四)年一月下旬に平

家の布陣は完了した。ちょうどその頃、都の東方で源氏の両軍は激しく戦い、近江の粟津で義仲は討ち死にし、勝利をおさめた範頼と義経は京都に入った。彼らは神戸に陣取る平家軍を討とうと、さらに軍を西に進めた。二月四日に京を発った源氏は軍を二手に分け、範頼は山陽道を進んで生田の森に向かい、義経は山陰道から篠山盆地の南を通って三草の峠を越え加古川筋を南下、三木から明石方面に出て海辺を一ノ谷に向かった。こうして、二月七日に一ノ谷の戦いが起こるわけである。

### 二・二・鶴越の坂落し

一ノ谷の戦いでは、源義経の鶴越の坂落しが勝因とされる。ただ、坂落しが行われた場所については、兵庫・長田の北の鶴越か、須磨の一ノ谷の北かの二論があった。これは、神戸では鶴越という地名は北区山田町から兵庫・長田の北方に出る山越え道のことなのだが、『平家物語』では「一ノ谷の北方にある鶴越」といくども記しており、今の一ノ谷は須磨



鴨越付近から市街地を見下ろす



昭和5年頃の明泉寺(大日寺)



名倉町にある平盛俊の碑

浦公園の一面にあるためである。神戸の地理勘からいうと兵庫・長田の北なのだが、『平家物語』の記述を信ずると須磨の背山ということになるのである。従来から、川辺賢武氏や落合重信氏は生田の森と一の谷で東西の防御を固めた平氏に対し、義経が中央突破を試みたのが鴨越の坂落しで、その位置については、現在の西神戸有料道路の中にある丸山大橋付近を推定されている。◆

◆ 鴨越道の本道は夢野に下りており、東の支道は鳥原から石井方面に出ていたが、義経軍は鴨越の西の支道つまり急に眼前がひらけて駒ケ林まで一望できる明泉寺の谷を駆け降りたとされた。今の名倉町にあった平盛俊の陣に攻め込んだとするのである。古い明泉寺は源平合戦で焼失したと伝承されてきた。

筆者もこの説を採る。それではなぜ『平家物語』が「一ノ谷の後ろなる鶴越」と記したかについては、『平家物語』などが一ノ谷という地名を広狭二義に使ったからだと考えている。狭義の一ノ谷は須磨浦の一画だけれども、広義には一ノ谷という言葉を須磨から生田の森に至る神戸の旧市街地全体を指すためにも使っている。このことは、三ノ宮方面から須磨までを戦場としたこの日の戦いを一言で一ノ谷の戦いと呼んでいることで否定できない。とすると、一ノ谷の後ろを広義に考えると、神戸の旧市街地の北方ということで鶴越を兵庫・長田の背山と見て（須磨の背後と考えなくても）なんら問題はないのである。この奇襲作戦で、平家は混乱し敗退する。東方の生田方面とともに、須磨・長田一帯も主戦場だったことを物語る石碑などが区内には数多い。明泉寺には平知章の、名倉町には平盛俊の碑があり、村野工業高校の西には「源平勇士の碑」という場所があって、平通盛・平知章、源氏方の猪俣小

平六・木村源三則綱・木村源吾重章などを記念する碑が並んでおり、その東方の四番町八丁目には平知章を救おうとして討死にした家来・監物太郎頼方の碑がある。狭義の須磨一ノ谷の將軍・平忠度は東方に押されて右腕を切り落とされて戦死したが、駒ヶ林には平忠度の腕塚と胴塚と伝える供養の場もある。◆

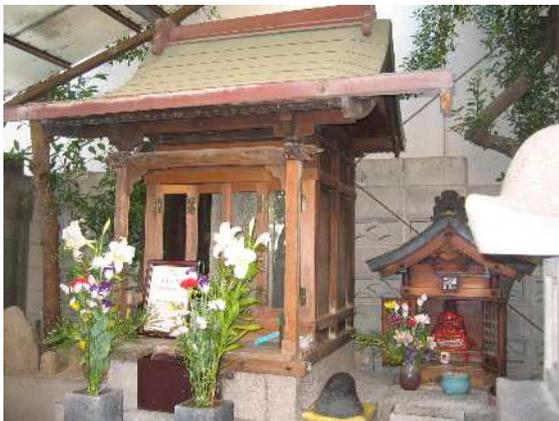


平知章の墓（明泉寺）

長田区における源平関連史跡



平盛俊の墓



監物太郎の墓



源平勇士の碑

長田区における源平関連史跡



平忠度の腕塚堂



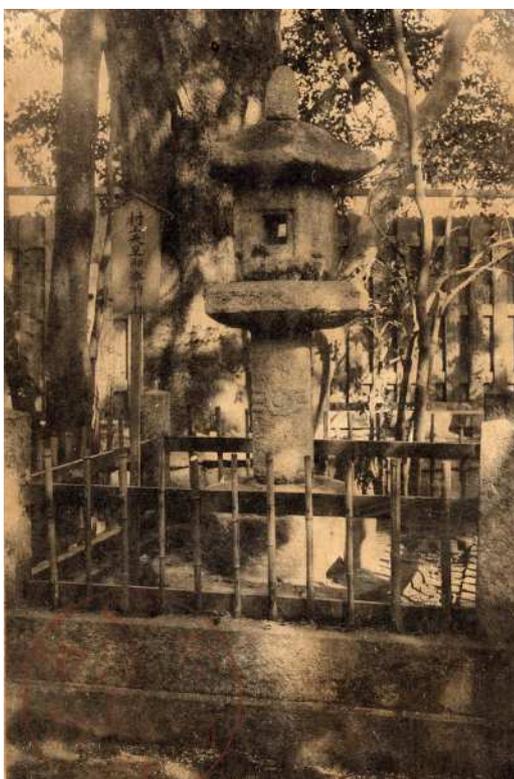
平忠度の胴塚

## 二・三・鎌倉時代の長田地方

十世紀前半の承平・天慶の乱以来、平忠常の乱や前九年・後三年の役などと辺境での混乱が続いた平安中期以降、律令国家は動揺した。十二世紀半ばには都を戦場とする保元・平治の乱も起こったが、十二世紀末の源平合戦で源頼朝が覇権を握ると、鎌倉時代には百年あまり世の中は落ち着いていた。牛の力や金属の鋤や鍬による耕作も普及し始め、開発が進み農業生産が上り、各地の物産が流通するようになった。

源頼朝は政治の中心を鎌倉に置いたため、清盛と違って神戸方面にその足跡をほとんど残しておらず、この時代を通じて長田地方に関する特筆すべき事項は少ない。それでも平安時代以前に記録に現れた長田や駒ケ林、須磨・多井畑・板宿に加えて、貞応元（一二二一）年の長田神社の古文書に中村（西尻池）・尻池村（東尻池）・野田村などの地名が記されていて、鎌倉時代に長田区の地域で

開発が進んでいったことをうかがわせてくれる。また、長田神社には、弘安九（一二八六）年の銘が刻まれた石燈籠が残されている。その前年の弘安八年の八月には奈良の西大寺を再興した叡尊がやって来て、和田岬の西にあった安養寺で女人一七八〇人に教えを説いている。この安養寺は江戸初期に西尻池村に移り、元禄のころまではあったがいつしか廃寺となった。◆



昭和 11 年長田神社石燈

## 二・四・南北朝時代

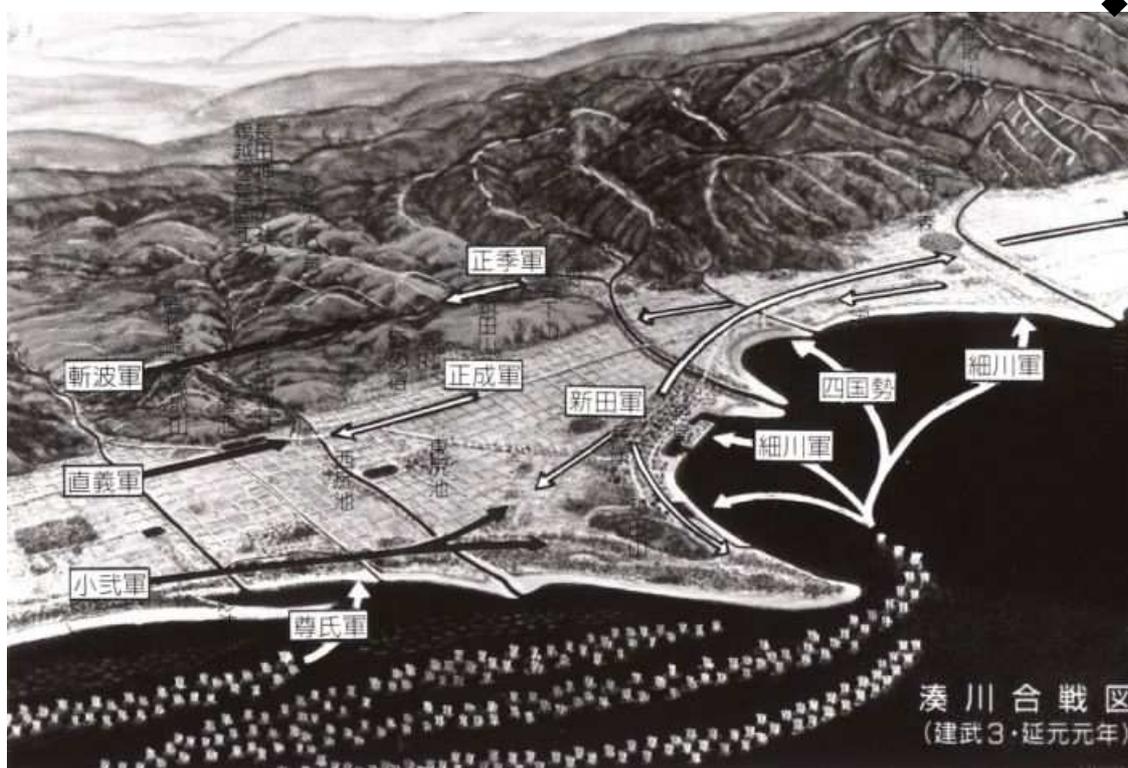
南北朝時代に入ると、長田地方は再び歴史の記録に現れるようになる。鎌倉末期の元弘元（一三三一）年、幕府を倒そうとした後醍醐天皇の計画は失敗し、天皇は隠岐の島に流される。途中通った道筋を語る『増鏡』第十六は、「生田の里をば訪はで過ぎさせたまひぬ。湊川の宿に著かせたまへるに」と記述している。落合重信氏は、この山陽道沿いの「湊川の宿」を『太平記』『梅松論』の記述などと考え合わせて、古代の摂津国八部郡の郡家のあと、つまり今の会下山西方にそのころあった集落のことだと推定している。この後天皇は隠岐につくが、翌年には畿内周辺で幕府に対する蜂起が始まり、元弘三（一三三三）年になると西播磨の赤松円心なども挙兵した。赤松勢は摂津に軍を進めて摩耶山城に入って、拠点としたため、同年閏二月、幕府方の六波羅勢は京都から摩耶山城攻撃に向かった。この摩耶山城というのは山上の天城寺を利用

したもので、幕府軍は石屋川方面から六甲八幡付近を通って、急坂を攻め上ろうとした。赤松勢は少数だったが地形をよく心得て大軍を愚弄し、幕府軍はほうほうの体で京に逃げ帰ったと『太平記』は記している。

そのころ隠岐を脱走した天皇は伯耆にもどって名和長年らに助けられ、京にもどろうと因幡から播磨に出、姫路の書写山円教寺や加西の法華山一乗寺を経て五月末には兵庫に入り、数日間福厳寺に滞在した。この時、赤松円心や楠木正成が天皇に合流し、関東の新田義貞からは鎌倉幕府を滅ぼしたという書簡が届いている。すでに六波羅は足利尊氏が抑えており、天皇は兵庫から京にもどっていった。こうして建武の新政が始まる。

しかし、後醍醐天皇の復古的な政策は多くの武士の支持を失い、建武二（一三三五）年には関東で中先代の乱が起こった。この乱を鎮めた足利尊氏が関東で蜂起し、翌年一月には京都に攻め上った。

この時、後醍醐天皇方に敗れた尊氏は兵庫の逃れ、また上洛しようとして東進したが、二月に芦屋の打出で京から来た楠木正成らと戦い、兵庫に帰って九州方面へと軍を退けた。やがて勢力を拡大した尊氏は四月には九州を発って都に向かって、再び軍を東に進めた。楠木正成や新田義貞がこれをくい止めようと、尊氏と戦ったのが兵庫の湊川の戦いである。この延元元（一三三六）年五月の湊川の戦いでは楠木正成は会下山に陣取ったと伝えられている。山陽道を進んだ足利方の陸上部隊は、これを西と北の二方向から攻撃した。つまり、須磨方面からと、また高取山裏手の鹿松峠経由で鶴越方面とから攻めたのである。足利方の水軍が海辺に陣取った新田軍と楠木軍の間に上陸したため、正成たちは三方から攻撃されて孤立した。この時、長田神社の社人たちは、後醍醐天皇側についていたと、古文書は記している。



長田地方における湊川合戦復元図

湊川の戦いに勝った尊氏は入京し、後醍醐天皇を幽閉して別の天皇を擁立して建武の新政は挫折した。同年末、後醍醐天皇は京都を出て吉野に入り皇位を主張したため、南北朝時代が始まった。二年後に尊氏は京都の朝廷から征夷大將軍に任命されて、足利幕府が成立し、六十年におよぶ動乱の時代に陥った。

十四世紀半ばには南朝方は弱体化するが、そのころ北朝方で尊氏とその弟・足利直義とが対立したため、天下三分という混乱となった。観応二（一三五）年二月七日、芦屋・西宮に陣取る直義と、御影に陣取った尊氏は激しく戦い、尊氏軍は敗走して兵庫を通り須磨の松岡城に逃げ込んだ。大手町九丁目にある勝福寺と背後の丘を利用した松岡城で、消沈した尊氏は切腹を決意したが、この時は直義方と和議が成立して京都にもどっていった。

山陽道に沿い瀬戸内海の港もある兵庫の近在は交通の要地だったため、このころしばしば日本史の表舞台となっている。区内にあるこの時代の文化財のひとつが、高取山登山口の石の鳥居の側にある南北朝時代か室町初期のものと思われる石造宝篋印塔で、これは山陽道と白川に至る山道の岐路にこのころ通行安全のために建てられたものと思われる。また、長田神社

にある神輿は、昔から源頼朝が奉納した物だと伝えられてきたが、昭和四十四（一九六九）年、重要文化財の指定を受けた時の鑑定で南北朝時代の物だと判明した。



南北朝時代の物とされる神輿

## 二・五・室町時代

十四世紀末には南朝方の勢力は衰微し、三代將軍足利義満によって南北朝は統合された。義満は京都の室町に華やかな幕府の館を造営し、十五世紀初頭からは中国の明との間で勘合貿易を始めた。兵庫の津は対明貿易の中心で勘合船の初めの三分の二は、この港から出立した。そのため、將軍もしばしば訪れた。しかし、十五世紀後半には幕勢も揺らぎ、八代將軍・義政の跡目相続から応仁の乱が起こった。兵庫県北部の但馬から播磨や摂津に勢力を伸ばそうとする山名一族と、四国から淡路・摂津に進もうとする細川勢がねらった兵庫の津には、時に西国の長門から大内氏も上陸するなど争奪的となり、文明元（一四六九）年には兵庫は焼け落ちて港の機能を失って外国船も来なくなり、兵庫に代わって泉州の堺が繁栄することになった。

戦国時代には一帯には争乱が続き、各地に城

砦が築かれた。神戸市内では中央区の滝山城や花隈城、北区の道場城や岡場城や淡河城、西区の枝吉城や福中城や端谷城などが戦国時代の城である。やがて、十六世紀後半に中部地方から台頭した織田信長が畿内にも勢力を伸ばし、中国地方の毛利勢と対立するようになる。信長は播磨に羽柴秀吉、摂津に荒木村重を送って、西方への進撃を始めた。荒木村重は伊丹城を拠点に尼崎城と花隈城を拡張して摂津を治めた。

信長の活動に対して毛利方が調略を進めたため、天正六（一五七八）年東播の三木の別所氏や荒木村重が信長に謀反を起こして毛利に付いてしまった。同年秋に信長は荒木村重のいる伊丹城を包囲し、十二月四日には部下の丹羽長秀や滝川一益に花隈城を攻撃させた。この時、花隈方と関係の深かった兵庫の津はじめ西は須磨まで、信長軍は放火略奪を行った。その間にある長田地方も戦火



花隈城跡（中央区）

に巻き込まれたことであろう。荒木方が敗れ花隈  
 が落城すると信長は、花隈攻撃に功のあった池田  
 恒興（信輝）にこの地方を支配させた。池田氏は兵  
 庫城の建設を始めたのである。◆

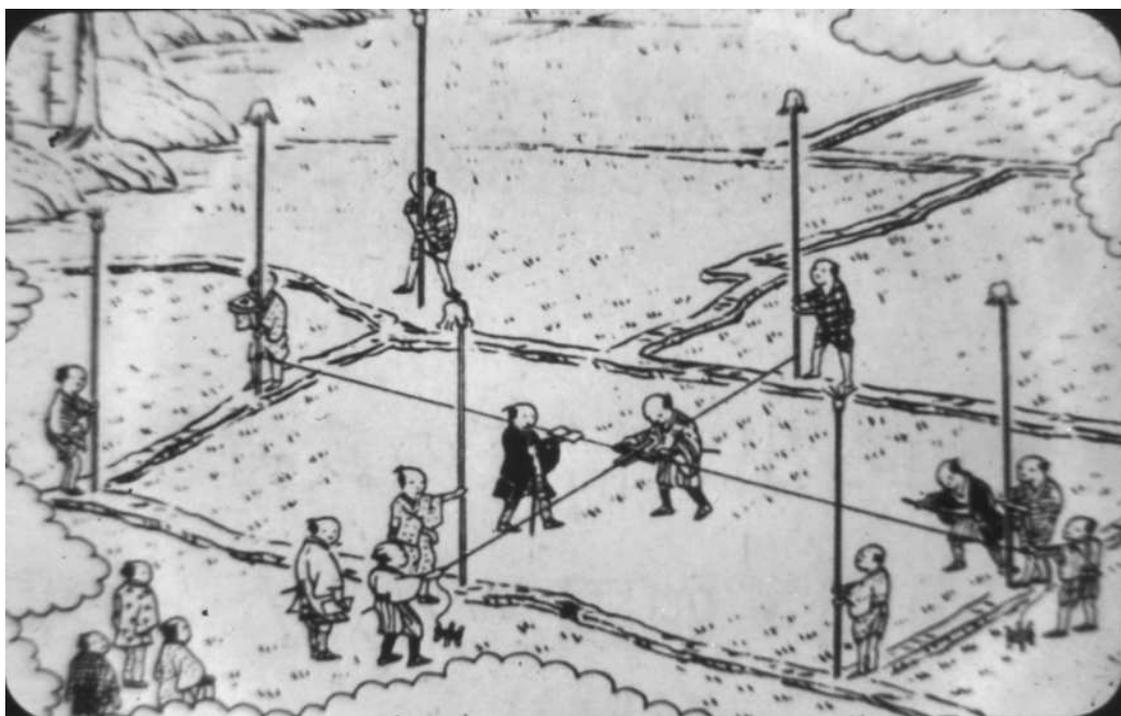


兵庫城跡（兵庫区）

### 三・近世の長田地方

#### 三・一・豊臣政権下の長田

天正十(一五八二)年に本能寺の変で織田信長が殺されると、部下の豊臣秀吉が後を継いで同十八(一五九〇)年に天下統一を実現した。このころまでに今の長田区域には、海辺に東から東尻池・西尻池・駒ヶ林・野田、苧藻川が山間から平野部に出るあたりに長田、その西の山麓部に池田・西代といった七つの村ができていた。豊臣政権は全国的に「太閤検地」と呼ばれる土地調査を行い、荘園制を完全に消滅させた。また、刀狩令などで兵農分離策をとった。有馬温泉を愛した秀吉はしばしば入湯に訪れ、有馬に館も構えていた。近畿地方の重要な都市や港や鉱山を直轄地にした秀吉は、兵庫の津周辺や長田も直轄領とし、池田氏は播磨の姫路城主として兵庫から去っていった。長田地方一帯では文禄三(一五九四)年に検地が行わ



太閤検地

れた。この時の東尻池村の検地帳が今も伝えられている。

その二年後の文禄五（一五九六）年閏七月十二日の夜半に、近畿地方を大地震が襲った。秀吉の伏見城は天守閣が倒壊し、京都や山崎・八幡・堺などの町が壊滅、大坂城は持ちこたえたが城下は崩壊した。この時の記録によると、有馬では地滑りが起こって秀吉の御殿など建物が全壊し、泉温が急騰して入湯が不可能になった。兵庫の町は建物が全壊したところに大火災が発生し、死者の数が不明であったという。須磨寺も本堂や三重の塔が倒壊しているから、長田地方も大きな被害を受けたことであろう。

### 三・二・幕藩体制の下で

地震から二年目に秀吉が亡くなり、翌年、前田利家もなくなると、徳川家康が行動を起こした。慶長五（一六〇〇）年の関ヶ原の戦いで覇権を握った家康は、三年後に征夷大將軍になって江戸幕府

を開くのである。やがて、大坂の陣で豊臣氏が滅亡すると、元和元（一六一五）年に太平の世が始まった。江戸時代の神戸の地は大ざっぱにいて、東灘から須磨までは西摂を治めた尼崎藩の配下に入り、播磨国だった垂水と西の区域は明石藩、北区の東部は三田藩の支配下に入り、重要地点は天領で、そこに旗本領が点在するという状況であった。

長田区の地域は、当初は長田・東尻池・西尻池・駒ヶ林の四か村が尼崎藩主の戸田氏鉄に与えられ、池田村と野田村は旗本領、西尻池と駒ヶ林と西代村の一部は天領であった。寛永十二（一六三五）年、戸田氏に代わって青山氏が尼崎藩主となった。この時、天領の多くが尼崎藩に与えられたが、青山氏の善政に感謝した村民が貞享元（一六八四）年に建てた報恩碑在が今も宝満寺に遺っている。青山氏は前領主の戸田氏に比べると領民に對して寛大で、凶作の年には農民を救済し参勤交代のための費用負担を軽減した。また、役人の

地方巡見の時の饗応や賄賂については厳罰を課し、  
厳正な藩政を行ったという。青山氏に対する報恩  
碑は、駒ヶ林の海泉寺や市内では大倉山の安養  
寺にも残っている。◆

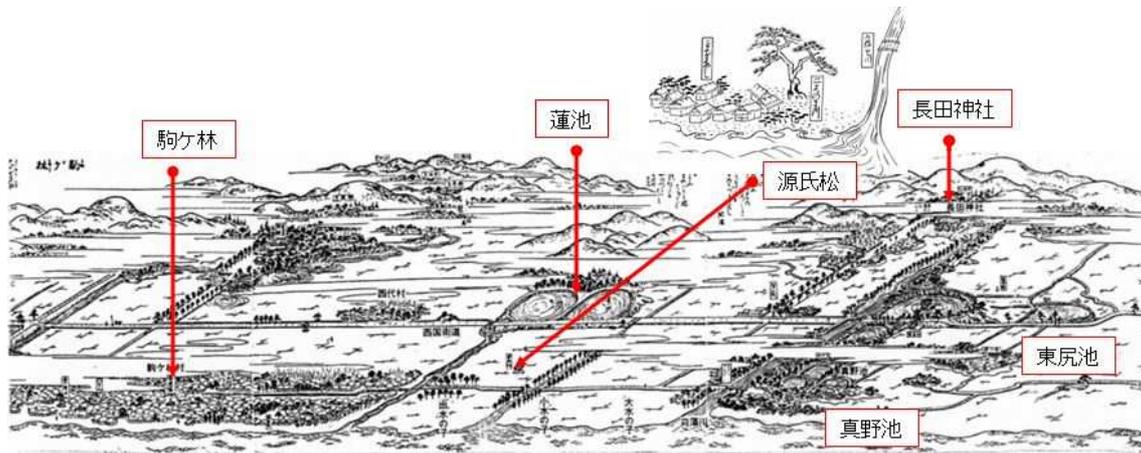


宝満寺にある青山幸利公報恩碑

### 三・三・新田開発や溜め池建設

米を経済基盤に置いた江戸時代、幕府や藩は  
新田開発と農業技術の改良を奨励した。正徳年  
間（一七一〇年前後）に和田岬西方の砂丘・和  
田山の所有をめぐって兵庫の町と東尻池村との間  
で訴訟が起こり、東尻池村の所有であることが認  
められていた。その一帯で天保四（一八三三）年か  
ら十（一八三九）年にかけて、吉田新田（現在の吉  
田町）が開発された。

山と海にはさまれ急傾斜で大河の無い神戸の地  
では農用水の確保も切実である。そのため、各地  
にため池が作られた。明治初年に作られた実測地  
図には、長田区内にも多くの池が描かれている。古  
代からの蓮池や皿池のほか、苧藻川の川口近くに  
は川尻の池つまり尻池もあったが、慶長年中（一六  
〇〇年前後）には今の名倉町に五〇〇〇坪にもわ  
たる広大な名倉池（空髭池ともいった）が築かれた。  
この池は初め東尻池村のものであった。現在の村野



江戸時代の摂津名所図会より

工業高校の敷地にあった池と、西国街道（今の中央幹線道路）の南の区役所の地にあった池とは夫婦池と呼ばれて、元は長田村の所有だった。前述の名倉池から東尻池村までは長距離の水路が必要だったため、東尻池の村人は長田村と、池の交換について話し合った。結局、夫婦池は大池・小平六池とともに東尻池村のものとなり、名倉池は長田村の所有と決められた。文政三（一八二〇）年五月の大雨では名倉池が洪水を起こし、下流に大きな被害を与えている。

村と村とは時に話し合い、時には対立した。正徳年中（一七一〇年前後）には、白川村（現在の須磨区白川）と長田・池田・東尻池・西尻池の四か村が裏山の入会権をめぐる争った。「中一里山論」と呼ばれるこの抗争では結局、長田の四か村が勝利した。この時の「山論図」が、今も白川に伝えられている。



正徳5年の中一里山相絵図

新田開発や溜め池建設、農業技術の発展による村々の石高の増加は表のとおりである。また、元禄年間各村の人口・戸数も次表のとおりである。

年号／古文書	区 分	中ノ庄長田村	中ノ庄池田村	
元和3年(1617) 摂津一國高御改帳	石高数	808石12	316石93	
	領 主	蔵入(村上孫左工門預り)	蒔田権介知行	
正保3年(1614) 正保郷帳	石高数	808石12	316石92	
	領 主	青山大膳知行	蒔田数馬知行	
享保20年(1735) 摂津國高調	石高数	852石612	320石194	
	領 主	本田中務大輔知行	蒔田和泉知行	
明治元年(1868) 旧高旧領取調帳	石高数	852石617	323石6981	
	領 主	土井大炊頭領	蒔田国之知行	
元禄3年(1690) 八部郡内村々書 出帳	戸 数	141軒	38軒	
	人 口	618人	175人	
	男女比	男293人・女325人	男84人・女91人	
	寺 院 ・ 神 社		禪宗 福聚庵 僧1名	禪宗 妙樂寺 僧1・下男1
			禪宗 長福寺 僧1名	禪宗 象通庵 別當三郎兵衛
			浄土宗 小同寺 僧1名	氏神長田大明神
			大日堂 堂守1名	午頭天皇
			氏神長田大明神	年徳神
			人数7・神主鶴1	大神田鎮守
	史跡等		薬師堂見通半丁 但子に當る	
			春日社 長田村より見通半丁 但卯に當る	
			天王社 長田村より見通二丁 但子に當る	
		権現社 長田村より見通に丁半 但戊に當る		
		越中前司盛俊の塚へ長田村より見通六丁 但子に當る		

元禄年間の各村の人口・戸数・石高増加図

港町・兵庫の津を柳原の惣門で出ると、もとの山陽電車が通っていたルートで西北に進んだ西国街道は、今の長田交差点から中央幹線道路の線を通って西方に通じていた。参勤交代の行列や、江戸中期からは旅人の往来もかなり盛んになっていた。西代村の東口には街道の南北に一里塚も築かれていた。田のあぜ道や街道脇には、いつのころからか源平合戦で亡くなった人々を供養する石碑がいくつも建てられていた。

### 三・四・民俗文化財から

農民たちは農作業の区切りとなる季節ごとに、健康や幸福を祈る年中行事を行いながら、つつましい生活を続けていた。各村に鎮守の社があり、広い意味では区域は長田神社の氏子地であった。新しい年が幸せであるように、災いや厄を追い払う追儺と呼ばれる行事が、近在では行われた。日本古来の年の初めつまり正月のころに行われる地域

も、中国から伝わった暦の立春のころに行われる地域もあった。強さの象徴である鬼の面をつけて松明を振り、難を追って踊るのである。須磨の妙法寺や大手の勝福寺とともに長田では薬師堂（今の福聚寺）で一月十六日に行われていた。明治維新とともに中断していたこの行事は後に長田神社で受け継がれ、今も節分に行われて県の無形文化財に指定されている。◆

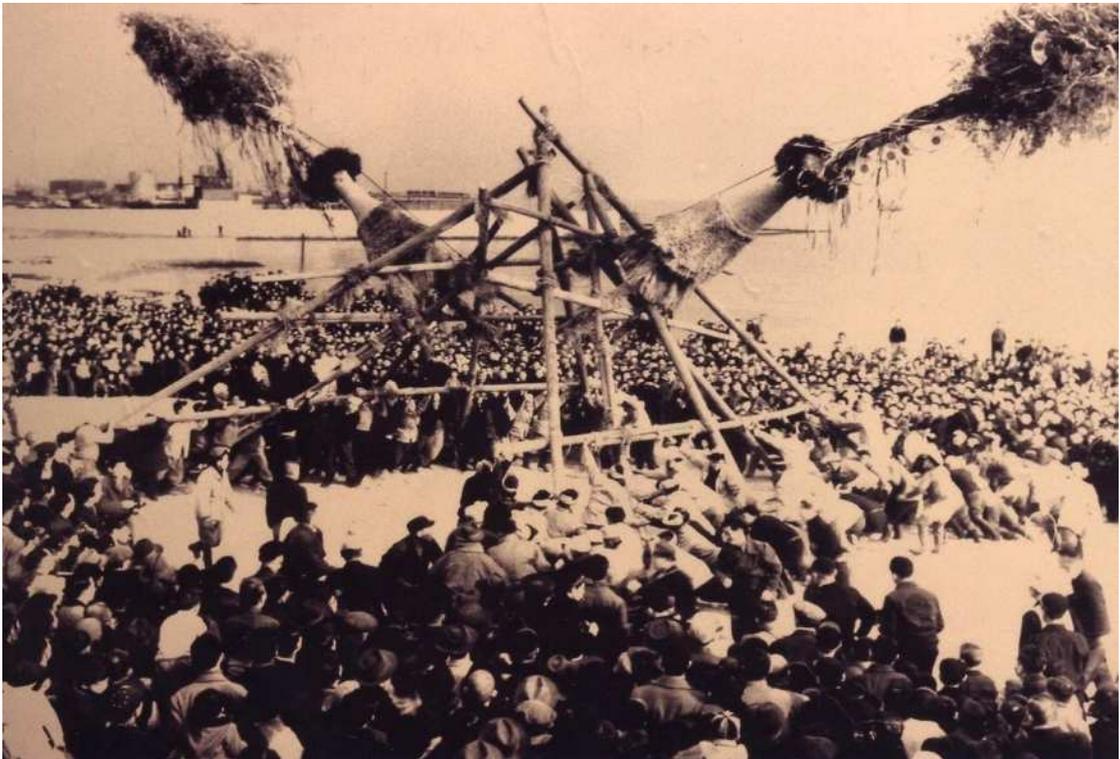


追儺式（大正時代）



左義長

◆ 一方、海辺の駒ケ林では一月十五日に勇壮な左義長が行われた。木材と青竹で高さ十メートル以上の三基の「お山」を作り、一基ごとに百人ほどの担ぎ手で支えて、倒し合っけんか祭りであった。厄を払うと共に、村内のその年の漁業優先権を決めるための漁村の儀式でもあった。同様の行事は野田でも行われていたが、近代の初めに廃れ、駒ケ林では太平洋戦争後も行われていたが、砂浜の消滅とともに昭和三十年代から行われなくなってしまった。



左義長（昭和34年）

### 三・五・幕末のころの長田

幕末の元治元（一八六四）年、神戸村には勝海舟が海軍操練所を設立したが、ここの練習船は高取山の西麓で採れる石炭を燃料にする計画であった。操練所ではあまりの石炭を売って運営費の一部に充てることも許されていた。

この海軍操練所は坂本龍馬が塾頭を務め、陸奥睦光ら優秀な人材が集まっていたが、かなり急進的な若者にも入校も許していたことから保守派の批判を受け、一年たらずで閉鎖されてしまった。海軍操練所の記念碑は中央区の京町筋南詰め、京橋の東側にあるが、同校が閉鎖された後の、慶應四（一八六八）年四月にも「東尻池・西尻池・池田村民が鷹取山炭坑を採掘する」という記録がある。また、高取山麓で掘り出された石炭は外国船にも提供されるようになったため、英国の新聞では高取山を「コール・ヒル」と紹介し、その石炭の質の良さを賞賛している。

同じころ、神戸居留地のイギリス人たちは、長田神社を「チキン・テンプル」と呼んでいる。願いがかなって境内に鶏を放っていった人が多くいたためである。



一里山採石の様子（昭和37年頃）

#### 四・近代の長田地方

##### 四・一・林田村の成立

明治元（一八六七）年、新政府は各地の大名領には手をつけず、旧幕府直轄領は取り上げて全国にそれらを支配するための役所として、府や県を設置した。神戸市内の地域でも尼崎藩領や明石藩領、三田藩領などはそのままだったが、天領だった東尻池・西尻池の一部・駒ヶ林・西代の各村は、東方の兵庫の津や神戸村とともに兵庫県（当初数カ月は兵庫裁判所と呼ばれた）の管下に置かれた。長田・西尻池の一部・野田・池田の村々は明治四（一八七一）年七月の廃藩置県で、旧領主の支配する藩が廃され尼崎県とされた後に、前述の兵庫県に編入された。近代的な地方制度が明治十一（一八七八）年の郡区町村編成法でスタートし、全国で江戸時代の村々を再編して新たな行政村、人口の多いところでは町、さらに都会では区が作られることになった。この制度は明治二十二（一八八



明治18年の実測図による林田村

九)年四月の市制町村制実施で完成するが、その間に、長田・東尻池・西尻池・駒ケ林・野田・今和田新田・御崎・吉田新田の八か村が合流して一行政村を発足させることになり、最大の人口を持つ駒ケ林と最も古い地名を持つ長田村の村名から一字ずつ採って「林田村」と称することになったのである。この明治二十二(一八八九)年に林田村の東方では神戸市がほぼ現在の兵庫区の海岸部と中央区を市域として誕生し、西方では板宿・大手・妙法寺・車・白川・東須磨・西須磨・多井畑の村々が西代村や池田村とともに「須磨村」を組織している。後に旧西代村と池田村は須磨村から別れて、林田村と行動をともにするのである。

#### 四・二・神戸市への編入

明治二十二(一八八九)年十月、林田村のうち長田・東尻池・今和田新田・御崎・吉田新田の五か村は神戸市への合併を請願しているが、行政村

としての林田村の一部だけが合併するには財政上の問題もあり実現しなかった。

それから六年後の明治二十八(一八九五)年、知事から湊村全村(江戸時代の夢野村や石井村などから今の兵庫区北部に成立していた行政村)と林田村内の六か村(前述の五か村に西尻池村を加えて)、須磨村内の池田村の神戸市編入が諮問された。神戸市会も調査委員会を設け、結局これらの村々の編入を可決した。林田村内の駒ケ林と野田も旧二村だけでの林田村維持は困難と考えたから、林田村全村と池田村が神戸市に編入されることになった。これは明治二十九(一八九六)年のことであった。

神戸市に編入された湊村・林田村は、合併とともにこのころ湊区・林田区とも呼ばれているが、この時の区とは現在のようない行政機関ではなく、主として従来の村々の共有財産権の管理と学校区とを兼ねるもので、学校経営を行っていた。明治二十



真陽小学校(明治29年頃)

九(一八九六)年の林田区の予算では、歳出の九割近くが学校の運営費に使われている。教育費が一般市経費の中で行われるようになったのは、大正八(一九一九)年のことで、学区制もこの時に廃止されている。◆

#### 四・三・近代の交通と産業の発展

：鉄道や工場建設始まる：

明治七(一八七四)年に大阪・神戸間鉄道が開通し、すでに開通していた東京・横浜間鉄道との連結が図られ、明治二十二(一八八九)年には東海道線が全線開通する。明治政府は全国的鉄道網の必要を痛感していたが、十分な資金がなかった。そこで、民間の経済力を活用しようと、私鉄の建設を許した。神戸駅から下関までの路線に関して、明治二十一(一八八八)年一月に山陽鉄道株式会社は私鉄鉄道条例による最初の免許状が下された。社長は慶應出身で福沢諭吉の甥に当たる中上川彦次郎、副社長は当時の神戸政財界のリーダー村野山人であった。同社はその年の六月から工事を始め、十一月には兵庫〜明石間が開通、十二月には姫路までの鐵路が開通した。湊川の河底トンネルが完成して、翌年の九月には神戸駅と兵庫県駅の間の路線も完成して、官営鉄道

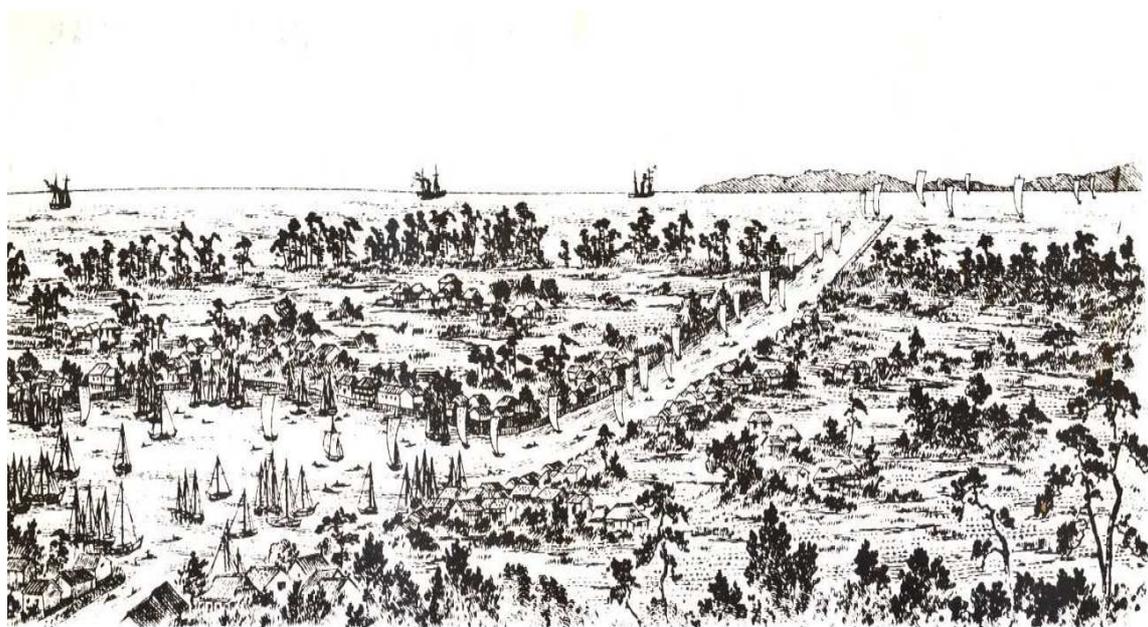
と山陽鉄道は直結された。山陽鉄道は明治二十四（一八九一）年には岡山、三十四（一九〇一）年には下関駅まで鉄道を延ばしていく。

明治二十三（一八九〇）年に和田岬線が開通すると五年後には、鐘紡が東尻池・吉田新田一帯に従業員約三〇〇〇名の大工場を建設し、工場長に武藤山治が就任している。当時、日本の綿糸輸出が急激に上昇していた。この頃から神戸市の西郊だった長田地方に工場建設が始まっていく。

#### 四・四・明治の三大土木事業

以前から須磨や駒ヶ林の船は和田岬を迂回せずに兵庫の津に入港したいと望んでいたが、近代になると兵庫の神田兵右衛門が運河開削に着手した。資金も技術も充分でなかったために、明治九（一八七六）年に完成したのは、新川運河と呼ばれる半円形の水路だけであった。

しかし、産業革命の進行で事情は大きく代わり、明治二十八（一八九五）年十一月には兵庫運河



明治38年頃の兵庫運河（兵庫運河株券の挿絵より）



八尾善四郎像

株式会社が設立され、兵庫県の資金援助や開通後五〇年間の入津料徴収なども認められて、計画は大きく踏み出した。しかし、運河予定地の南方の地主たちは、運河によって地下水脈が絶たれて井戸水に塩分が混じりうると農業被害を危惧して、猛烈な建設反対運動を起こした。八尾善四郎らの尽力で明治二十九（一八九六）年一月に着工、明治三十二（一八九九）年十二月に兵庫運

河は開通した。その間、明治三十一（一八九八）年には掘り出された土砂を利用して苅藻島が築かれた。運河周辺には日露戦争後の工業発展の中で製糖、製粉、発電所、木材業などのさまざまな工場が建設されていく。この兵庫運河は、現在でも日本最大の運河だとされている。

運河建設と同様に明治初年に神田兵右衛門が考えていたのが、旧湊川の付け替え工事であった。石井川と天王谷川が合流して始まる湊川は、当時は、今の東山商店街から湊川公園、新開地本通を下ってハーバーランドの西で海に入っていた。古くからの港町・兵庫と、明治になって急発展する神戸との間を天井川になって流れていたから、交通や町の発展の大きな妨げであった。神戸港に泥水を流し込み、洪水の原因でもあったからである。これも技術や費用の不足で、長年実現されなかったが、明治二十九（一八九六）年の神戸の大水害で急速に具体化されるようになった。藤田伝三郎や小曾根

喜一郎らが発起人となって明治三十(一八九七)年に設立された湊川改修株式会社は、人工の水路を掘って湊川の水を長田の荻藻川に流し込んだ。途中にある会下山は、下にトンネルを掘って通水する画期的な方法が採られた。この時の湊川隧道は、当時としては世界で最も大規模なトンネルであった。通水式は明治三十四(一九〇一)年七月に行われ、旧湊川からの付け替え地点から海までは新湊川と呼ばれるようになったのである。この川の改修とともに、一番町から七番町一带の道路整備が行われた。

これらとほぼ同時期に、湊川と生田川の上流に鳥原と布引の貯水池が完成して、神戸市は全国でも最も早く近代的上水道を整備した。神戸の明治の三大土木事業と呼ばれるこれらの工事が並行して行われていたことは驚異的だが、これらによって神戸は近代都市の歴史を力強く踏み出した。

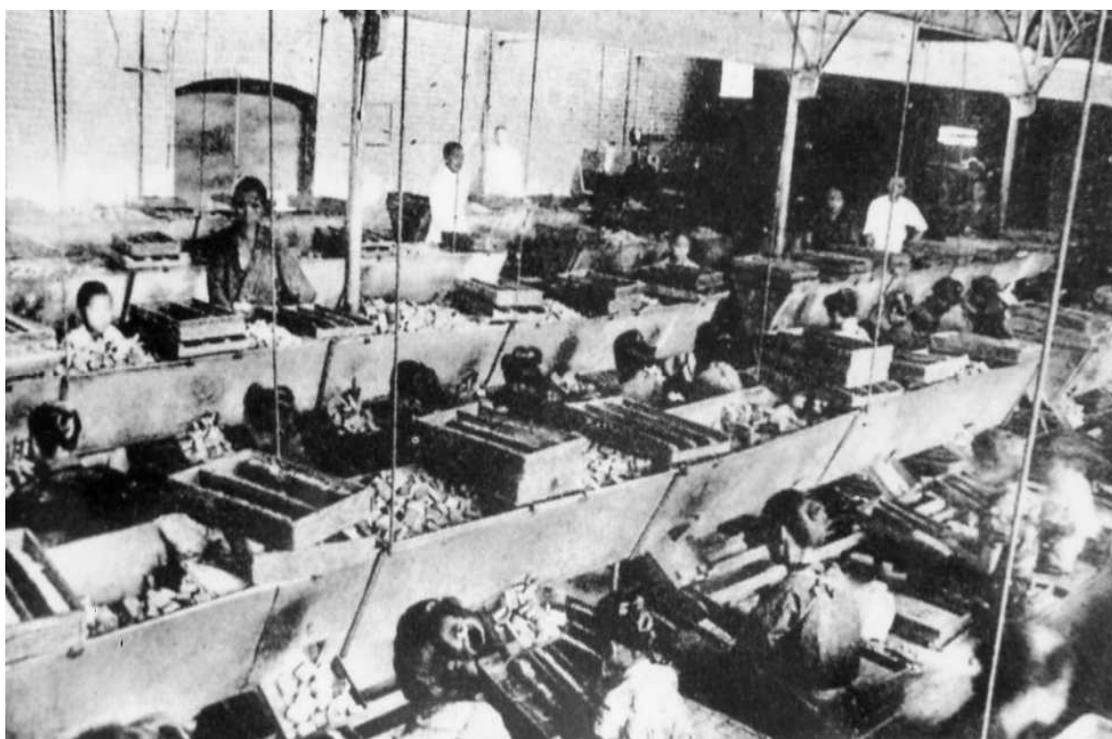


湊川隧道(明治末期頃)

#### 四・五・軽工業の発展

：マッチ生産：

産業革命の進行とともに、明治三十年代後半の兵庫・長田地域で盛んになったのがマッチ生産業だった。日本でのマッチ工業は明治九（一八七六）年に東京で清水誠が始め、急速に全国に広まって、数年後には輸出品の中心になるほどに発展した。それまで日本の輸出品の中心は茶と絹で、神戸からは茶が多く輸出されていた。しかし明治三十二（一九一九）年に静岡県の清水港が開港されて茶の輸出の中心が清水に移ると、神戸ではマッチ工業が茶に代わって主力となった。兵庫に隣接する東尻池の地域が長田のマッチ産業の中心となり、マッチの箱貼りが家庭での内職として盛んに行われるようになった。



明治後期のマッチ工場の様子

#### 四・六・ゴム産業の始まり

長田に最初のゴム工場ができたのは、明治四十年代のことである。イギリス人によって人力車用タイヤを製造する工場が開設され、やがてダンロップがこの工場を吸収してタイヤチューブを生産するようになった。大正初期の長田地域ではマツチ工業が最盛期だったが、大正八（一九一九）年ころを機にマツチ生産が衰退して、替わってゴム産業が飛躍的に発展した。ゴム産業の発展とともに、朝鮮や奄美大島出身の人々や女子・年少の労働者がこの地域に多く現れるようになった。

長田地域の画期的なゴム製品が硫化ゴムで作る靴であった。大正前期には中国や朝鮮への輸出が急増して、長田には一〇〇を越える零細なゴム靴業者が操業した。しかし、大正十（一九二一）年ころになると大戦が終わってヨーロッパ諸国の工業生産が復活し、日本国内では生産過剰に陥って経済は低迷し、粗悪な日本製品も出て信用を落とした。



大正末期の坂東調帯（現バンダー化学）

中国へのゴム靴輸出もストップされるといような苦境を迎えた。昭和に入っても格安品の生産過剰や業者間の過当競争で長田のゴム産業はふるわず、そのしわ寄せは労働者に集中した。それによって労働争議が激化し、争議中にピストルが乱射されるようなこともあった。

経済不況の中で軍国主義化が進んだ。やがて戦時体制に入ると、工業生産は軍需資材中心となり、生ゴムの配給統制が行われるようになった。太平洋戦争が始まると生ゴムは不足し、熟練労働者は兵士に採られて生産能力は著しく低下した。この時期に中小企業は大企業から原材料や技術の提供を受けるようになった。中小企業は不況の圧迫から逃れるためにも大企業の翼下に入らざるをえなくなつて、下請関係が進展したのである。

#### 四・七・電気鉄道の発展

産業革命の進行とともに大衆的交通機関が求められ、電力供給が増大すると、従来の鉄道に加

えて、電鉄建設が始まった。東神戸では明治三八（一九〇五）年に阪神電鉄が操業し、西神戸では明治四十年に兵庫電気軌道が設立された。同社は兵庫の羽坂通から明石までの営業許可を得て明治四十三（一九一〇）年三月に兵庫―須磨間で操業を開始した。この通称「兵電」は山陽電鉄の前身で、兵庫・長田・西代・板宿・大手・月見山・須磨寺・須磨の八駅を開設し、神戸から西に向かう初の電車として期待され、神戸電気鉄道（後の市電）との連絡切符を発売したり、須磨海水浴◆



明治43年の開通広告

場や須磨寺遊園地の開設を行って、乗客の誘致を拘った。同社は明治四十五（一九一三）年に一ノ谷まで、大正二（一九一三）年に塩屋まで、大正六（一九一七）年に明石まで路線を伸ばして、徐々に営業を好転させていった。

やがて兵電は昭和二（一九二七）年に電力会社の宇治川電気に吸収されて宇治川電気鉄道部となつて「宇治電」と呼ばれるようになり、さらに昭和八（一九三三）年になってこの鉄道部が独立して山陽電気鉄道となったのである。

神戸市内に初めて市電が走るようになったのは、明治四十三（一九一〇）年四月のことである。これが上沢七丁目から五番町二丁目間の開通によって長田区域に入ったのは大正十一（一九二二）年一月のことであり、四月には長田交差点まで来るようになった。そこから南の尻池方面にも伸ばされていき、大正十二（一九二三）年末には菅原通から梅ヶ香町を経て清盛塚まで至る路線が開通した。

#### 四・八・重工業の展開

：車輛生産：

日清・日露戦争を経て日本の産業革命が進行し重工業部門が発展した。輸送力増強が求められ、神戸では川崎造船所が兵庫運河沿いに鉄道車両の生産工場を新設した。これが川崎車輛株式会社である。

一方、三菱合資会社は大正五（一九一六）年、青田新田に神戸造船所を開設し、飛行機発動機の試作にも成功した。川崎造船所は大正七（一九一八）年に葺合工場を新設、翌年には兵庫工場内に飛行機科を設置して、三菱を追うことになる。

やがて、ヨーロッパで第一次世界大戦が始まると、日本は連合国向けの軍需物資や生活物資の生産・輸出で未曾有の経済発展を迎えた。交戦しているヨーロッパの先進諸国では船舶が不足し、日本では注文のないままに船を造り始めても、完成しな

いうちに買い手がつくほどであった。また連合国諸国は物資輸送のために日本の船を多く雇い入れるようになった。しかもその傭船の航海が戦火を避けて迂回しながら行われたため、通常より多くの日数がかかり、傭船料なども大戦前の一〇倍以上というありさまだった。神戸の題船・海運業は空前の繁栄をきたし、多くの「船成金」が誕生した。工場が拡張され、市街地では労働者の争奪戦が行われるほどの好景気であった。

#### 四・九・学校の創設

長田区内で最も古い歴史を持つ小学校は真陽小学校である。明治五（一八七二）年の学制公布を受けて明治六（一八七三）年に設立された四つの小学校の歴史を受け継いでいるため、創立としては明治六（一八七三）年とされるが、真陽小学校という名は明治二十（一八八七）年からである。しかし、庶民生活に余裕のなかった明治前期には子供を学校に通わせる家庭はあまりなく、明治三十年代を迎

えても、就学率は五〇パーセント以下であった。小学校就学率が九〇パーセントを越えるのは日露戦争以後のことである。

やがて大正時代に入ると経済の発展から文化の大衆化も進み、大正デモクラシーといわれる状況のなかで教育も普及した。それによって児童数が増加して教室が不足、一学級が八〇名を越える学校や全学年を二部授業とする学校も出るようになった。そこで当時の長田地域では、財政努力の結果、大正五（一九一六）年によく長楽小学校を新設させている。◆



長楽小学校（大正6年）

その後、大正七（一九一八）年には真野、同九（一九二〇）年に長田・御蔵、同十一（一九二二）年に神楽、同十四（一九二五）年に室内、同十五（一九二六）年に蓮池、昭和四（一九二九）年に二葉、同八（一九三三）年に名倉、同十一（一九三六）年に志里池、同十四（一九三九）年に池田といった小学校が新設されている。大正時代にいかに小学校教育が普及していったかがうかがえる。また中等教育では区域の東部に明治四十一（一九〇八）年に県立第二神戸中学校（現・兵庫高校）が創立、同年区域西部では私立育英商業学校（現・育英高校）が開校している。大正十（一九二二）年になると村野工業学校や県立神戸第三中学校（現・長田高校）が創立されるなど、長田地域の教育施設も次第に拡充されていった。

#### 四・十・耕地整理と新しい町名

明治三十三（一九〇〇）年に旧東尻池村内の道路改修と耕地整理の工事が行われ、三十六（一

九〇三）年一月には梅ヶ香町と東尻池の真野町という地名ができた。また、明治三十九（一九〇六）年には西尻池村の工事が行われて、整然とした区域に浜添通・荻藻通、明治四十（一九〇七）年には御蔵・菅原・尻池北町・一番町く七番町といった地名が付けられていった。新湊川以東の市街地化の基盤ができた。

新湊川以西の西尻池・駒ヶ林・野田の地域で区画整理事業が完了するのは、大正七（一九一八）年のことで、この事業は、明治四十四（一九一一）年に設立された西部耕地整理組合によって行われた。この地域では、兵庫と須磨を結ぶ道路の建設計画と耕地整理とを一緒にすることで、後の市街地発展への基礎が急速に実現されたのである。大正九（一九二〇）年にはこの地域一帯の町名が改正され、旧来の字名を元に、池田広町・蓮宮通・御船通・大道通・川西通・細田町・神楽町・西尻池町・若松町・日吉町・大橋町・腕塚町・久保町・



六間道付近の耕地整理工事

二葉町・庄田町・駒ヶ林町・駒栄町・野田町・海運町・本庄町・長楽町・浪松町（現在は須磨区域にある大池町・千歳町・常磐町も含めて）が誕生した。

また、長田神社より北の地域では長田村耕地整理組合が大正四（一九一五）年七月から同七（一九一八）年九月までの間に事業を進め、片山町・大塚町・長田町・宮川町・名倉町・西山町の町名が付けられた。

西代はこの時期まで武庫郡須磨村の一部であったが、大正七（一九一八）年に西代耕地整理組合によって工事が始められ、九（一九二〇）年から十（一九二一）年にかけての時期にほぼ完了、十一（一九二二）年十二月に町名改正が行われた。西代耕地整理組合によって作られた町名は、水笠通・御屋敷通・西代通・山下町・大谷町・五位ノ池町・戸崎通・松野通などである。



西代の耕地整理記念碑

長田区の地域で耕地整理が行われていたところ、近代の港湾都市として神戸も大発展し、すぐ西郊の旧林田村域の人口も急増し、明治二十九（一八九六）年から大正七（一九一八）年にかけては増加率が八十パーセントを記録するほどであった。なかでも東尻池村では明治十五（一八八二）年には五〇〇人であった人口が、大正七（一九一八）年には五万人となっている。神戸市内で最大の人口増加をきたした地域であった。同時期に旧長田村の地域では一五〇〇人から一万人、野田村は二〇〇人から一七〇〇人への増加であった。◆

#### 四十一・行政区【林田区】の誕生

明治四十一年（一九〇八）年に名古屋市が財産区・学区としてではなく、行政機関としての区で全国で最初に発足させると神戸でもそれが懸案となったが、財政上それは困難であった。しかし、大正九（一九二〇）年に西方の須磨村、昭和四（一九一九）年に東部三か町村（西灘村・六甲村・西郷町）を合併した神戸市では、広い市域の効果的行政のために、急速に区制実施が必要となってきた。昭和六（一九三一）年三月、市会はいいに区設置案を可決し、経費のことを考えてその数を減らす動きもあったが、区の地域を市会議員の選挙区と一致させた結果、灘・葺合・神戸・湊東・湊・湊西・林田・須磨の八区が誕生したのである。区の取り扱う業務は、戸籍・就学・税務・選挙・兵事・諸証明など多岐にわたるものであった。従来は市役所まで行かねばならなかった事務が居住地に近い区役所で行えるようになり、市民にとって大いに利便性

が高まった。区役所の開庁は、昭和六（一九三一）年九月一日に一斉に行われた。当初の林田区役所は、腕塚町二丁目六番地に設置された。

昭和初めの深刻な不況は、昭和六（一九三一）年九月に勃発した満州事変以降の軍事力拡張計画で軍需景気が起きて、一気に回復した。鐘紡や川崎車輛を有する林田区は、神戸市の工業生産額の四十二パーセントを占めるほどの好景気ぶりであった。しかし、以後、日本の国は急激に軍国主義化していくことになる。



兵庫運河沿いに林立する工場群

#### 四・十二・阪神大水害

昭和十三（一九三八）年七月、阪神間一帯は空前の大水害に襲われた。同月三日夕刻から四日夕刻までの総雨量は一六五ミリ、翌五日は午前八時からさらに激しく降り始め、午前十時から十一時までの一時間の雨量は四七・六ミリと記録されている。七月三日から三日間で六甲山最高峰周辺では約六五〇ミリの雨が降っている。当時神戸の年間総降水量が約一三〇〇ミリだから、山上では三日で半年の雨が降った計算になる。

林田区では苅藻川の上流、美ノ谷川と松川との合流点付近で水があふれ出し、五日の八時頃にはほとんどの道路が冠水していた。十時頃には明泉寺橋上流の中島橋が破壊流失、明泉寺橋の橋脚に引っかかって流れをせき止めてしまったため、濁水はたちまち兩岸にあふれ北側の谷間の住宅は全戸が浸水、南側にあった住宅は深さ一・八メートルの濁水に襲われてほとんどが半壊した。

美ノ谷川上流では山津波が起こって住宅十数戸を押し流し、人命を奪っていた。桧川も氾濫し二つの川が合流した名倉町の道路は濁流と化し、斜面の家屋は全壊した。濁流は宮川町九丁目一帯まで氾濫し、五丁目までの橋梁を押し流して所どころに流木の山を築いた。水勢は民家の煉瓦塀を倒壊させながら宮川町三丁目までの低地を厚さ六〇〜一八〇センチの土砂で埋め尽くした。土砂は長田神社の境内にも流れこみ、神社の正面から長田町一・二丁目の商店街を流下した。また、新湊川では会下山下の隧道を通過した後、室内橋や卅六橋付近で氾濫し、あたり一帯に三〇〜九〇センチの浸水を引き起こした。苧藻川と新湊川の合流点より南の地域でも三〇〜九〇センチの浸水が起きている。地域別では、特に丸山地域の惨状が著しく、苧藻川と新湊川の氾濫で八〇パーセントの被害が引き起こされた。流失家屋は丸山方面で二五戸、全壊家屋は丸山・長田・池田で



大きな被害を受けた長田神社横の苧藻川

合計六九戸、半壊は区内全域で二四七戸、床上浸水が一〇六一五戸、床下浸水は二二八六〇戸と記録されている。◆



新湊川の埋まった土砂を取り除く村野工業高校の生徒たち

	13年阪神大水害	42年7月豪雨
死 者	616名	死者77名 不明15名
家屋倒壊流出	3,623戸	363戸(全壊流失)
埋 没	854戸	
半 壊	6,440戸	361戸
床上浸水	22,940戸	7,819戸
床下浸水	56,712戸	29,762戸

阪神大水害と42年7月豪雨の被災状況比較(神戸市全域)

#### 四・十三・戦時下の生活

昭和十三（一九三八）年五月に国家総動員法が施行され、国民生活全般に規制が加えられるようになった。神戸市では昭和十五（一九四〇）年、全市に一三八七の町内会を発足させ、すべての指しを区役所から町内連合会、そこから町内会、さらに組から隣保へと組織的に上意下達が行われることになった。国民一人一人までが効果的に統制され、また物資統制のための品物の切符制配給も始まった。衣料品においては昭和十二（一九三七）年、市民一人当たりの需要量が一六・ニポンドだったものが、切符制実施以降は年々減少していった。それでも現物は足りなくなり、最後には隣保総合配給を行うようにもなっていた。昭和十七（一九四二）年四月十八日以降、空襲が始まると、重要工場周辺の防火や防火緑地帯作りのために建物疎開が行われるようになった。林田区では、昭和十

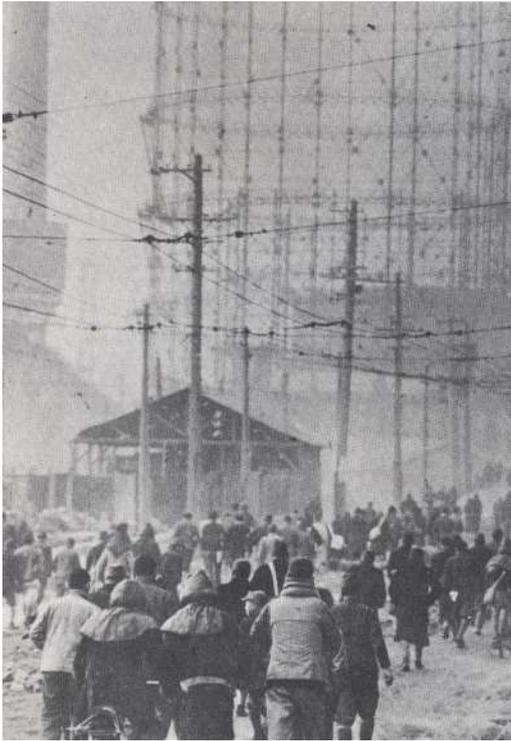


歩兵教練する村野工業高校の生徒たち

九（一九四三）年二月七日から三月二五日までの間に八二七戸の家が破壊された。◆

#### 四・十四・空襲による被害

太平洋戦争末期、アメリカ空軍機による神戸への空襲は延べ一〇〇回を越えている。そのうち林田区に被害をもたらした空襲は二七回。最も被害が大きかったものは、昭和二十(一九四五)年二月四日、八五機のB29による川崎・三菱両造船所爆撃にかかわる被害であった。午後二時過ぎから二時間余りの爆撃で数々の軍需工場が被害を受け、周辺の家屋が破壊され人々は殺された。◆



神戸瓦斯製造所へ出勤

三月十七日の夜間大空襲では米軍機から放たれた照明弾が神戸市全体を真昼のように照らし出した時、上空七〇〇メートルに大編隊が飛来し、高度を下げながら小型爆弾と焼夷弾による無差別絨緞爆撃が開始された。猛炎に包まれ、熱気に耐えかねて運河や防火水槽の中で亡くなった人や、防空壕の中で蒸し焼き状態にされた人も多かった。林田区では、現在兵庫区域である運河以東の地域が全焼し、その他の地域でも甚大な被害がもたらされた。この日の林田区の死傷者は一五五七人・被災者は四三二二〇人で、いずれも兵庫区に次いで市内二位の惨状だった。被災者の多くは、国民学校に收容されることとなり、被災地の後片づけは軍隊と警察、警防団によって行われた。また、死体は市内の火葬場だけでは処理し切れず、町のいたるところで犠牲者は茶毘に付された。林田区の空襲被災率は約20〜30パーセントであった。

## 五・昭和後期の長田

### 五・一・終戦による混乱の時代

戦争が終結すると、市の軍事援護課などにあった動員・援護に関する基本資料や召集令状の基本台帳等はことごとく焼却された。神戸市は戦後戦災地に指定され、戦災復興事業が開始された。市民は食料の遅配・欠配が続く中、着ている着物を売ってはヤミ物資を買う「タケノコ生活」をせざるをえなくなったのであった。

戦災における被害戸数一二万八千八百一という数は、東京都、大阪市、名古屋市に次ぐもので、これは市内全戸数の六〇パーセントにあたるものであった。政府は全国で三〇万戸の仮設住宅を計画し、神戸市には七〇〇戸を割り当てたが、実際には資材の割り当てがなかったために、昭和二十（一九四五）年度中に建ったのはわずか五〇〇〇戸程度であった。学校・庁舎・水道・市電などもひどい被害を受け、その復旧だけでも大変な仕事であった。

長田区域では三月十七日の空襲で、長田、御蔵の二つの小学校が全焼、名倉小、神楽小は半焼となり、大塚町一丁目にあった旧長田署も道場を残して全焼した。また、六月五日の空襲では長田区役所が全焼した。戦前の旧市内では、住宅の六〇パーセントが灰となったのであるが、その中でも林田区は比較的よく残った方であった。しかし戦後は食糧・住宅事情などで人口の増加状況は緩やかで、神戸市の人口が昭和十五（一九四〇）年の水準に達するのは昭和三十（一九五五）年になってからのことであった。

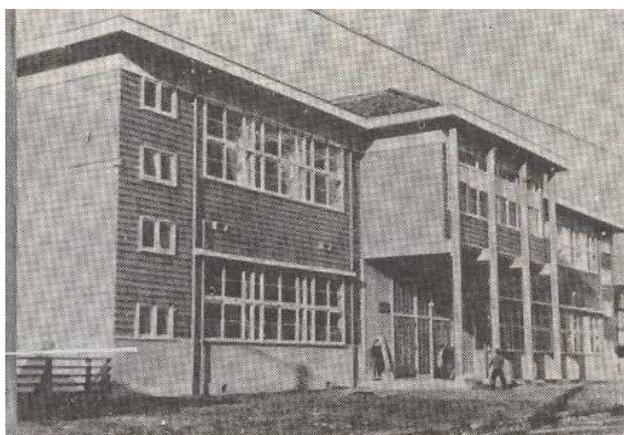
## 五二二・長田区の誕生

戦災による人口移動で、神戸市の人口分布は大きく変化した。そのため区域の広さを適正化し、一区一警察署の設置を基本として区域の名称が改められた。昭和二十(一九四五)年、従来の八区は六区に統合され、それまで林田区であった兵庫運河より東の地域を兵庫区に移すとともに、須磨区であった旧西代村の範囲が林田区に編入された。この時に林田区は新しく長田区と改称され、戦後の第一歩を踏み出したのである。

この時の長田区役所は二葉小学校の中にあっただが、戦後復興と共に児童数が増加したために明け渡さねばならなくなった。そして仮庁舎を神楽小学校に置きながら、昭和二十三(一九四八)年、「愛市公債」を発行して一般区民から資金を募集したのである。木造の新庁舎が大道通一丁目に完成したのは、昭和二十四(一九四九)年十一月のことであった。その後、昭和三十七(一九六二)年

三月に消防署、保健所などを含めた総合庁舎が新たに建てられた。

現在の庁舎は北町にある。それは平成五(一九九三)年十二月に完成したもので、一階ロビーには展示コーナー、七階には区民ギャラリーが設けられている。また、その隣接地には、平成二(一九九〇)年三月に移転してきた消防署と警察署があり、区民の安全サービスが行われている。◆



長田区役所（昭和24年頃）

### 五・三・長田港の建設と埋め立て事業

長田港の建設の要望は、大正期にすでに地元にあったのだが、実現されなかった。戦後、神戸市が出した復興計画の中に、神戸市西部方面の地域開発のために、新湊川西部海面を埋め立て、貯木場・物揚場などを設ける計画が作られた。そして昭和二十五（一九五〇）年、市内の瓦礫と運河拡張工事で生じた土砂を利用して埋め立て工事が始められたのである。◆



長田港

埋め立てと物揚場施設が完成したのは昭和三十ニ（一九五七）年のことであった。それから次第に港としての形が整えられていった。長田港は、昭和三十六（一九六一）年五月から使用され始めたのだが、防波堤がなかったために港内は風浪が荒く、小型船への損害は絶えることがなかった。高潮対策としての防波堤建

設といった護岸工事が施されていったのは、昭和四十一年（一九六六）年のことであった。◆  
長田港は、和田岬以西唯一の港湾施設として、活況を呈した。淡路へのカーフェリーの発着場も昭和四



カーフェリー発着場としての長田港

十九（一九七四）年に須磨港に移されるまでは長田港に置かれていた。

しかし、海岸の埋め立てと長田港の出現で長田名物の左義長は、行われる場所を失い、昭和三十四（一九五九）年から中断されることとなった。その後、平成五（一九九三）年の「アーバンリゾートフェア」、平成一二年（二〇〇〇）年の二葉小学校創立七〇周年行事などで復活され、伝統を次世代へ受け継ぐと試みられている。◆



復活した左義長

#### 五・四・都市部の開発と公共施設の建設

都市部では、昭和三十七（一九六二）年、大橋地区都市開発事業が開始された。まず幅員二七メートルの国道二号線を五〇メートルに広げたほか、市街地改造方式による都市計画が進められ、昭和四十（一九六五）年に完成した。この方法による都市の再開発は全国でも始めてのことで、大橋地区の住民のパイオニア精神は高く評価された。この工事により、腕塚町五丁目には神戸デパート、大橋六丁目にはスカイビルなどが建てられた。◆



神戸デパート



西市民病院（昭和45年頃）

このほか公共施設としては、昭和三十九（一九六四）年に荻藻通に中央卸売市場の食肉市場、四十（一九六五）年に西部下水処理場、四十三（一九六八）年に荻藻島清掃工場（現クリーンセンター）、四十五（一九七〇）年に西市民病院などが建てられた。◆

#### 五・五・住民たちの運動

戦後、女性の地位向上が謳われるようになり、婦人会活動が活発になった。長田区では昭和二十六年（一九五一年）八月に真野婦人会、志里池婦人会が結成され、次いで長田区連合婦人会が誕生した。平成十六（二〇〇四）年の今日では一四の婦人会が結成され、活発な活動がなされている。

また、地域環境整備のために作られた自治会では、高度経済成長期に自動車公害や大気汚染に対する取り組みが盛んになった。一九六〇年代の長田区では、特に北部の丸山地区文化防犯協議会と南部の荻藻防犯実践会の活動が有名であった。

前者は昭和三十八（一九六三）年、道路拡幅等を目指した「幹線道路促進協議会」を発足させ、「たたかう丸山」と呼ばれるような積極的・強力的な活動を行ったほか、昭和四十一（一九六六）年には全国初の「ちびっこ広場」とよばれる善意



荊藻防犯実践会総会（昭和47年頃）

児童遊園地を作ったほか、昭和四十二（一九六七）年には神戸市マスタープランに基づく「長寿村」の開村などを行った。◆

また、後者は住民の四割が「荊藻ぜんそく」に悩まされている中で、公害対策部を設けて住民総参加による地区改善運動を展開した。川の清掃やごみの定期回収から始められたこの運動は、公害企業や行政への責任追及も行い、昭和四十六（一九七一）年には製油工場に住民の立入権を認めさせ、公害防止協定に調印させたほか、昭和四十八（一九七三）年には五億円をかけた公害防止施設の導入を成功させたのであった。

#### 五・六・「西の副都心」としての発展

昭和四十三（一九六八）年、神戸高速鉄道が営業を開始し、山陽電鉄が阪急・阪神電車と結ばれるようになった。そのため、明治四十三（一九一〇）年の創業時よりあった山陽電鉄の兵庫く西代間の路線がなくなり、兵庫・長田の二駅が廃止された。

国鉄（現JR）が新長田駅を設置したのは、昭和二十九（一九五四）年のことである。これは多くの



国鉄新長田駅東口（昭和49年頃）

商店街やゴム工場を抱える地元の強力な誘致運動によって実現したものである。設置の許可はおりたものの、経費は地元負担という厳しい条件であった。◆

道路交通についても昭和三十八（一九六三）年に起工された阪神高速道路神戸一号線が昭和四十三（一九六八）年に開通し、東西への交通の大動脈ができた。また、昭和四十一（一九六六）年には西神戸有料道路の工事が始められ、昭和四十四（一九六九）年に開通した。

自動車の増加によって減少していったのが市電である。廃線は昭和四十一（一九六六）年から始まり、昭和四十六（一九七一）年に完了した。それに代わった市民の足は市バスであった。長田区では、丸山地区など北部地域に住宅が増加するにともない、バス路線が次々と延長されていった。

昭和四十七（一九七二）年、名谷や西神地区の新興住宅地造成により、神戸市営地下鉄の建設が始まった。名谷から新長田までの路線が開通したのは、昭和五十二（一九七七）年のことである。そのターミナル駅となった新長田駅周辺では副都心化が進められ、「ジョイプラザ」や「新長田勤労市

民センター」を備えた新長田駅前ビルが建てられた。

市営地下鉄はその後、新神戸から西神中央まで東西に延伸され、平成十三（二〇〇一）年には苅藻地区や駒ヶ林地区を巡る海岸線が開通している。

地区の再開発は、昭和六十二（一九八七）年から長田神社周辺でも行われた。これにより、長田神社の前町として栄えた長田商店街が「サンドール長田」や「プレノ長田」などに整備されていった。



サンドール長田

#### 五・七・区民生活の充実に向けて

区民のための文化・体育施設は昭和三十（一九五五）年以降、次々と建設されていった。大正時代から埋め立ての始まった蓮池の跡地に昭和七（一九三二）年、関西随一の総合運動場として「市民運動場」が作られていたが、その隣接地に県立スポーツ会館が建てられたのは、昭和四十七（一九七二）年のことである。その後、昭和六十（一九八五）年、ユニバーシアード神戸大会開催を機に、テニスコートのあった場所に県立文化体育館が建てられ、柔道会場などとして使われた。◆



県立スポーツ館

温水プールのある苅藻プールの完成は昭和四十  
四（一九六九）年である。これは隣接する苅藻島  
清掃工場（現クリーンセンター）のごみ焼却の余熱を  
利用してのものであった。このほか、公民館、公会堂、  
図書館などの施設が区内各地に建てられていった。

現在はポー  
トアイラン  
ドに移転し  
ているサンテ  
レビが昭和  
四十四（一  
九六九）年  
に開局した  
地は、長田  
区一番町  
であった。◆



苅藻プール

長田のまちの充実、発展の原動力は、多くの住  
民の熱い思いであった。それはさまざまな会議の系譜  
に反映されている。

昭和四十九（一九七四）年三月、長田区市民  
会議が開催され、九月に区民会議が発足した。こ  
れは昭和五十九（一九八四）年、長田区市民政  
懇談会に発展していった。この間に、丸山地区や真  
野地区で住民参加によるまちづくりが活発化して  
いき、昭和五十五（一九八〇）年には「こんなまちに  
したいな、真野まちづくり構想」が市長に提案され  
た。これは、住民自らがまちづくり構想を實現化し  
ていくための方法やルールなどを明示したことで、神  
戸市における「まちづくり条例」へのモデルケースとな  
った。これにより「丸山を住みたくなる町にする会」  
がまちづくり協議会に認定されたり、「御菅地区  
各種団体連絡協議会」や「西の副都心まちづくり  
協議会」が設立されたりし、住民参加のまちづく  
りが活発化していった。

このほか、昭和六十（一九八五）年に開かれた学生のオリンピック「ユニバーシアード神戸大会」で神戸を訪れる選手、役員、観客をきれいな町、温かい心で迎えようとする「ふれあい長田区民の会」が自治会や婦人会など各種団体の代表者で構成され、ふれあいの市民運動を展開していった。同様の区民の会は、昭和六十二（一九八七）年に開かれた障害のある人々のオリンピック「フェスピック神戸大会」の時も結成された。◆



区の花「サルビア」と  
ロゴマーク



昭和五十九（一九八四）年、市内で最も早く区の花として「サルビア」が選定された。これには、サルビアが、小さな花がたくさん集まることにより素晴らしい眺めを見せてくれるように、区民が協力していけるまちに、という願いが込められている。そして区民会議の提案を受け、昭和六十（一九八五）年度以降、「長田のまち花いっばい運動」が進められ、区内各地にサルビアが植えられている。◆



ひよどりごえ森林公園

また、区の北側には昭和五十四（一九七九）年、甲子園球場の約三六倍の面積を持つ「ひよどりごえ森林公園」が開園した。このほか、環境都市作りの柱として、区内各地に公園が整備されている。◆

#### 六・平成を生きる長田

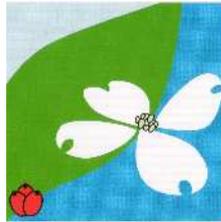
##### 六・一・区民とともに歩むまちづくり

平成五（一九九三）年、市内各地で「アーバンリゾートフェア・93」の関連イベントが開かれた。長田区では、快適な生活環境を目指した「クリーンアップ長田作戦」のほか、区民の公募によって作られた「長田音頭」、駒ケ林の左義長の復活などが行われた。また、平成六（一九九四）年から、子供たちの夏休みの思い出作りを目的に、地域や企業の協力を得ての「長田たなばたまつり」が開催され、屋台やステージショーなどが催されるようになった。

昭和後期に展開された区民参加のまちづくりは、平成に入っても継続され、平成六（一九九四）年には区民、事業者、行政の協働によるまちづくり実践の場としての「長田区民まちづくり会議」が発足した。そして区内の諸事業の計画策定や、安全・安心なまちづくりなどに取り組んでいる。平成十五（二〇〇三）年には、この区民まちづくり会議



区の木「ハナミズキ」と  
シンボルマーク



長田区の木 ハナミズキ

が主体となって「区の木」としてハナミズキが選定された。

また、地域の福祉活動については、平成四（一九九二）年に神戸市長田区社会福祉協議会が発足し、地域福祉に関する連絡や情報収集、ボランティア活動への助成や育成事業を行っている。◆

#### 六・二・震災を乗り越えて

平成七（一九九五）年一月十七日早朝に起きた阪神・淡路大震災により、長田区内では多くの火災が発生した。その火災による被害は、市内全体での火災被害のうち、面積にして約六四パーセント、棟数にして約六八パーセント、被害額にして約五一パーセントを占めるほどであった。また区内にあった住宅のうち、五七パーセントのものが全壊・半壊の被害を受け、九二一名の方が亡くなられた。そのうちの約六〇パーセントが六五才以上の高齢者であった。◆



震災による火災で  
被害を受けたまち

震災発生により二ヶ月後の三月には、区内で八地域が重点復興地域に指定され、土地区画整理事業などが行われることとなった。このうち新長田駅南地区では市街地再開発事業が行われ、平成十（一九九八）年には震災後初の再開発ビルとして「ピフレ」が、平成十一（一九九九）年には「アスタ」にづか「一番街・二番街」のビルが完成した。復興の初期段階では渥美清主演の『男はつらいよ』シリーズの映画ロケが行われ、市民の心に大きな元気を与えた。◆



J R 新長田 駅にある  
寅さん地蔵

震災での火災により、地場産業であるケミカルシューズは大打撃を受けた。そこで神戸市は地元企業と協力して平成十二（二〇〇〇）年に「シューズプラザ」を建設、「くつのまち長田」の情報発信拠点として、さまざまなイベント等を行い、靴でまちの賑わいを取り戻そうと努めている。館内には「アジアギャラリー」も設けられ、区内に多く住むアジア出身の人々の憩いの場となっている。◆



シューズプラザ



ユニバーサルデザインフェア



このほか、すべての人に優しいまちづくりを目指して、平成十三（二〇〇一）年に地域・企業・行政が参加して「長田区ユニバーサルデザイン研究会」が設立され、さまざまなイベントなどの開発事業や研究などが行われるようになった。◆



総合療育センター

また、平成十一（一九九九）年に丸山地区に完成した神戸市総合療育センターでは、障害による相談や医師による診察、専門スタッフによる個々に対応した訓練等が行われている。◆

平成十二(二〇〇〇)年「神戸21世紀復興記念事業・長田区民の会」が発足し、翌十三(二〇〇一)年に区内でさまざまなイベントが催された。平成十六(二〇〇四)年には第一回「長田区区民文化祭」が開催されている。◆



長田区区民文化祭でのカルタ大会



区民から詩句を募集して作成された長田カルタ



そばめし

とであろう。

刻んだ焼きそばに冷やご飯を混ぜこんで作る「そばめし」発祥の地であり、お好み焼き店舗の密集度としては全国一を誇る長田は、通称「こなもんのみち」と呼ばれ、近年ではそれに関するイベントが数多く行われている。

平成一七（二〇〇五）年五月一日に区制六〇周年を迎える長田区は、多くの区民の「わがまち」への情熱に支えられ、今後ますます発展していくこ



お好みMAP

(神戸ながたティ・エム・オー製作)



### 長田区の年表(明治～現代)

1868	慶応 3. 1	兵庫開港
1873	明治 6. 8	真野小学校創立(区内で最初)
1887	明治20.11	真陽小学校創立
1888	明治21.11	山陽鉄道(国鉄)、兵庫～明石間開通
1889	明治22. 2	8村合併して林田村となる
	明治22. 9	山陽鉄道(国鉄)、兵庫～神戸間開通
1890	明治23. 7	山陽鉄道(国鉄)、和田岬線開通
1895	明治28	東尻池に鐘紡兵庫工場設立
1896	明治29. 4	八部郡林田村、湊村、池田村を神戸市へ編入
	明治29. 4	神戸市、市内に林田区の他5区を設ける
1898	明治31. 5	荊藻島埋立工事完成(明治29.8工事着手)
1899	明治32.12	兵庫運河竣工(明治29.1工事着手)
1901	明治34. 7	湊川付替工事完成し、通水式を実施
1905	明治38	区内マッチ工場全盛
1906	明治39. 5	東尻池村に川崎造船所「運河分工場」新設、区内鉄工発展の始まり
	明治39	製粉工場(増田製粉所)が梅ヶ香に設立
1907	明治40.10	新湊川以东の市街地基盤が出来上がる
1908	明治41. 2	区内最初の製糖工場(神戸製糖株式会社)東尻池の運河沿いに設立
	明治41	尻池村に外国資本による最初のゴム工場建設
1910	明治43. 3	兵庫電気軌道(山陽電鉄)兵庫～須磨間開通、長田駅・西代駅開業
1911	明治44	神戸電気鉄道株式会社電燈電力を兼営する。
1914	大正 3. 8	西部耕地整理組合設立(大正5年ほぼ完成)
	大正 3	神戸のマッチ工業最盛期

1915	大正 4. 7	長田西部耕地整理組合設立(大正7年ほぼ完成)
1916	大正 5.10	新湊川以西の市街地基盤出来上がる
1917	大正 6. 4	兵庫電気軌道(山陽電鉄)兵庫～明石間全通
1918	大正 7. 4	西代耕地整理組合設立(大正10年ほぼ完成)
1919	大正 8.10	寺池、重池、蓮池を市営住宅地として埋立
	大正 8	この年をピークにマッチ工業衰退
	大正 8	戦前の神戸のゴム工業最盛期
1922	大正11.11	長田公設市場開設
1924	大正13. 1	長田神社炎上(昭和3.5再建)
1925	大正14. 7	林田、須磨青年連盟成立
1927	昭和 2. 4	大橋公設市場開設
	昭和 2. 4	鷹取教会設立(カソリック)
1928	昭和 3.11	神戸有馬電鉄(神戸電鉄)湊川～有馬間開通
1931	昭和 6. 3	苅藻島埋立ならびに運河完工式
	昭和 6. 9	神戸市に区政施行、林田区誕生
1932	昭和 7. 4	神戸市民運動場開場(西代市民運動場)
1937	昭和12. 2	梅ヶ香公会堂落成
	昭和12.11	丸山衝上断層が国の天然記念物に指定
1938	昭和13. 7	阪神大水害
1945	昭和20. 5	林田区は須磨区の一部を吸収し長田区と改称
	昭和20. 5	長田区役所消失、二葉国民学校へ移転。
	昭和20.11	長田区の人口112,992人、世帯数30,236世帯
1949	昭和24. 3	日本ゴム工業会設立
	昭和24.11	長田区役所落成式
1951	昭和26. 3	長田区社会福祉協議会設立
	昭和26. 8	長田区連合婦人会が誕生
1952	昭和27. 4	長田地区保護司会発足

1953	昭和28.4	阪神上水道引水トンネル完成、長田へ送水
1954	昭和29.4	国鉄新長田駅開設
	昭和29.4	新長田駅開設記念ゴム製品展示会(駒ケ林中学)
	昭和29.8	長田公民館開館式
1956	昭和31.10	第11回国民体育大会が西代市民運動場で開催される(昭和27.2接收解除)
1957	昭和32.2	ケミカルシューズ工業会創立総合(昭和34.7解散)
	昭和32.4	長田市民病院開設(長田分院を昇格)
	昭和32	山麓線(板宿～長田)貫通
1959	昭和34.1	駒ケ林の左義長、この年を最後として中止
1959	昭和34.6	長田区連合青年団結成
1960	昭和35.8	長田区役所新庁舎建築のため仮庁舎(神楽小)に移転。
1961	昭和36.7	長田港の築造完成開港式
1962	昭和37.3	長田区総合庁舎落成式
	昭和37.5	長田区老人クラブ連合会結成
1963	昭和38.1	ケミカルシューズ工業組合全国組織として発足
1965	昭和40.10	長田区の人口がこの年ピークに。人口214,345人、577,165世帯
	昭和40.11	市街地改造事業により神戸デパート完成
1967	昭和42.7	西代橋上駅営業開始(山陽電鉄)
	昭和42.7	42年7月豪雨
1968	昭和43.2	西代跨線橋開通(昭和41.10着工)
	昭和43.4	神戸高速鉄道開通(阪神・阪急・山陽・神戸電鉄相互乗り入れ)
	昭和43.4	山陽電鉄、兵庫～西代間営業廃止(長田駅廃止)
	昭和43.7	阪神高速道路神戸1号線生田川～若宮間開通

	昭和43.11	荇藻島清掃工場オープン
1969	昭和44. 4	市立西市民病院完成
	昭和44. 5	荇藻プールオープン
	昭和44. 8	西神戸有料道路開通(昭和41.12着工)
	昭和44.11	山陽長田ビルディング新設営業開始
1970	昭和45. 1	西市民病院開院
	昭和45	ケミカルシューズ生産量、この年ピーク
1971	昭和46.11	区民ロビーオープン。
1972	昭和47	県立スポーツ館オープン
	昭和47. 7	第1回グリーン作戦開始
1973	昭和48	戦後のマッチ工業ピーク
1974	昭和49. 2	丸山コミュニティセンターオープン
	昭和49. 2	神戸デパート火災
	昭和49. 3	長田港のカーフェリー須磨港へ移転
	昭和49. 3	長田区市民会議開催
	昭和49. 9	区民会議発足
1977	昭和52. 3	神戸市営地下鉄、新長田～名谷間開通
	昭和52. 3	新長田駅前ビル(新長田勤労市民センター、ジョイプラザ)オープン
	昭和52. 3	ながたの歴史発刊
	昭和52. 3	神戸高速鉄道西神線開通
	昭和52. 4	新長田駅前ビルオープン
	昭和52.10	新長田地下鉄ビルオープン
1979	昭和54.10	ひよどりごえ森林公園完成
1980	昭和55. 7	「真野まちづくり構想」を住民が提案(昭和55.11真野地区まちづくり推進会発足)
	昭和55.10	丸山を住みたくなるまちにする会発足

1982	昭和57. 9	「丸山を住みたくなる町にする会」をまちづくり条例でまちづくり協議会に認定
	昭和57.11	御菅地区各種団体連絡協議会が「まちづくり条例」に基づくまちづくりを始める
1983	昭和58. 3	ながたの民話発刊
	昭和58. 6	市営地下鉄山手線 新長田～大倉山開通
1984	昭和59.10	長田区民市政懇談会開催
	昭和59.12	長田区の花が「サルビア」に決定
	昭和59.12	ユニバーシアード神戸大会ふれあい長田区民の会発足
1985	昭和60. 6	市営地下鉄 新神戸～三宮～学園都市間開通
	昭和60. 6	県立文化体育館オープン
	昭和60.10	新湊川公園ジョギングコース完成
1986	昭和61. 3	長田神社参道がコミュニティ道路に
1987	昭和62. 1	蓮池小学校で左義長開催
	昭和62.11	真陽小学校100周年記念式典
	昭和62.11	フェスピック神戸大会「長田区民の会」発足
	昭和62.11	長田公民館完成
1988	昭和63. 3	長田箕谷線部分開通(山の街～泉橋)
	昭和63.12	サンドール長田北館がオープン
1989	平成 1. 7	サルビアギャラリー開設
	平成 1. 8	サンドール長田南館オープン
1990	平成 2. 3	長田消防署・警察署新庁舎完成
	平成 2. 5	神戸市防災福祉コミュニティセンター開館
	平成 2. 7	第1回真野まちづくりフェスティバル開催
1991	平成 3. 1	駒ヶ林まちづくり協議会発足
	平成 3. 3	アーバンリゾートフェア神戸'93「長田区民の会」発足

1992	平成 4. 7	「神戸市長田区社会福祉協議会」発足
1993	平成 5. 2	第1回サロンコンサート開催
	平成 5. 5	駒ヶ林左義長祭
	平成 5.12	長田区総合庁舎移転
1994	平成 6. 8	第1回長田たなばたま祭り開催
	平成 6.12	長田区民まちづくり会議 第1回会議開催
1995	平成 7. 1	阪神・淡路大震災
	平成 7. 3	阪神・淡路大震災犠牲者神戸市合同慰霊祭
	平成 7. 3	区内で8地域を神戸市震災復興緊急整備条例により重点復興地域に指定
	平成 7. 6	山陽電鉄、西代～東須磨間地下営業開始
	平成 7.12	新長田図書館オープン
1996	平成 8. 1	FMわいわい開局
	平成 8. 3	長田区マスタープラン策定
	平成 8.10	第1回「おもしろ音楽博物館」開催
1998	平成10. 1	長田線供用開始
	平成10. 3	食遊館完成
	平成10. 4	ピフレホール完成
	平成10. 5	若松地区防災福祉コミュニティ発足
	平成10.12	真野地区防災福祉コミュニティ発足
1999	平成11. 4	神戸市総合療育センターオープン
		長田中央市場オープン
		丸山地域福祉センターオープン
	平成11. 5	葉加瀬太郎コンサートとシンポジウム開催、「音楽のまち長田」スタート
	平成11.11	アスタくにつか1番館・2番館完成
2000	平成12. 3	神戸21世紀・復興記念事業長田区民の会発足

	平成12.5	西市民病院完成
	平成12.6	山下線が全線完成供用 長田南部・西部副都心活性化構想を策定
	平成12.7	シューズプラザ・アジアギャラリーオープン
	平成12.9	重池防災福祉コミュニティ発足
	平成12.12	市営地下鉄「長田駅」に「長田神社前」呼称通過
2001	平成13.1	フレール・アスタ若松竣工
	平成13.2	「故郷の家・神戸」完成
	平成13.7	地下鉄海岸線開通(三宮花時計前～新長田駅)
	平成13.9	第1回長田区ユニバーサルデザインフェア開催
2002	平成14.3	アスタくにつか1番館南棟完成
	平成14.7	長田潮汲み夏祭り
	平成14.8	住民基本台帳ネットワークシステム開始
2003	平成15.4	神戸長田コンベンション協議会設立
	平成15.8	阪神高速神戸山手線一部開通、白川JCT～長田ランプ供用開始
	平成15.10	長田区の木が「ハナミズキ」に決定
2004	平成16.2	第1回長田区区民文化祭開催
	平成16.11	アスタプラザウェストオープン

## 長田区年表(産業関連)

1840	天保11	駒ヶ林、兵庫の両村、魚の売買につき紛議
1884	明治17.9	兵庫と駒ヶ林及び脇浜の2漁業組合なる
1902	明治35	神戸家畜市場東尻池村に開設
1905	明治38.4	駒ヶ林漁業組合魚類共同販売場を開く
1922	大正11.11	長田公設市場開設
1924	大正13.10	西代公設市場開場
1927	昭和 2.4	大橋公設市場開設
		林田公設食堂開設
1928	昭和 3.7	長田公設市場移転に決まる
	昭和 3.12	長田公設市場増築
1934	昭和 9.11	長田工場で流線型バス車輛の製作開始
1936	昭和11.11	阪神燃機争議おこる
1949	昭和24.3	日本ゴム工業会設立
1951	昭和26.10	長田中央市場大半焼失
1952	昭和27.5	若松ゴム工場(菅原通)火災、死者7名、負傷6名
1954	昭和29.4	新長田駅開設記念ゴム製品展示会(駒ヶ林中学)でビニールシューズ初登場
1957	昭和32.2	ケミカルシューズ工業会創立総会(34.7.1解散)
1958	昭和33.2	労働衛生相談室開く(中小企業関係者を対象、長田保健所内)
	昭和33.8	大正筋商店街、中小企業庁長官の表彰をうける
1960	昭和35.8	長田区ゴム工場街で32戸焼く
	昭和35.12	長田ゴム工場街や7会社・5民家焼く
1961	昭和36.1	神戸商工会議所中小企業相談所を開設
		まず長田支所を開所
	昭和36.7	市立屠畜増改築地鎮祭(苅藻通7)
1963	昭和38.1	ケミカルシューズ工業組合全国組織として発足
	昭和38.7	大正筋六間道商店街のシャンデリア照明工事完成
1964	昭和39.1	神戸のゴム工業団体連合会結成

1965	昭和40. 1	神戸市の共同ゴム工場建設計画決まる (神大工学部西代分校跡)
	昭和40. 3	日本ケミカルシューズ工業組合、ジェトロと共催してロンドンで展示会を開く
1966	昭和41. 4	長田公設市場で18店全焼
1968	昭和43.11	苅藻島清掃工場オープン
1972	昭和47. 3	第4次共同ゴム工場完成
1974	昭和49. 2	神戸デパート火災
1982	昭和57.11	長田地区再開発の事業計画決まる
1987	昭和62. 2	長田神社前地区の再開発事業起工式
	昭和62. 7	大正筋商店街のイベント「大正博覧会」 －なぜか大正－が第3回日本イベント大賞で審査員特別賞受賞
1988	昭和63.12	サンドール長田北館がオープン
1989	平成 1. 8	サンドール長田南館がオープン
1990	平成 2. 1	長田商店街 1 丁目東地区市街地再開発ビル起工式
1991	平成 3. 4	長田商店街アーケード完成
1996	平成 8. 7	西部市場新館棟完成
1997	平成 9.10	長田中央小売市場の再建(起工)
1998	平成10. 3	食遊館完成
1999	平成11. 4	長田中央市場オープン
	平成11.11	アスタくにつか1番館・2番館完成 シューズプラザ起工式
2000	平成12. 7	シューズプラザ・アジアギャザリーオープン
2001	平成13. 1	アスタパビリオンオープン
2002	平成14. 3	アスタくにつか1番館南棟完成
	平成14. 7	全国リサイクル商店街サミット神戸大会 うまいもんいちポット
2003	平成15. 7	西神戸センター街 5 丁目アーケードお別れセレモニー
2004	平成16.11	アスタウエストに琉球ワールドオープン



## 七・長田（神戸市）の鉄道史

### 七・一・鉄道時代の幕開け

#### ①東海道本線

江戸時代の交通機関としては、徒歩・馬・駕籠などの手段が主なもので、明治に入り、新政府の西洋文化の積極的な取り入れの中、明治三（一八七〇）年六月に三宮・元町に人力車が登場した。また、文明開化の象徴するガス燈など元町周辺には異国情緒ある街並みが形成され、この頃より、富国強兵をスローガンに掲げた政府の施策も盛んになり、神戸においても鉄道敷設の計画が活発になってきた。

鉄道の第一号としては、明治五（一八七二）年九月には東京新橋く横浜間に我が国最初の鉄道が開通。続いて、明治七（一八七四）年五月には神戸く大阪間に我が国二番目の鉄道が開通した。この所要時間は一時間一〇分で、運賃は上等一円・中等七〇銭・下等四〇銭（当時の警察官の給

料五円）。その後、明治二十二（一八八九）年七月には、東海道本線新橋く神戸間（約六〇〇キロメートル）全線開通。主要都市（東京・横浜・名古屋・京都・大阪・神戸）を連絡する重要幹線として位置づけられた。◆



義経号（鷹取工場）

## ②山陽本線

明治十九（一八八六）年十二月藤田伝三郎、村野山人氏らを中心とした有志が、神戸く下関間鉄道敷設を目的とする山陽鉄道を設立。明治二十一（一八八八）年一月四日付私設鉄道条例施行後の第一号として許可される。

明治二十一（一八八八）年六月一日に工事着手し、明治二十一（一八八八）年十一月一日には兵庫く明石間、翌月十二月二十三日には明石く姫路間、翌年九月一日には神戸く兵庫間が開通して神戸駅を拠点に官営鉄道と私営鉄道が連絡。その後、明治三十四（一九〇一）年五月二十七日には、山陽本線神戸く下関間全線開通。主要都市（神戸・岡山・広島・下関）を連絡する重要幹線として整備。最急行列車は全線を一二時間余りで連絡。明治三十九（一九〇六）年三月三十一日鉄道国有法が公布され同年十二月山陽鉄道は官営鉄道山陽本線となる。◆



西代踏切（昭和36年頃）

### ③ 民鉄

兵庫県下における民営鉄道は、明治三十八（一九〇五）年四月阪神電鉄神戸〜大阪間が最初。

明治四十三（一九一〇）年三月には箕面有馬電軌（現阪急電鉄）梅田〜宝塚間、同年三月兵庫電気軌道（現山陽電鉄）兵庫〜須磨間の開通に伴い、林田村に「長田駅」、須磨村に「西代駅」がそれぞれ開業した。

昭和三（一九二八）年十一月二十八日神戸有馬電気鉄道（現神戸電鉄）湊川〜有馬温泉間が開通し、「長田駅」「丸山駅」がそれぞれ開業。

戦前から発達していた私鉄各社を、戦後の神戸復興のため、それぞれ分断されていた起点を一つに結合することを目的に、昭和三十三（一九五八）年十月二日神戸高速鉄道株式会社設立。会社設立から約一〇年の歳月をかけて、阪神・阪急・神戸・山陽の私鉄四社が昭和四十三（一九六八）年四月七日相互乗り入れ開始。長田区内に



高速鉄道開通祝賀電車

（昭和43年）

◆ は「高速長田駅」開業し「西代駅」で高架に戻る。世界でも珍しい電車を持たない鉄道として誕生した。総路線八・一キロメートル、総事業費一六〇億円。当時の原口市長は、市電の減収よりも神戸市民の利便性を優先に百年の大計を鑑み着手。

#### ④市電

明治四十三年（一九一〇）年四月五日神戸初の市街電車が登場。神戸電気鉄道（春日野く兵庫駅前五・八五七キロメートル）開通。開業当時は一九力所の停留所を設け、乗車賃一区二銭、通行税一銭を加えた三銭でスタート。開業半年を経た乗客数は一日平均三万二二七七人に達した。

神戸の市電は、明治期においては神戸・兵庫の中心地を重点的に行われていた。林田区内の市電開通は、大正十一（一九二一）年一月の上沢・山手線（上沢七丁目く五番町二丁目）から始まる。それ以降、長田交差点、東尻池交差点などの交通の要所をつなぐ市電が整備されていき、区民の足として発展。昭和十年代には、ほぼ林田区の市電交通基盤が完成する。

昭和三十年代に入ると、高度経済社会の発展に伴う自動車交通の需要に影響され、市電への乗客数が減少し、長田区においては、昭和四十四

（一九六九）年三月松原線（東尻池二く中之島）の廃止を皮切りに、昭和四十六（一九七一）年三月全ての市電が廃止された。◆



東尻池付近を走る市電

## ⑤神戸市営地下鉄

神戸の西の副都心「新長田」と須磨ニュータウンの中心「名谷」を結んで、神戸市営地下鉄西神線（五・七キロメートル）が着工以来四年四ヶ月の歳月をかけて新長田と名谷間が昭和五十二（一九

〇〇メートル、R・二六〇メートルの複心曲線及びR・一六五メートルの急曲線となっている鉄筋コンクリート函型構造で、縦断線形は新長田駅から長田駅にかけては下り勾配の二六パーミリとなっている。

七七）年三月十三日開業、総事業費六二五億円。総事業費五七五億円、全国でも東京、横浜、名古屋（昭和三十二（一九五七）年十一月十五日）、大阪（昭和三十九（一九六四）年）、札幌（昭和四十六（一九七一）年十二月）に次いで六番目に開通した。

同線は、須磨ニュータウンの足を確保するため、六甲山系を貫くトンネルを有した全国でも珍しい

同地下鉄の建設は、昭和五十八（一九八三）年六月十七日に新長田と大倉山（四・三キロメートル）と名谷と学園都市間（三・五キロメートル）を、昭和六十（一九八五）年六月に大倉山と新神戸間を順次開業し、最終昭和六十二（一九八七）年三月十八日に新神戸と西神中央間（二二・七キロメートル）を全線開通。総事業費二五〇八億円。

山岳地下鉄で、当時としては、最新式の自動列車制御装置（ATC）、集中列車制御装置（CTC）など備えていた。長田区内の路線は、新長田と長田駅間の新湊川周辺から村野工業高校を通過して長田駅に至る区間で、R・三七〇メートル、R・六

阪神・淡路大震災では、特に新長田駅等開削トンネルのコンクリート柱が被災したほか、路線の側壁・床版にクラックが発生した。新長田駅ビルには、柱・梁・壁にせんだん破壊が見られ、また、長田駅のプラットホームでは支柱損傷が見られた。

まず、最初の復旧は、平成七（一九九五）年一月十八日板宿く西神中央駅で、二月十六日市営地下鉄全線運行開始時には、新長田駅・上沢駅・三宮駅は通過駅で、三月三十一日をもって全駅営業再開の運びとなった。

地下鉄海岸線は、中央・兵庫・長田区の臨海部のインナーシティ現象を食い止める目的で、活性化に向けた先導的な役割を果たす事業として整備され、平成十三（二〇〇一）年七月七日に延長八・一キロメートルの新長田く三宮間が開通した。このため、新長田駅と三宮・花時計前間の所要時間は約一五分となり、新長田駅南地区周辺住民の三宮への通行路線となった。海岸線では、中量規模の鉄輪式リニアモーター駆動地下鉄（リニアメトロ）を採用し、トンネル断面も従来型の地下鉄より小さく、建設費の低廉化を図っている。

新長田駅では再開発ビル「ピフレ新長田」と駒ヶ林駅では二葉町五丁目再開発ビルとの合築が

積極的に進められ、共に都市計画道路五位ノ池線の道路下にあり、民地に抵触することを極力避けるため、市地下鉄工事では初めての「複円形シルドトンネル」工法を採用し、工事の施工を行った。



地下鉄海岸線開業

阪神・淡路大震災による影響として、着工間もない海岸線工事を中断するなどの影響を受け、耐震設計を一からやり直した。

## 七二・長田区の鉄道駅

### ① JR西日本

新長田駅（昭和二十九（一九五四）年四月開業）



新長田駅周辺は、大正筋・六間道をはじめとす

業）

実現し、この駅の開設によって、新長田は、神戸の鉄道交通の中心として発達していくことになる。

### ② 神戸高速鉄道

高速長田駅（昭和四十三（一九六八）年

#### ◆ 商店街と

四月七日開業）

### 昭和49年頃

ゴム工場が多くあり、従来から交通機関誘致の聲が高まっていた。昭和二十九（一九五四）年四月、地元の強力な運動の結果、新長田駅は請願駅として

神戸市内を走る民鉄として、①阪神電車は元町駅まで、②阪急電車は三宮駅まで、③山陽電車は兵庫駅まで、④神戸電鉄は湊川駅まで乗り入れていた東西私鉄の相互接続を目的に、各種交通機関の起点駅統合による神戸市民の利便性と今後の神戸の発展のため、昭和三十三（一九五八）年十月二日に神戸高速鉄道が設立された。高速長田駅は、山陽電車の接続工区として延長四・五五キロメートルの多聞通く新開地く長田を連絡する地下式駅として昭和四十三（一九六八）年四月七日に誕生した。

③ 山陽電鉄

長田駅（明治四十三年（一九〇五年）三月十五日開業、昭和四十三年（一九〇五年）四月六日廃止）

新湊川西詰め  
の長田神社参道前に開設し、大正  
十一年（一九二三年）四月市電上沢線の延長開通  
に際し、市電  
の交差部に  
路面停留所  
として移設し  
たが、昭和十  
九（一九四四）  
年  
末  
新  
湊川東詰め  
に島式ホーム  
の新駅を完  
成し移転し  
た。昭和四

昭和42年頃（上下とも）



昭和42年頃（上下とも）

十三（一九六八年）四月六日兵庫く西代間の営業廃止と同時に同駅も廃止した。

西代駅（明治四十三年（一九〇五年）三月十五日開業）

開業から宇治川電気と合併するまで現西代東、西踏切道の間に位置していたが、昭和三（一九二八）年八月



二八）年八月  
上りホームを東  
踏切道の東側  
に移転した。昭  
和二十三年（一  
九四八年）大  
型車両使用に  
よるホーム延長  
のため下りホー  
ムのみ西代西踏  
切道の西側に  
移設した。次い

で昭和四十二（一九六七）年七月一日都心乗り入れのため、西代東踏切道の東側に六連用の上下対面ホームを有する立体橋上駅を完成、昭和四十三（一九六八）年四月七日の神戸高速鉄道開業の日から同社線の起点駅となった。

#### ④神戸電鉄

長田駅・丸山駅（昭和三（一九二八）年十一月

二十八日開業）

古くから温泉町として栄えていた有馬温泉と神戸湊川を結んだ鉄道として、大正十五（一九二六）年三月二十七日神戸有馬電気鉄道株式会社設立から約二年八ヶ月を要し、昭和三（一九二八）年十一月二十八日に有馬線湊川～有馬温泉が開通した。長田駅は、現在の長田区長田天神町二丁目一〇一に、丸山駅は長田区滝谷町三丁目九二に開設され、標高七〇メートル～九五メートルの山間に設置された神戸市街の玄関口駅として誕生した。◆



昭和43年頃（上）と  
現在（左）の神鉄長田駅



丸山駅（上）と丸山付近を走る電車（下）



### ⑤市営地下鉄（西神・山手線）

長田駅（長田神社前）（昭和五十八（一九八三）

年六月十七日開業）

「西神・山手線」は、ニュータウンと既成市街地、神戸の中心である三宮と国土交通軸の窓口となっている新神戸駅とを接続する路線で、ニュータウンへ新長田駅（西の副都心）へ三宮へ新神戸と順次路線延長を行ってきた。昭和五十二（一九七七）年三月十三日の最初の市営地下鉄新長田へ名谷間が開通してから約六年三ヶ月後の昭和五十八（一九八三）年六月十七日に新長田へ大倉山間（四・三キロメートル）が開通し、それと同時に長田駅が開業した。長田駅は、長田神社参拝の最寄駅でもあり地元から長田駅に長田神社前の呼称追加要望が出され、平成十一（一九九九）年十二月一日に「長田駅（長田神社前）」と呼称追加した。

新長田駅（昭和五十二（一九七七）年三月十三

日開業）

神戸は六甲山系と瀬戸内海に挟まれた狭隘な地域のため、新たな人口定着地の開発として須磨・西神のニュータウン形成が必須であった。そのニュータウンから既成市街地への足の確保する目的で、まず最初に「西神・山手線」を整備することになり、昭和五十二（一九七七）年三月十三日に新長田へ名谷間（五・七キロメートル）が開通し、新長田駅は既成市街地の玄関口（西の副都心の中心駅）として誕生した。



新長田駅南口（ターミナル駅）

## ⑥市営地下鉄（海岸線）

新長田駅（平成十三（二〇〇一）年七月七日開業）

新長田駅は、JR新長田駅の南、市道五位ノ池線の地下にあり、駅はJRのほか市営地下鉄西神・山手線新長田駅、商業施設のジョイプラザ、平成九年に開業した再開発ビルピフレ等とも連絡するターミナル駅として設置された。

周辺地域は、神戸の西の副都心に位置づけられた市街地であり、以前は地場産業であるケミカルシューズ産業等で活気を呈したこともあるが、産業の変革に伴い、昔の活力が失われつつある。そのため、新長田駅のデザインテーマは「活力あるまちの再生」として開業した。

駒ヶ林駅（平成十三（二〇〇一）年七月七日開業）

駒ヶ林は古くからの港町で、漁港としても栄えたまちである。その地域では「左義長」などのまつりと

ともに千年の歴史があり、駅舎デザインテーマを「漁港・海への道」として開業した。◆



駒ヶ林駅（上）と苅藻駅（下）



苅藻駅（平成十三（二〇〇一）年七月七日開業）

苅藻駅は、住宅と工場が混在する下町で、デザインテーマは「新下町・公園通り」として開業した。

## 第二章 長田区内の遺跡・史跡

### 一・長田区内の遺跡調査から

長田区内には数々の遺跡がある。それらは苅藻川と妙法寺川の二つの川の流域に分布している。苅藻川流域には上沢遺跡、五番町遺跡、三番町遺

跡、長田神社境内遺跡、長田南遺跡、御蔵遺跡、神楽遺跡、御船遺跡、水笠遺跡があり、妙法寺川流域には松野遺跡、二葉町遺跡、若松町遺跡、長田野田遺跡、長田本庄町遺跡などがある。これらの遺跡の時代や遺構、遺物について発掘調査の報告書をもとに考えてみよう。



## 一・一・上沢遺跡

兵庫区から長田区七番町、六番町、五番町にかけて広がるこの遺跡は、多くが上沢通に面していることから、この名がつけられている。

ここは縄文時代晩期から弥生時代の前期にかけての集落をはじめ、古墳時代の初期、古墳時代中期、飛鳥時代、平安時代から中世、という少なくとも五つの異なる時代の集落が、地下に何層にも重なり合って形成された「複合遺跡」である。

縄文時代から弥生時代にかけての遺構からは縄文時代晩期の突帯紋土器と弥生土器が同時に発掘された。また、古墳時代中期以降の遺構からは須恵器や土師器、製塩土器のほか、鉄製品や滑石製品、少数のガラス小玉が確認されている。住居址としては、古墳時代中期に放棄されたと思われる竪穴住居が発見されている。



飛鳥～平安時代の遺跡分布

## 一・一・二・五番町遺跡

縄文時代後期前半の遺物が大量に出土した五番町遺跡は、神戸市内では貴重な遺構である。また、古墳時代に祭祀に使われたと思われる小型丸底壺がまとまって出土したほか、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物や中世や近世の遺構、遺物も確認されている。

### 一・三・三番町遺跡

三番町遺跡では、古墳時代・五世紀前半ごろの土坑のほか、中世の溝の跡も見つけられた。これが現在の街路とほぼ平行していることから、古代条里制の地割が少なくとも中世まではさかのぼれることが分かった。この溝の跡からは牛馬の足跡や獣骨のほか、須恵器や土師器も出土している。

### 一・四・長田神社境内遺跡

長田神社境内およびその周辺からは旧石器のほか、縄文時代から中世にいたる集落が確認された。宮川小学校の東の道路には、弥生時代後期から古墳時代にかけて、竪穴住居が密集していた。また、鎌倉時代の多数の掘立柱建物や井戸の跡から、その時代には規模の大きな集落があったことがうかがえる。このほか、ここで出土した縄文時代晚期終末から弥生時代前期の「後頭部結髪土偶」は兵庫県で初めてのものであった。弥生時代後期から終末期のものと考えられる小型彷彿製鏡は、内側

に波形の模様が入っており、全国初の出土例となった。

### 一・五・長田南遺跡

五番町八丁目付近の長田南遺跡は、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。ここからは弥生時代中期ごろの遺構が確認され、この近隣では重要な発見となった。

### 一・六・御蔵遺跡

御蔵通四丁目から七丁目にかけての、東西七五〇メートル、南北六五〇メートルという規模の御蔵遺跡では、縄文土器、弥生土器のほか、弥生時代後期末の讃岐、山陰、吉備、河内地方から搬入された土器が見つかった。古墳時代は洪水の影響で衰退していたようであったが、飛鳥時代には倉庫を含む掘立柱建物、奈良時代後半以降では大型の掘形をもつ掘立柱建物址群などのほか、墨書された土器などが発見されていることから、郡衙的な性格があったと考えられている。それは平安時代前半



神楽遺跡からの出土品

(神戸市埋蔵文化財センター)

弥生時代から中世にかけての複合遺跡である神楽遺跡からは、弥生時代前期の土器がまとまって出土したほか、弥生時代の河道、古墳時代の竪穴住居や井戸、平安時代の掘立柱建物群なども見つか

った。遺跡内には室町時代から鎌倉時代以前には低沼沢地で、中世によく陸地化され、中近世以降に水田や畦が造られて耕地化されたと考えられるところもある。

一・八・御船遺跡

神楽遺跡の北側に隣接している御船遺跡では、弥生時代後期から中世にかけての遺構が見つかった。弥生時代に水田だった所が、その後、度重なる洪水等によって土砂がたまり、集落ができるような土地となっていたようである。鎌倉時代の井戸は、湧水が豊富な場所を選んで掘られていた。

一・九・水笠遺跡

水笠遺跡からは、縄文時代晩期から弥生時代前期の土器やサヌカイトのかげらのほか、弥生時代の柱穴、中世ごろと推定される井戸が発見された。また、平安前期の緑釉陶器と考えられる皿一点や川原の破片等から、近隣に一般と異なる特殊な正確の建物があつたのではと考えられている。

頃まで踏襲されたが、末期の出土品の掘立柱建物や井戸・木棺墓群などには中世的な農村集落の様相が見受けられる。また、この頃の溝の方向は、市街地化される以前の条理割りの方向とほぼ一致しており、奈良・平安期の建物の方向とはまったく異なっていることから、条理の施工は十一世紀頃と想定されている。

### 一・七・神楽遺跡

弥生時代から中世にかけての複合遺跡である神楽遺跡からは、弥生時代前期の土器がまとまって出

土したほか、弥生時代の河道、古墳時代の竪穴住居や井戸、平安時代の掘立柱建物群なども見つか

### 一・九・水笠遺跡

水笠遺跡からは、縄文時代晩期から弥生時代

前期の土器やサヌカイトのかげらのほか、弥生時代の柱穴、中世ごろと推定される井戸が発見された。

また、平安前期の緑釉陶器と考えられる皿一点や川原の破片等から、近隣に一般と異なる特殊な

正確の建物があつたのではと考えられている。

## 一・十・松野遺跡

神戸市営松野住宅一帯の調査では、周囲を掘立柱塀と溝で区画された古墳時代後期前半の豪族居館やそれと同時期の集落が確認されている。



松野遺跡からの出土品  
(神戸市埋蔵文化センター)

この居館と、

その南東側に

あった集落に

は若干の高

低差があり、

一段高い位

置にあった居

館から集落

側を見下ろ

すような形と

なっている。この豪族居館の高床建築の形式は、穀物収納庫でなく、伊勢神宮本殿の祖形とも言えるような、神殿的な性格を持つものだと考えられている。集落からは、多数の滑石製品や、玉製作の

工程を示すものも見つけられた。また、赤色系の土師器や須恵器も多数出土し、この付近には相当大的な集落があったと思われる。このほか、平安時代後期から鎌倉時代前半の掘立柱建物や土坑、木棺墓も見つかっている。

## 一・十一・二葉町遺跡

二葉町遺跡では、鎌倉時代の船の一部が発見された。この船は「三材構造」と呼ばれる製法で造られており、絵図以外で船の構造が明らかになった全国初の出土例であった。平安時代末から鎌倉時代にかけたの掘立柱建物や土坑、井戸、木棺墓が見つかっている。このうちの井戸枠は船材が転用されたものである。また、この地で作られた土師器のほか、東播系の須恵器、和泉産の瓦器、貿易で得た白磁、青磁などが出土した。このことから、この土地での生産力を基盤に、集落外からさまざまな物品がもたらされている様子が見えてくるのである。



二葉町遺跡で発掘された近世の井戸

(二葉町遺跡発掘調査書より)

一・十二・若松町遺跡

弥生時代後期から古墳時代前期にかけての掘立柱建物跡などが見つかった若松町遺跡では、集落のほか、畑や水田などの生産跡も調査されている。

一・十三・長田野田遺跡

長田野田遺跡は、建物跡や柱列の特徴から、奈良時代の公共的な建物の一部と考えられている。

一・十四・長田本庄町遺跡

長田本庄町遺跡では、古墳時代のものと思われる土師器片のほか、同時代の溝や池の跡のような遺構などが検出されている。その柱穴のうちの二基は中世のものと考えられている。

## 二・長田区内の史跡

### 二〇一・海泉寺（かいせんじ）

：駒ケ林三丁目

鎌倉時代に創建され、明治時代に現在地に移ってきた。現在の本堂は、大正時代の改築の際に、



近くにあった

阿弥陀堂の

木材を利用

した物である。

この堂にまつ

られていた阿

弥陀三尊仏

（鎌倉時代の

作・市指定

文化財）を本

尊としている。

日本人初の

ノーベル賞受

賞者・湯川秀樹博士と生前深く交友し、「全人

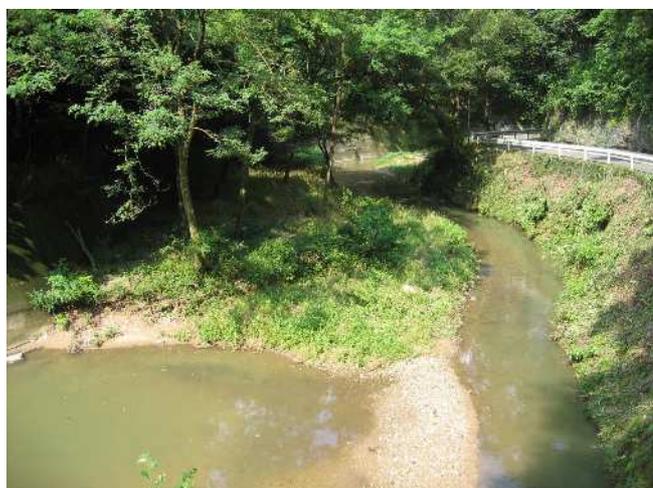
貴の幸福を祈る鐘」など湯川氏にまつわるものや、

江戸時代にこの地を治めていた尼崎藩主・青山幸

利公の報謝碑などがある。

### 二〇二・荻藻川（かるもがわ）

古くからの名称で、『平家物語』や『増鏡』にその名を見ることが出来る。鶴越方面の水を集めた椀



川と美の谷川が

明泉寺の坂下で

合流し、海へと流

れていくのだが、長

田神社付近では

「宮川」と呼ばれて

いる。下流は明治

時代の湊川の付け

替え工事以降、

「新湊川」と名づ

けられた。

### 二・三・源平勇士の碑（げんべいゆうしのひ）

：五番町八丁目



付近に点在していた源平合戦の勇士の碑が、村野工業高校の南西隅の一面に敵味方交える形でまとめてまつられている。この中で「平知章の碑」は、もともと長田の奥の明泉寺でまつられていたのだが、江戸時代に「こんな孝子の基は世の手本となるように」と、人目につきやすい西国街道沿いにたてられたものである。源氏方の猪俣小平六は、平家の山手軍の大將だった平盛俊を討った人物。また、相討ちで亡くなった平通盛と木村源吾重章の

碑もともに見ることができない。

村野工業高校東側の敷地には、平知章を救おうとして討ち死にした、家臣の監物太郎の碑がまつられている。

### 二・四・高福寺（こうふくじ）

：西尻池町四丁目



南北朝時代に創建され、後に西尻池村の中心の寺となった。大正時代に村が所有していた池を市に

売却した利益で大伽藍を建立したが、昭和二十（一九四五）年六月五日の空襲で焼失した。終戦後再建され、現在は素晴らしい日本庭園やさまざまな茶室を有している。

## 二一五・駒林神社(こまがばやしじんじや)

：駒ヶ林三丁目

この神社には、千年以上も前から左義兵(さぎぎつちよ)の行事が行われていた。これは丸太や青竹などで高さ十メートル以上もある壮大な「お山」を作り、村の東西双方が浜辺で倒し合いをして、勝った方



がその年中の網入れの優先権を与えられたことから、壮絶な争いとなり、「駒ヶ林のけんか祭り」と呼ばれたほどであった。戦後、規模が縮小し、昭和三十四(一九五九)年を最

後に中止となったが、地域の伝統として後世に伝えるため、何度か復活して行われてもいる。

境内の稲荷社の玉垣に、片岡千恵蔵や大河内伝次郎、山田五十鈴など、往年の映画スターの名を見ることが出来る。

## 二一六・卅六橋(さいろくばし)

：六番町四丁目・五丁目

新湊川にかかる橋のうち、県立兵庫高校の西側にあるもの。この橋の付近には、旧字名で「上卅六」「下卅六」が残されており、それは古代の条里制の「三六ノ坪」にちなんだ地名からのものである。



二一七・常福寺（じょうふくじ）

：大谷町三丁目

この寺には、奈良時代の僧・行基が蓮の池を作った際に池の樋の余材で刻んだと伝えられている板製の卒塔婆十基が保存されている。境内の観音山には、西国三十三所霊場になぞらえた観音石像や、



南北朝時代の宝篋印塔

「輪廻転生」石車輪のついた勸進碑がたてられている。またのほかに、寺墓地には明治・大正時代の大阪相撲の力士の墓を見ることがができる。

二一八・大国公園（だいくこうえん）

：本庄町二丁目

もと野田村の双子池があった所を大正時代に埋め立て、須磨の証誠神社のお旅所が置かれていた。そこは出雲大社から大国主命を招いたことから「大国神社」と呼ばれていたが、昭和四十二（一九



六七）年に社殿が焼け、同四十六（一九七一）年から公園となり、平成六年（一九九四）に現在のひし形となった。阪神・淡路大震災の時、ここの木々が

付近の火災をくい止めるはたらきをしたことから後世にその教訓を残すべく、記念碑が建てられた。NHKの連続テレビ小説『わかば』の重要なロケ地ともなった。

二・九・鷹取カトリック教会（たかとりかとりつくきよ

うかい）：海運町三丁目

阪神・淡路大震災の時、火災で大きな被害を受けたが、すぐに紙製の建物「ペーパードーム」が建てられ（後に台湾に移築）、まちづくりの集会やミサが行われたほか、多くのボランティアの拠点となった。当時、両手を広げたキリスト像にヘルメットがかぶさっていたのは、この地の思いが見事に象徴されていた。敷地内にはコミュニティFM局「FMわいわい」が開設され（後にアスタくにつかに移転）、エリア内に多く住む在日外国人の心のよりどころともなっている。

また、付近の本庄町三丁目にあるイムマヌエル教会は、長田区出身の舞台美術家・妹尾河童氏の小説「少年H」の中で登場するものである。◆

ペーパードーム  
（後に台湾へ移築）

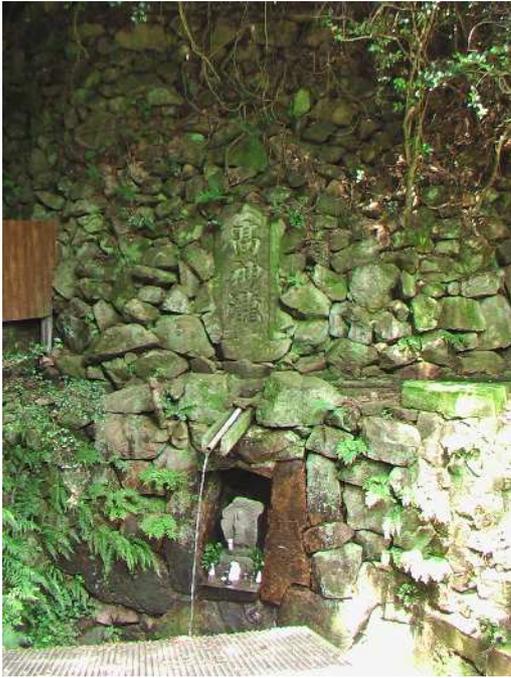


FMわいわい  
（後にアスタへ移転）

## 二十・高取山（たかとりさん）

・高取山町

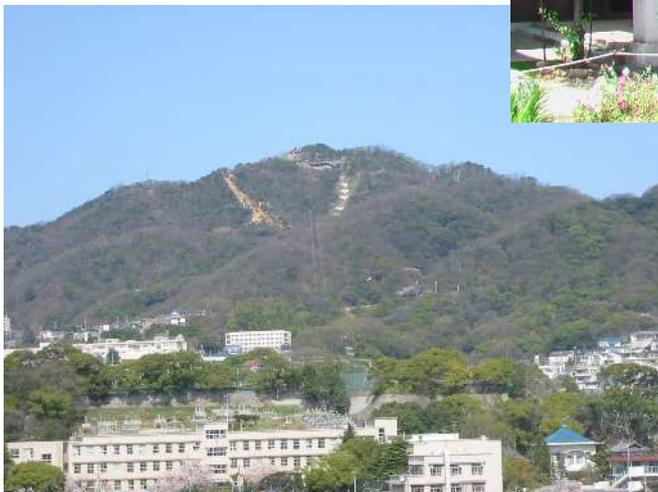
古くは「鷹取山」と書かれた。「神撫山」という呼ばれ方もある。高さは三二〇メートル。山頂には高取神社があり、春日明神などがまつられている。西代からの本道のほか、長田神社西や明泉寺からのルートがあり、毎日登山を行う人も多い。幕末には西麓から石炭が採れたことから、当時の英国版の海図には「コールマウント（石炭山）」と記されている。山腹には襖の場である「高神の滝」もある。◆



高神の滝



高取神社



二一十一・平忠度腕塚・胴塚（たいらのただのりう

でづか・どうづか）

腕塚は駒ヶ林四丁目、胴塚は野田町八丁目にある。平忠度は平清盛の末弟で、源平合戦の際に、一の谷の西の大將だった人物。源氏方の土肥実平軍に襲われ、武者百騎ほどを連れて落ち延びていたところ、源氏方の岡部六弥太忠鈍らに追いつかれ、腕を切り落とされた後、首を取られた。腕塚には十三重の石塔が置かれ、市地域史跡に指定されている。◆



腕塚（上）

胴塚（右）



二一十二・平盛俊塚（たいらのもりとしづか）

：名倉町二丁目

平盛俊は、源平合戦の際に、鶴越などの山手方面を守った軍の総大將であり、もとの明泉寺の地に陣を張った。剛勇のほまれ高かったが、義経軍と戦い、猪俣小平六と組み討ちして討たれた。現在の碑は、大正時代に建てられたものである。

平盛俊の墓は、庄山町三丁目の堂の中にまつられている。◆



二十三・長福寺（ちょうふくじ）

：長田町四丁目



鎌倉時代に建てられたというこの寺は、数えの十三才になった子供を連れて参る「十三まいり」で有名で、毎年三月中旬には多くの人でにぎわっている。

本尊は虚空蔵菩薩で、建武年中には赤松円心が厚く信仰したと伝えられている。

二十四・天神山（てんじんやま）

：長田天神町付近



長田神社の神が、最初に長田の里に降り立ったのがここ、という言い伝えが残されている。現在は、安徳天皇をまつる水天宮が建てられている。安徳天皇は、年若くして壇ノ浦に入水し、源平合戦の犠

牲となって多くの人々を救ったことで、水難などの除災招福の信仰を集めている。江戸から明治にかけての時代には、この地の近くに大きな名倉池があった。

二十五・徳本上人六字妙号石（とくほんしょうに

んろくじみょうごうせき）

：駒ヶ林一丁目

徳本上人は、江戸時代末に諸国を行脚して仏教を分かりやすく伝えた人物。「蔦文字」と呼ばれ

る独特の字体で「南無阿弥陀仏」の六文字が書かれている。



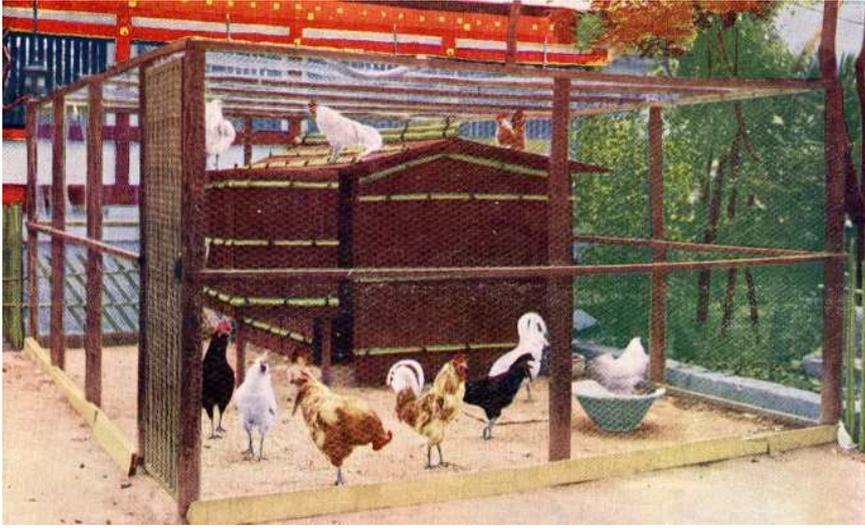
二十六・長田神社（ながたじんじや）

：長田町三丁目

『日本書紀』に神功皇后が、この地に事代主尊を祭った、という一説がある。神戸では、生田神社と並ぶ、古くからの神社である。明治のころ、境内には氏子たちから奉納されたにわとりが放し飼いな

っていたことから、この地を訪れた外国人から「チキントンプル」と呼ばれていた。境内に合配されている長田楠宮神社では、絵馬に赤エイがデザインされている。





境内で鶏を飼う様子（絵葉書より）

これは昔、エイが海からここまで川を上って来たとい  
う言い伝えによるものである。節分の日の鬼追い（追  
儼式）や夏の薪能には多くの人を集めている。◆



二十七・菅公匂いの梅旧跡（かんこうにおいのうめ  
きゅうせき）：東尻池町一丁目  
九州に左遷されていく菅原道真が大輪田の泊か  
ら上陸した時、梅のよい香りに誘われこの地にやっ  
て来た、という言い伝えが残されている。明治時代  
の耕地整理の際、この付近に「梅ヶ香町」の名をつけ  
たのも、この伝説によるものである。◆

## 二十八・西代の楠(にしだいのくすのき)

：西代通二丁目

江戸の天保年間、西代村で頻繁に火事が起こることがあった。それは村の庄屋が、楠の幹に斧を打ちこんだため、根元に住んでいるきつねが仕返しをしていなのだ、という噂が立った。そこで庄屋が楠を切るのをやめたところ、火事も止まるようになり、以後この楠の大本は西代村の守り神とされてきた。後に



道路を広げようとしてこの木に斧を入れた人にも不思議な出来事が続いたので、今ではこの木のある部分だけ、道が狭くなっているのである。

## 二十九・蓮の池跡(はすのいけあと)

：蓮池町

奈良時代、畿内を巡回していた僧・行基が、水不足に悩んでいる農民を救うために築いたという伝説をもつ。『平家物語』や『太平記』にもその名を見ることが出来る。大正末期から埋め立てが始まり、跡地には蓮池小学校や県立文化体育館などが建てられている。◆



二一二十・福緊寺(ふくしゅうじ)

：西山町一丁目



別名「長田の薬師」。これは明治時代以前に長田神社境内にあった薬師堂でまつられていた薬師如来を、神仏分離の際に福緊寺に移したことによ

るものである。現在、長田神社で行われている鬼追い(追儼式)は、もともとこの薬師堂での行事だった。

二一二十一・宝満寺(ほうまんじ)

：東尻池二丁目



弘法大師・空海の開創で、もとは「宝満山金剛峯寺」といったが、後に大師が高野山に金剛峯寺を

開いたことから「金剛山宝満寺」と改めたといい。当初は兵庫区内の和田山の地にあったが、平家の福原遷都の時に、都の守護のためにこの

地に移された。源平合戦で焼かれて衰えたが、鎌倉時代に再興され、湊川合戦の際には足利尊氏との関連も深い。山門横には、江戸時代の尼崎藩主・青山幸利公とその家老をたたえた報謝碑が建てられている。

二一二十二・丸山衝上断層（まるやましようじょうだんそう）

：明泉寺町

今から一億九千年前にマグマが地殻に貫入してできた六甲山塊が、その上に堆積した今から三千万から百万年前の地層の上に衝きあげてできたものである。新しい地層の上に古い地層がのり、上下逆になっていることから、大規模な地殻変動が起きたことが示されている。これは昭和七（一九三二）年に発見、調査され、昭和十二（一九三七）年に神戸市で唯一の国の天然記念物に指定された。この断層により、六甲山系の隆起と大阪湾の陥没との関係が注目されている。



二二二三・満福寺(まんぶくじ)

：海運町四丁目



寺の塀の石の積み方から、別名「亀の甲寺」と呼ばれている。もと野田村にあった三寺のうち、後に廃寺となった長福寺、正福寺を引き継ぐものでもあ

る。境内の  
仏足石は  
もと正福  
寺にあった  
もので、左  
足形の横に  
は七言絶  
句の釈迦  
如来の礼  
賛文が刻  
まれている。

二二二四・御船山旧跡(みふねやまきゅうせき)

：御船通一丁目



この付近にあった「御船山」という小高い丘には、「神功皇后が船を着けた」や「長田の神を鎮座された時、船具を埋めた」などの伝説がある。明治時代、湊川の付け替え工事の際、この丘はなくなったが、後に石碑を立ててその由来を伝えることとなった。

二二二十五・明泉寺（みようせんじ）

：明泉寺町

本尊が大日如来であることから、「大日寺」「大日さん」と呼ばれている。奈良時代、蓮の池を築いた行基が、その水源となる荊藻川の上流をさかのぼ



って調べている時、山間に素晴らしい霊地を見つけ、そこに自ら大日如来像を彫って安置し、この寺を建立したと伝えられている。もとは現在の丸

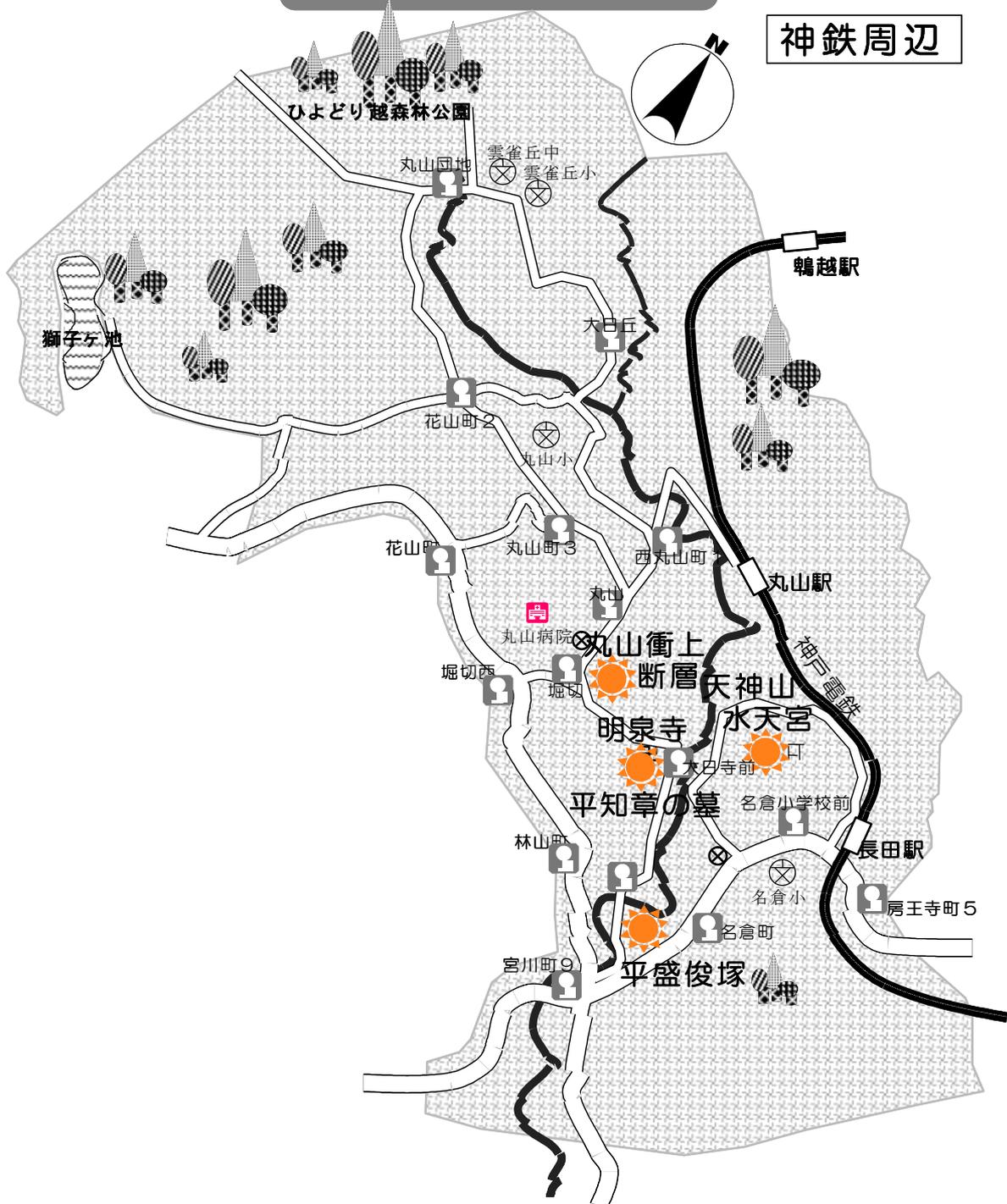
山大橋の下手あたりにあり、ここに陣を張っていた平盛俊の陣に山から奇襲をしかけたのが、義経の「鶉越の坂落とし」と考えられている。江戸時代には「牛の寺」と呼ばれ、農家が牛の健康を祈るために連れて来る風習もあった。◆



# 史跡分布図

No. 1

神鉄周辺

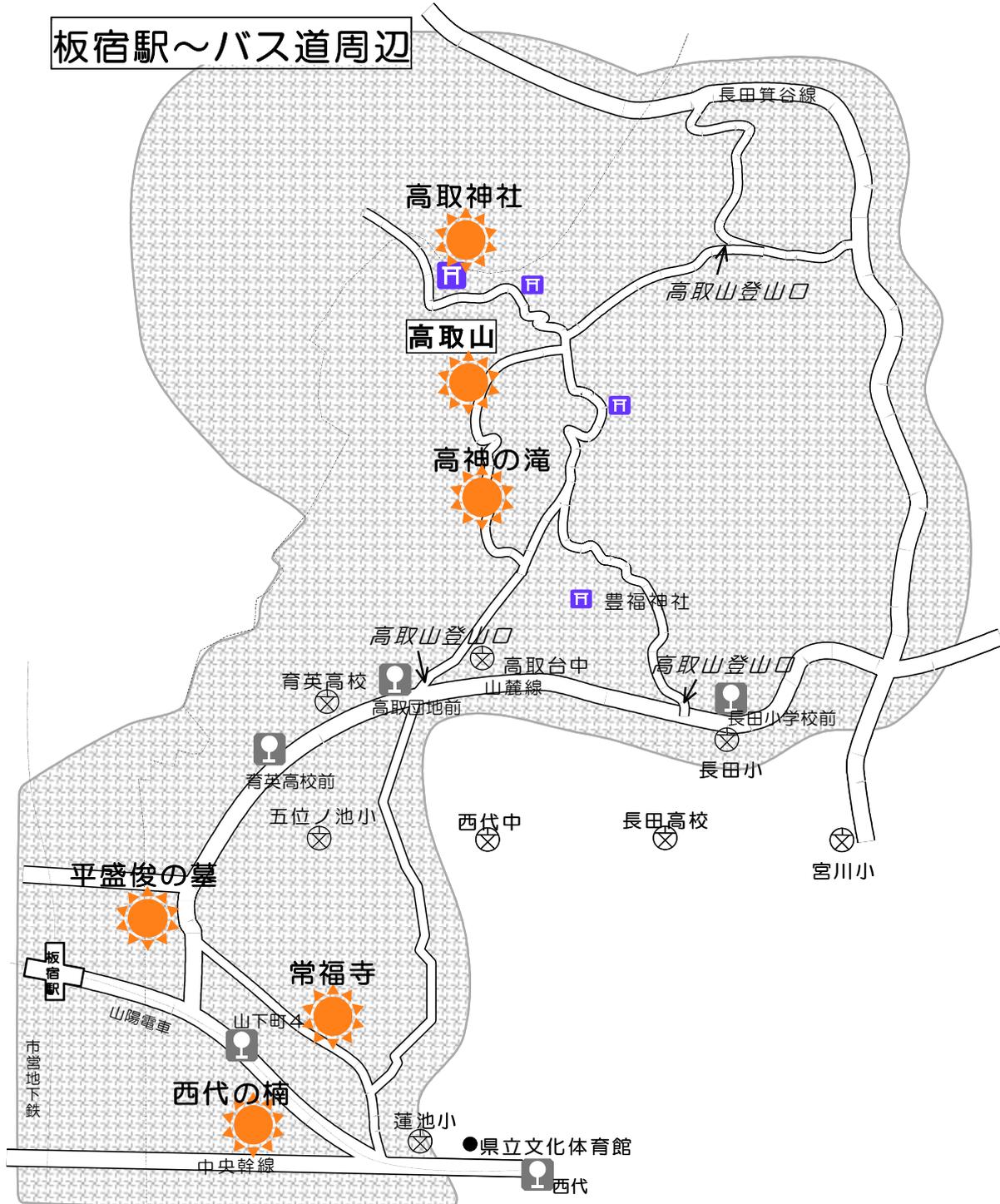




# 史跡分布図

No. 3

板宿駅～バス道周辺



# 史跡分布図

No. 4



JR周辺

三・長田区内の文化財から

三・一・黒漆金銅装神輿（こくしつこんどうそうみ

こし）：国指定重要文化財

源頼朝の奉納とも足利尊氏の奉納とも言われている。鳳凰を飾った方輿で、黒漆塗りに金銅の飾金具を施した豪華な神輿で、康正三年に修理されているが、古体を伝えている。◆



三・二・木造大日如来坐像（もくぞうだいにもくにちに

よらいざぞう）：国指定重要文化財

鎌倉時代に大仏師法眼定運（ほうがんじょううん）ほかにより造像された。肉付きの良い体軀の像形や太い衣文線に運慶風の名残りが認められ、当代慶派の基準作例として貴重なものである。（現在境内への立ち入りは出来ません）◆

国指定重要文化財 **木造大日如来坐像 1躯**  
 Wooden sculpture of Dainichi Nyorai.  
 Height: 101.1cm.  
 Kamakura Period (13th century).

附	木造大日如来坐像	1躯
	舍利	
	舍利注文	1通
	般若理窟経・金剛界礼讃	

所 在 神戸市長田区東所池町2丁目1-1 宝満寺  
 本体 像高 101.1cm  
 品質・構造 ヒノキ材・青木造  
 造像年代 鎌倉時代(胎内銘 永仁4年(1296)9月9日)  
 指定年月日 平成9年8月30日

「西摂大観」にある寺記及び古文書などによれば、宝満寺は大和3年(808)弘法大師が開創し、もと和田山の字寺山(現在の兵庫区和田山通付近)にあったが、治承4年(1180)平清盛が、徳内裏造築のとき現地に移したと伝えられている。寿永3年(1184)源平による一の谷の合戦で伽藍の大部分を焼失したが、文永3年(1266)龜山天皇の勅命で法燈直明国師によって、権寺として再建されたという。また、建武年中(1334-1336)には足利尊氏の崇敬を受け、伽藍の修復及び寺領を寄進されたことが見られる。のち、天正7年(1579)荒木村重により寺縁を没収され、伽藍は焼き討ちに遭い壊滅する。

昭和20年(1945)6月5日、米軍による空襲で宝満寺は全焼し、寺史に関する文書資料は焼失するものの、大日如来坐像といくつかの寺宝は、境内の枯れ井戸に隠されていて被災を免れた。

平成7年(1995)1月17日の阪神淡路大震災で伽藍の総てが損傷を受けたが、幸いにも火災からは免れ修復された。

本尊である木造大日如来坐像は、度重なる戦乱・災害にもかかわらず難を免れ、今に伝わっている。肉付きのよい体軀の像形や太い衣文線に運慶風の名残りが認められ当代慶派の基準作例として貴重なものである。

特に注目されるのは、像内の内割り前部を総金箔で、後部を総銀箔で覆う仕上げ法で、本像と同様の例は知られておらず、像内荘嚴の有り様を考える貴重な事例である。

また、像内より口脣を穿って、口脣のわずかな隙間に貫通していることも特徴的であり、朱書きされた胎内銘によって、永仁4年(1296)の製作年代、大仏師法眼定運をはじめ、4人の仏師の名とともに、造像の種名などがわかる。

附指定の4点は、いずれも像内から取り出されたと伝えられ、この中の金剛界大日如来小像の台座裏面の輪郭が、像内胸部に設えた蓮台の痕跡と一致する。舍利注文には8人の交名と書かれた舍利の粒数が記されており、般若理窟経・金剛界礼讃は、本像の大勧進として、銘文に記される井日が弘安3年(1280)に書写したもので、いずれも本像の関連資料として造ることの出来ない品々である。

平成11年12月 神戸市教育委員会  
 ※御尊像は、拝観できません。ご了承ください。



三・三・長田神社古式追儼式 附 鬼面 7面

(こしきついなしき つけたり きめん)

・県指定重要無形民俗文化財

追儼(ついな)とは、悪鬼を追い払って来るべき年の幸福と健康を願う年中行事で、おに、おにやらいともいう。室町時代から薬師堂の行事として続けられてきたが、明治時代になって長田神社で受け継がれた。毎年節分の日に行われ、多くの観光客を集めている。

この行事は、七匹の鬼と五人の太刀役(十歳前後の子供)、十数人の肝煎り(お世話をする人)により構成されている。七匹の鬼は、一番太郎鬼、赤鬼、姥鬼、呆助鬼、青鬼、餅割鬼、尻くじり鬼と呼ばれ、松明、斧、大矛、太刀等を持って乱舞し、最後に餅を斧で割って締めるものである。鬼は神々の使いと伝えられ、災いを払い、良い年を迎えることを祈って踊るといわれている。◆



長田神社追儼式(其一) 鬼面



長田神社での追儺式の様子

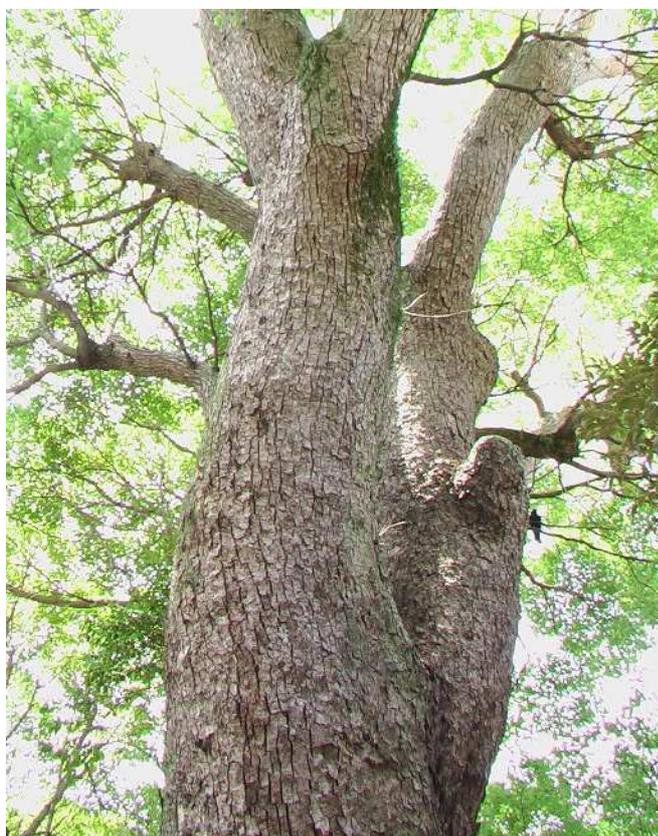


### 三・四・長田神社のクスノキ 2本

・市指定天然記念物

長田神社境内に樹齢七〇〇年ともいわれるクスノキが二本あり、右の一本は胸高周囲六・二メートル、樹高二二メートルで、地上二〜三メートルあたりから幹が三つに分かれている。

また、左の一本は胸高周囲五・一メートル、樹高二〇メートルで少し小さめだが、根の部分が他方の根と融合しており、非常に珍しいものである。



## 長田区の文化財一覧(平成16年4月1日現在)

### 国指定重要文化財(有形文化財)

名称	所在地	所有者 (管理者)	年代
黒漆金銅装神輿(こくしつこんどうそうみこし)	長田町3	長田神社	南北朝
木造大日如来坐像 1軀 附 木造大日如来坐像 1軀 舍利 1包 舍利注文 1通 般若 (もくぞうだいにちによらいざぞう いったい つけたり もくぞうだいにちによらいざぞう いったい しやり いっぽう しやりちゆうぶん いっつう ほんにゃ)	東尻池町 2	宝満寺	鎌倉後期

### 国登録文化財(有形文化財)

名称	所在地	所有者 (管理者)	年代
長田神社 本殿(ほんでん)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 幣殿(へいでん)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 拝殿(はいでん)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 東楽所(ひがしがくそ)	長田町3	長田神社	昭和3年

名 称	所在地	所有者 (管理者)	年 代
長田神社 西楽所(にしがくそ)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 透塀(すきべい)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 天照社(てんしょうしゃ)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 八幡社(はちまんしゃ)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 月読社(つきよみしゃ)	長田町3	長田神社	江戸期 (昭和3年 移転)
長田神社 出雲大社(いずもたいしゃ)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 蛭子社(ひるこしゃ)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 松尾社(まつおしゃ)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 神門(しんもん)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 神符授与所及び附属屋 (しんぷじゅよしょおよびふぞくや)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 廻廊及び脇門 (かいろうおよびわきもん)	長田町3	長田神社	昭和3年
長田神社 神楽殿(かぐらでん)	長田町3	長田神社	昭和3年
榎橋家住宅 主屋(つちはしけじゅうたく しゅや)	池田寺町	(株)日本エ スコン	大正12年

### 国指定(天然記念物)

名 称	所在地	所有者 (管理者)	年 代
神戸丸山衝上断層 256.9m (こうべまるやましょうじょうだんそう)	明泉寺町	神戸市	

### 県指定重要文化財(有形文化財)

名 称	所在地	所有者 (管理者)	年 代
太刀拵(たちこしらえ)	長田町3	長田神社	室町後期
石造燈籠(せきぞうとうろう)	長田町3	長田神社	鎌倉後期

### 県指定重要無形民俗文化財

名 称	所在地	所有者 (管理者)	年 代
長田神社古式追儺式 附 鬼面 7面 (こしきついなしき つけたり きめん)	長田町3	長田神社・ 旧氏子	

### 市指定有形文化財

名 称	所在地	所有者 (管理者)	年 代
木造阿弥陀三尊像(もくぞうあみださんぞんぞう)	駒ヶ林3	海泉寺	鎌倉時代
木造板五輪卒塔婆(もくぞういたごりんそとば)	大谷町3	常福寺	平安時代 後期

### 市指定(天然記念物)

名 称	所在地	所有者 (管理者)	年 代
長田神社のクスノキ 2本	長田町3	長田神社	

### 市地域史跡

名 称	所在地	所有者 (管理者)	年 代
腕塚(平忠度塚) (うでつか(たいらのただのりづか))	駒ケ林3	駒ケ林4丁目南部自治会	
菅公匂の梅旧跡	東尻池1	匂ノ梅史跡保存会	
平忠度胴塚(たいらのただのりどうづか)	野田町8	野田町8丁目自治会	
監物太郎頼賢の碑(けんもつたろうよりかたのひ)	四番町8	監物太郎保存会	

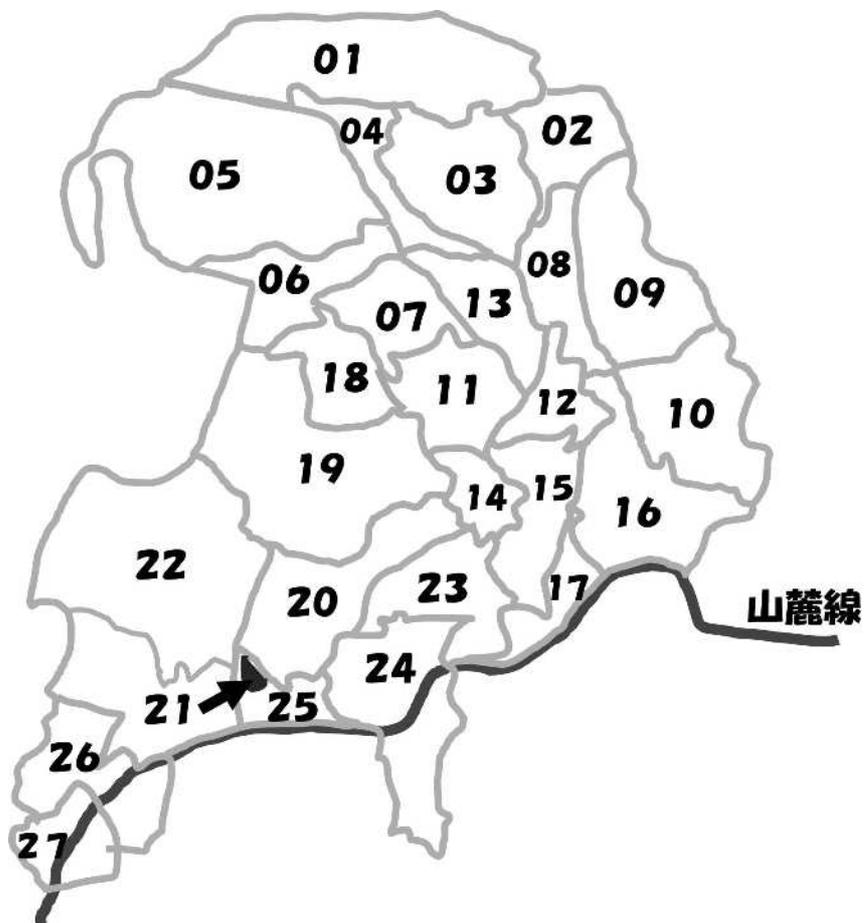
### 市地域無形民俗文化財

名 称	所在地	所有者 (管理者)	年 代
長田マダン	若松町1	長田マダン実行委員会	

### 第三章 長田の町名

#### 一．北部地域

25	22	19	16	13	10	07	04	01
宮丘町	高取山町	長者町	長田天神町	西丸山町	滝谷町	花山町	萩乃町	雲雀ヶ丘
26	23	20	17	14	11	08	05	02
長尾町	林山町	池田宮町	名倉町	堀切町	丸山町	檜川町	一里山町	鶯町
27	24	21	18	15	12	09	06	03
平和台町	西山町	池田惣町	高東町	明泉寺町	東丸山町	源平町	鹿松町	大日丘町



### 雲雀ヶ丘（ひばりがおか）

昭和十六（一九四一）年三月に、長田村字口一里山から独立した町となり、住宅開発による新造成地によって、旧字に関係なく新しい名が付けられた。◆

町は長田の最北端に位置し、面積の半分は「ひばり越森林公園」で、ひばりをはじめとする様々な鳥の鳴き声が聞こえてくる、長田のオアシス的な町である。町の真ん中を新湊川の源流である檜川が流れており、公共施設としては、雲雀ヶ丘中学校・雲雀ヶ丘小学校がある。



### 鶯町（うぐいすちょう）

昭和十六（一九四一）年三月に、長田村字口一里山から独立した町となり、住宅開発による新造成地によって、新しい名が付けられた。周辺が山麓地帯であり、歩いていても鶯の鳴き声がすることからこの名が付けられた。

町は、雲雀ヶ丘と同じく長田の北端にあり、大日丘町との境界には荻藻川の源流が流れ、北端には「西神戸有料道路」が東西に走っている。◆



### 大日丘町（だいにちおかまち）

明泉寺町にある明泉寺は、大日如来を本尊としているが、もとはこの地に建てられていたので、そこから大日丘と名付けられた。源平一ノ谷合戦で源氏方に寺を焼かれ、観応二（一三五一年）年に赤松光範によって、今の地に復興された。

町は、東側に苧藻川、西側に檜川が流れ中央を市バス四系統が南北に走っている。市有地が多かったため、町内には公園が五ヶ所と、地域福祉センターや児童館などなどの施設が多くある。



### 萩乃町（はぎのちょう）

昭和十六（一九四一年）年三月に、長田村字口一里山からそれぞれ独立した町となり、住宅開発による新造成地によって、新しい名が付けられた。当時は、周辺にハギが咲き乱れていたため付けられたと思われる。

町は、長靴の形をしており、東は大日丘町との境界を檜川が流れており、中央には市バス四系統が北東に走っている。



### 一里山町(いちりやまちょう)

もとは長田村口一里山の一部分であった。古くは兵庫から山田村へ通じる途中の山地を、口一里、山二里、奥一里と呼んでいた。平野部から一里(三六丁、一丁は六十間)を単位に、口・中・奥といったものと思われるが、口と中は入会山だったらしく、村で権

◆利をもっていた区域では、村人がまぐさや柴をかったりしていたといわれている。

町は、大半が山地で、南の鹿松町との境界に沿って民家が建ち並んでいる。大日川に沿いに行くと源流の源である獅子ヶ池がある。



### 鹿松町(しかまつ)

高取山の裏側を明泉寺から須磨・妙法寺に抜ける鹿松峠からとった町名で、源平一ノ谷合戦において、平盛俊が明泉寺に陣を敷いていた時、射殺した鹿を食べようとしたが、高取山が春日明神であり、鹿はその神の使いであるため、食べずに松に寄せかけ、そこから鹿松の名が起ったといわれている。◆

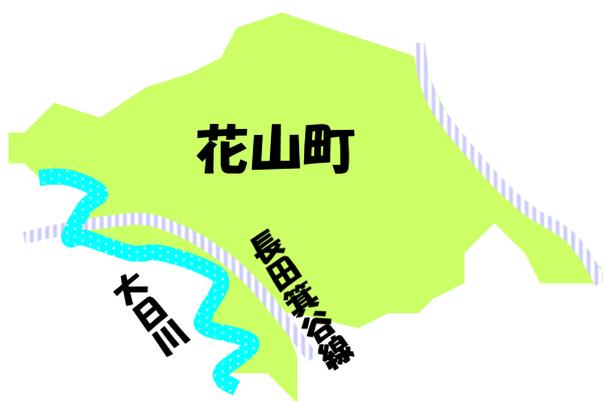
町は、須磨区を含む六町との境界に囲まれている地域で、中央を東西に大日川が流れ、この川沿いに行くと源流の源である獅子ヶ池がある。



### 花山町（はなやまちょう）

昭和十六（一九四一）年三月に、長田村字口一里山から独立した町となり、住宅開発による新造成地によって、新しい名が付けられた。当時は、この周辺に多くの花が咲いていたことから名付けられたと思われる。

町は、西側に長田箕谷線が、東側に市バス四系統が南北に走っており、一部は長田箕谷線を越えて大日川までが境界となっている。



### 檜川町（ひかわちょう）

檜川は、荻藻川（現在の新湊川）の名ができる以前からあった名で、そのころは「ひのかわ」と呼んでいた。この檜川流域から、大量の弥生時代の土器が発掘されており、長田における歴史の始まりとも言える地域で、「ひのかわ」とは農作物が豊かに実ることを表している。（スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治して、奇稲田姫を救った出雲の川では「ひ」は日、霊、火に通じ、人間の生命に最も大切なものを表わしている）

町は、東を神戸電鉄が走っており、西は荻藻川に沿って伸びる南北に細長い地域で、東側は急激な勾配になっており、階段が多く見られる。



### 源平町（げんぺいちょう）

神戸電鉄の「鷗越」と「丸山」駅間の軌道と西神戸有料道路に挟まれた地域で、昭和十六（一九四一）年三月に、長田町の口一里山・松尾・鳴乎・長梭が源平町となった。町名は、源平の古戦場に近いところから名付けたといわれている。

町は、西側の境界を神戸電鉄が南北に走り、東側は兵庫区で西神戸有料道路が走っている。民家の大半は北部地域に集中しており、長田から源平町に行くには、すべて神戸電鉄のトンネルを通過しなければいけないという特殊な地形になっている。◆



### 滝谷町（たきたにちょう）

長田村滝ヶ谷の古字から名付けられたもので、昭和十六（一九四一）年三月に長田村の空髭、空髭谷、市後谷の各一部と合わせて一町となった。兵庫区滝山町と接し、古くから滝ヶ谷山と呼ばれていた。

町は、西を神戸電鉄が南北に走っており、丸山駅がある。東は兵庫区で西神戸有料道路が走り、交通手段は神戸電鉄、市バスともに兵庫区内方面へとなっており、長田区でありながら兵庫区の一部のような特殊な地域になっている。



### 丸山町（まるやまちょう）

明泉寺の北側の丸山が開発された際に「丸山」と名付けられ、丸山遊園地として庶民の憩いの場となっていたが、その後、丸山病院や各種福祉施設が建つコミュニティ地域として知られている。

町は、西側に長田箕谷線が、東側に市バス四系統が走っており、病院や福祉施設が集中しているため、周辺地域の中では賑わいのある地域である。◆



### 東丸山町（ひがしまるやまちょう）

昭和十六（一九四一）年三月、長田村から分かれたもので、明泉寺の北側の独立した山が開発された際に「丸山」と名づけられたため、その東を「東丸山町」と名付けた。

町は、西に市バス四系統のバスが南北に走り、東は苧藻川が境界となっている。また中央部は小高い丘で、頂上にはテレビ中継放送所があり、その丘を取り囲むように南東方面に民家が点在している。◆



### 西丸山町（にしまるやまちょう）

昭和十六（一九四一）年三月、長田村から分かれたもので、明泉寺の北側の独立した山を開発された際に「丸山」と名付けられたため、その北を「西丸山町」と名付けた。

町は、西に市バス四系統の北行きが、中央に南行きが走り、東は荻藻川が境界となっている。また中央部には、丸山小学校・丸山ひばり幼稚園があり、東端には「丸山コミュニティセンター」がある。



### 堀切町（ほりきりちょう）

堀切は、地面を掘って切り通した掘のことで、旧長田村の字の堀切からきており、昭和十六（一九四一）年二月に、明泉寺・美ノ谷・口一里山の各一部が含まれ名付けられた。

町は、西に流れる川は大日川（美ノ谷川ともいわれている）で、東側は市バス四系統が走る道路が境界になっている。地形的には小高い丘にらせん状に民家が点在している。



### 明泉寺町（みょうせんじ）

明泉寺町の名は、この地に天照山明泉寺があるところから付けられた。明泉寺は臨済宗の南禅寺の末寺で、本尊の大日如来の靈験をたたえた記録も多く、一般には寺名よりも「大日寺」または「大日さん」「牛の寺」で知られている。

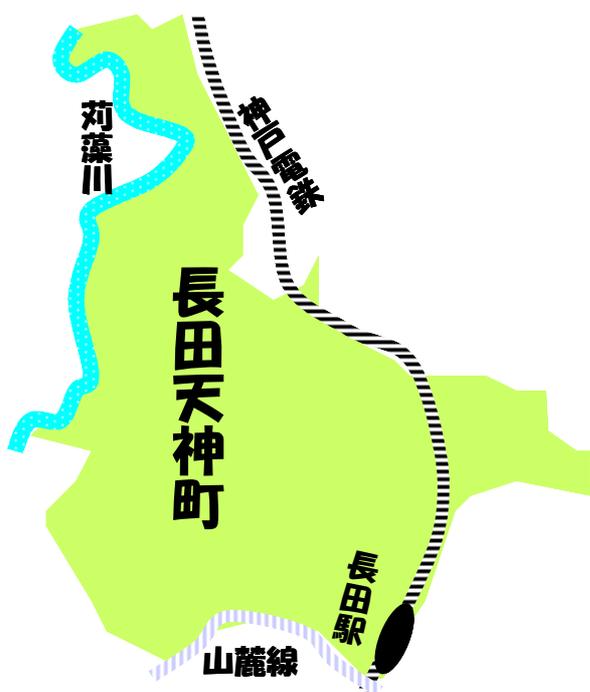
町は、東に荊藻川が、西に大日川が南側で合流し、中央にはジグザグに市バス四系統が走っている。北端の市バス堀切バス停近くには、今から一〇〇万年前頃に、六甲山が隆起したといわれる。衝上層の一角が露出しており、「丸山衝上断層」として天然記念物に指定されている。◆



### 長田天神町（ながたてんじんちょう）

天神山（神奈備山）は、古代の神まつりのため、清浄な地を選んで、神の降臨の場としたが、長田神社の神はこの山へ降り、やがて川沿いに里へ下ったといういつたえがあり、その天神山から名付けられた。須磨区にも天神町があるので、頭に長田をつけ、長田天神町とした。

町は、東側を神戸電鉄が走り長田駅がある。西は荊藻川が流れ、南は山麓線が東西に走っている。



### 名倉町（なぐらちょう）

元は「名倉池（空髭池）があった地域で、昭和四（一九二九）年に埋められて名倉小学校が建設され、その際に名倉町と名付けられた。

名倉の由来は、周辺の地形から、よく地崩れが起こった場所で、ナグレル（地崩れのあった地形）の意味と思われる。

町は、北を荻藻川が流れ、南を山麓線が東西に走っている、ラクダのこぶのような地形になっている。

荻藻川沿いには、源平一ノ谷合戦で戦死した

「平盛俊の碑」がある。◆



### 高東町（こうとうちょう）

高取山の東（正確には北々東）にあたることから、昭和十六（一九四一）年に長田村口一里山・爺父懐・焼尾の各一部が一町となった際、高東町と名付けられた。

町は、北側から東側に大日川と鹿松川が流れ、平行して長田箕谷線が走っている。川に沿って高東町公園があり、丘には鶴越通信所の鉄塔（長者町）がそびえている。



### 長者町（ちようじゃまち）

昭和十六（一九四一）年三月に長田村口一里山・焼尾の各一部が一町になった際、名付けられた。長田の神の斉主、長姫長者の伝説にもとづいて名付けたといわれている。

町は、東側に長田箕谷線と大日川があり、西側は須磨との境界、南側は高取山と隣接した地形になっている。民家は長田箕谷線沿いに集中しており、大半は高取山の裏山となっている。



### 池田宮町（いけだみやまち）

旧池田村の梅木畑、コイシ、引谷、蛇持にまたがる地域を一町としたのが池田宮町で、江戸時代の「伊勢講」のお宮さんが、明治二十（一八八七）年ごろ、この地区にある天照大皇神宮へ合祀され、そこから名付けられたといわれている。

町は、高取山の山道の一部になっており、住宅はなく人も住んでいない。



## 池田惣町(いけだそうまち)

字惣谷、コフリウ、谷畠を一町としたのが池田惣町で、旧池田村の谷畠を合わせたところにあり、もとは入会地であった。町は、高取山の山道の一部になっており、住宅はなく人も住んでいない。

## 池田惣町

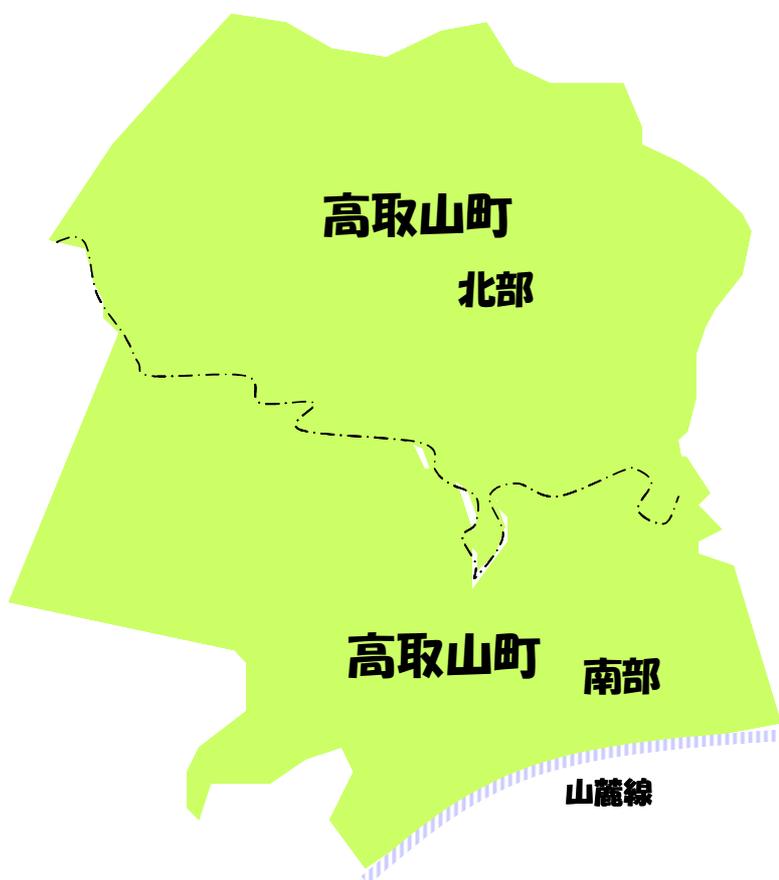


高取山町南部は、高取山の南登山口にあたるところで、南境界の山麓線から高取登山口までの間に民家が建ち並んでいる。

## 高取山町(たかとりやまちょう)

高取山は、神功皇后が新羅遠征の帰還の際に、神奈備(山の神として崇めた神体山の意味)として奉斎したといわれ、山を撫でたためその名が付いたといわれ、高取山町はその名を町名に付けたものである。

高取山町北部は、高取神社を中心として各登山道があり、早朝登山など多くの市民のオアシスとなっている。



### 林山(はやしやま)町

昭和十六(一九四一)年三月、長田村の碁

石・藪ノ内・寺ノ内・於々古谷・美野谷が一町になり名付けられたもので特別の意味はなく、この周辺には丘のような山が多くあることから、木が多く茂った山の意味と思われる。

町は、北は高取山の裾野で、東は大日川が境界となっている。東沿いに長田箕谷線が走っており、

その両側に民家が建ち並びその西側に「神戸学院女子短期大学」(神戸学院大学と統合予定)がある。

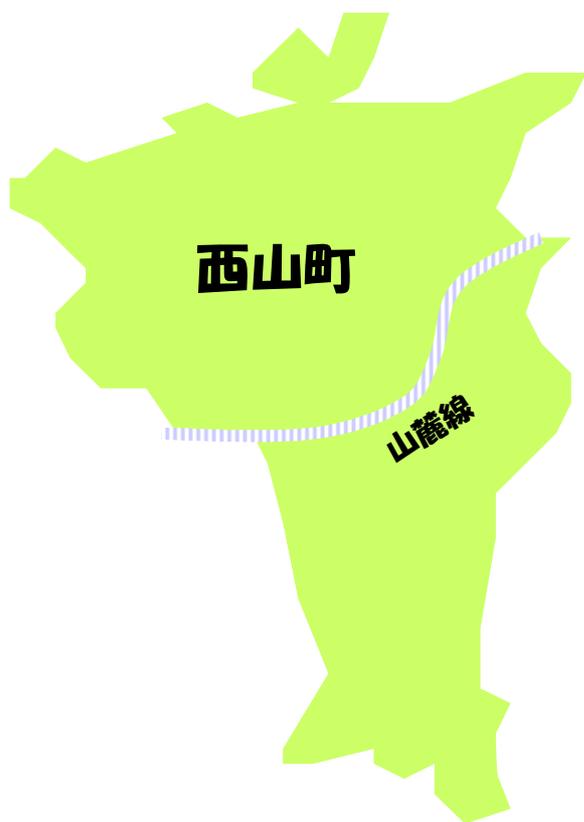


### 西山(にしやま)町

大正十一(一九二二)年十二月に、長田村の

上所・水谷・西浦・赤松・下碁石・瀧山から一町とした。西山とは、長田の中心から見て西の丘陵という意味と思われる。

町は、山麓線を中央に挟んで南北に分断されている。北には西山公園や高取山に通じる登山口があり、南側には長田小学校・神戸学院大学法科大学院・長田墓地・福聚寺などがある。



### 宮丘町（みやおかちょう）

昭和四十九（一九七四）年八月の住居表示改正で、池田宮町、池田丘町、池田惣町、西山町二丁目の各一部を合わせて一町となった。四町のうち、世帯数の多い宮町と丘町から一字ずつ採って「宮丘町」にしたといわれている。

町は、南に山麓線が東西に走っており、東の境界沿いは高取山の宮丘町からの登山道になっている。



### 長尾町（ながおちょう）

昭和三十二（一九五七）年八月に、もと西代村の長尾・小池ノ内・柳谷・轟谷が一町となり長尾町となった。旧字長尾の一部は高取山町にも

入っているが、ナガオのオは、「尾っぽ」、つまり山（高取山）の尾を長くひいている、という意味といわれている。突き出た端の地形を「オ」といい、山麓がそのまま長く張り出した形で、この尾は平和台町、庄山町まで続いている。

町は、中央を東西に山麓線が走っており、北側は育英高校や一戸建ての住宅群で南側は社宅や団地が建ち並んでいる。



### 平和台町（へいわだいちょう）

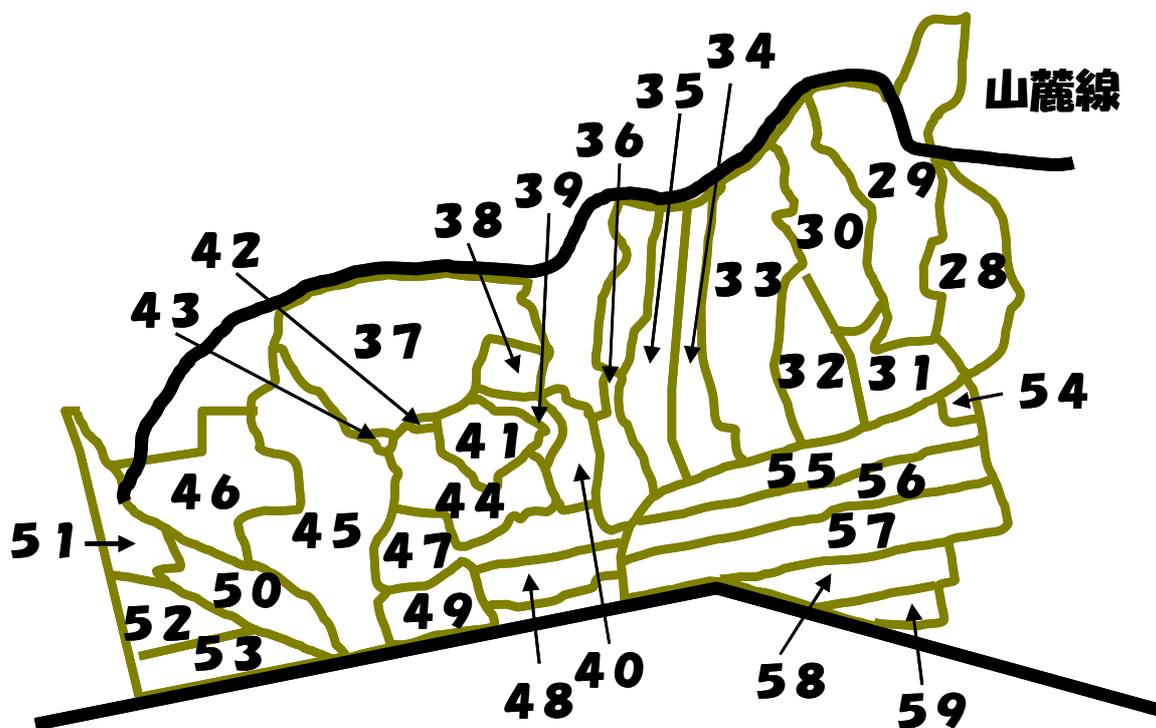
昭和二十七年（一九五二）年三月、西代村の上西ノ谷・中西ノ谷・下西ノ谷・西ノ谷・西山・中ノ庄池下・柳谷が一町となって平和台町になった。戦後ということで旧名から名付けず、新しい名前が付けられた。

町は、西が須磨区との境界で、真ん中を南北に山麓線が分断している地域である。



二. 中部地域

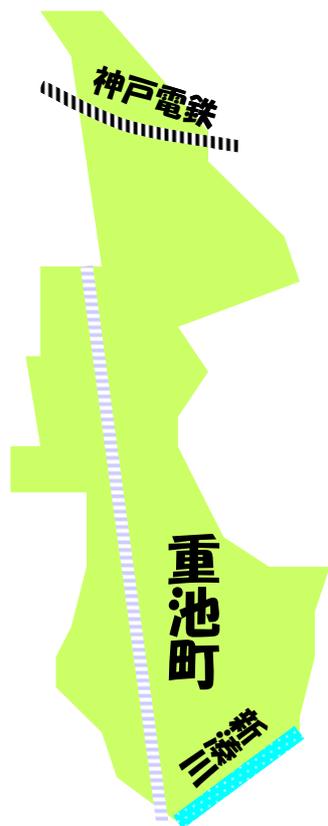
- |           |           |           |           |             |            |            |            |           |           |            |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| 58<br>三番町 | 55<br>六番町 | 52<br>戸崎通 | 49<br>蓮池町 | 46<br>五位ノ池町 | 43<br>池田塩町 | 40<br>池田広町 | 37<br>上池田  | 34<br>大塚町 | 31<br>前原町 | 28<br>重池町  |
| 59<br>二番町 | 56<br>五番町 | 53<br>西代通 | 50<br>山下町 | 47<br>蓮宮通   | 44<br>池田上町 | 41<br>池田経町 | 38<br>池田谷町 | 35<br>長田町 | 32<br>寺池町 | 29<br>房王寺町 |
| 57<br>四番町 | 54<br>七番町 | 51<br>庄山町 | 48<br>御船通 | 45<br>大谷町   | 42<br>池田新町 | 39<br>池田寺町 | 36<br>宮川町  | 33<br>片山町 | 30<br>大丸町 |            |



### 重池町（おもいけちょう）

昭和五（一九三〇）年十一月に、長田村の重池・畑田・下重池・房王寺谷の一部が一町になった際に名付けられた。傾斜地にある数個の池を下から眺めると、池が重なっているように見えたので「重ね池」と呼んでいたのが、いつしか重池になったといわれている。

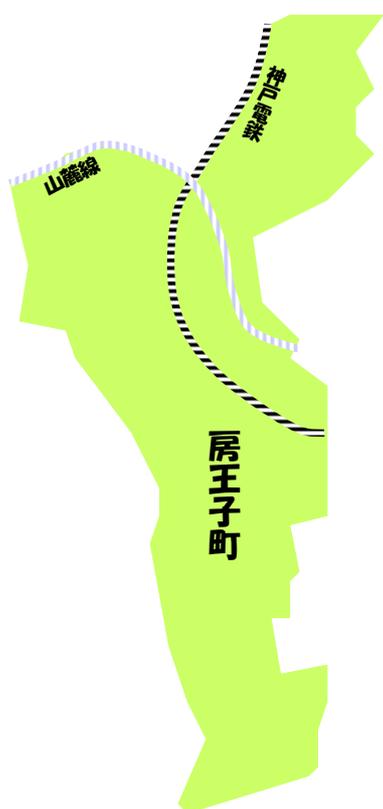
町は、東が兵庫区との境界になっており、南東の境には兵庫から流れる新湊川隧道の出口がある。



### 房王寺町（ぼうおうじちょう）

長田村の釜ヶ谷・兎谷・前原・重池・下垂池・兎谷口・大丸・笠灰・名倉谷・空髭の一部が一町になった際に名付けられたが、その中には房王寺の名はない。東隣の重池町の旧字に、房王寺谷があるところから、その付近に寺院があり、そこから房王寺と名付けられたと思われる。

町は、東側に兵庫区との境界があり、神戸電鉄と山麓線が交差して町内を南北に分断している地域で、市営住宅が多く、名倉小学校や県立夢野台高校などがある。◆



### 大丸町（だいまるちょう）

旧字名では、兎谷・兎谷口・杓ノ池・宮池・細谷・名倉谷・空髭と、もと名倉町だった一部を含み、昭和五十五（一九八〇）年に大丸町と名付けられた。大丸の由来は特にないが、周辺の地形から見て、円形の丘陵の意味と思われる。

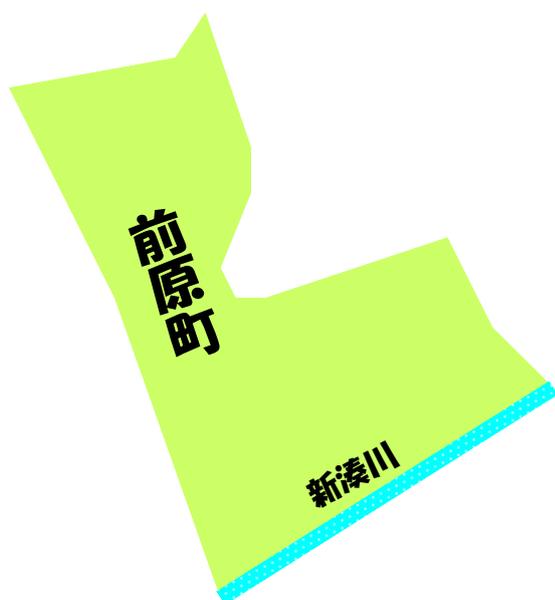
町は、山麓線から南に伸びた地形で、中央付近に丸山中学校と大丸山公園がある。◆



### 前原町（まえはらちょう）

昭和五（一九三〇）年十一月に、長田村の塔ノ本・室ノ内・前原・釜ヶ谷・幸池・率池谷・鬼谷・杓ノ池・寺池西が前原町になった。前原は平安時代の郡家（郡の役所）があったところである。

町は、南に新湊川が東西に流れ、町内には室内小学校がある住宅地域である。◆



### 寺池町(てらいけちょう)

昭和五(一九三〇)年十一月に、長田村の前原・室ノ内・上州六、寺池・寺池谷・兎谷・杓ノ池・寺池西が「寺池町」となった。

町は、南に新湊川が東西に流れ、南西角の「三六橋」は昔の条理の名残を残した橋名である。町内には県立兵庫高校・湊川高校がある住宅地域である。◆



### 片山町(かたやまちょう)

長田村の小字に「片山」があり、その名をとって、大正八(一九一九)年六月に名付けられた。

片山とは、宮川(荊藻川)をはさんで東側の丘陵、つまり片一方の山の意味と思われる。

町は、北を山麓線、南を新湊川に挟まれた縦に長い住宅地域である。◆



### 大塚町（おおつかちょう）

長田村の山崎、角地、尾向牛などを一町として名付けられた。古墳（塚）が点々とあったことから町名となっているが、その古墳は現在はない。

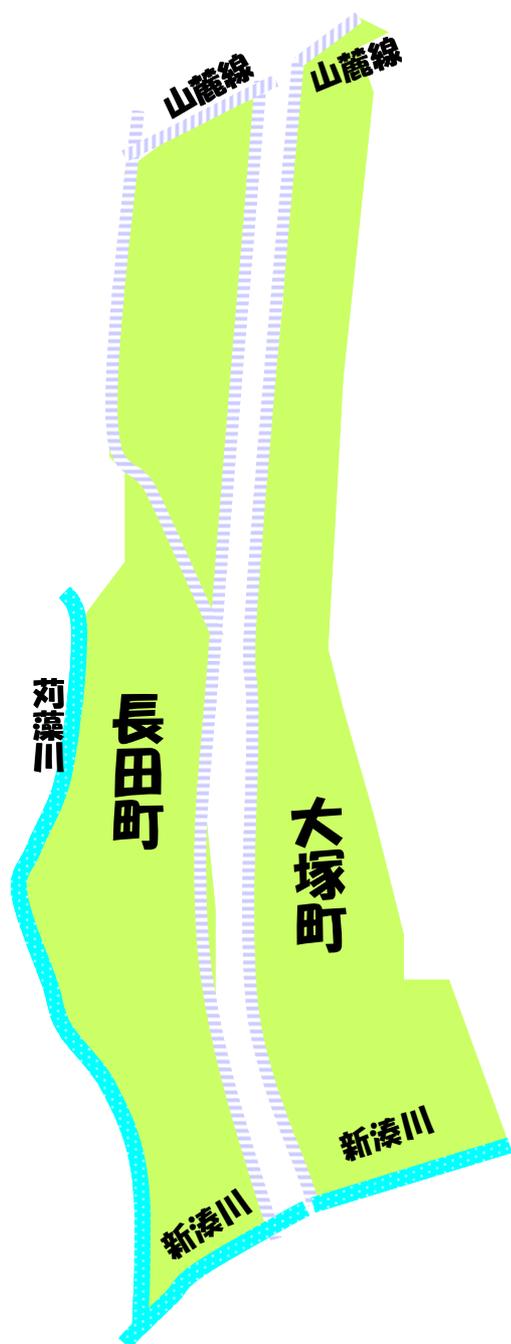
町は、北を山麓線、南を新湊川に挟まれた縦に長い三味線のような地形で、南西側沿いに商業が集積している地域である。◆

### 長田町（ながたちょう）

大正十一（一九二二）年十二月に、長田村の界地・構口・中島が一町となって名付けられた。この地域には長田神社があったため、この由緒ある

町名が付けられたといわれている。

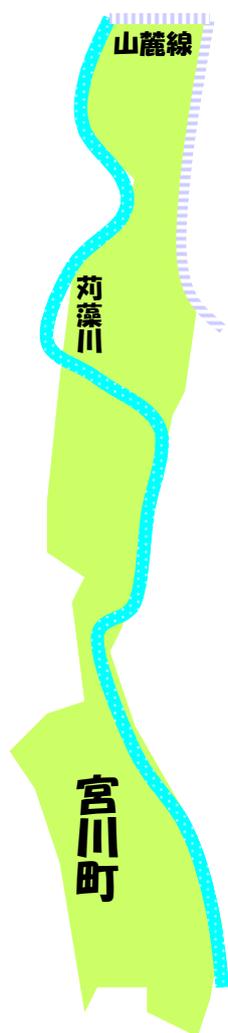
町は、北を山麓線、南を新湊川、西は苅藻川に挟まれた縦に長い地形で、町内には長田神社や宮川小学校などがある。◆



### 宮川町（みやがわちよう）

宮川町は、川沿いの細長い地域で、荻藻川（新湊川）の長田神社わきを流れる部分が「宮川」と呼ばれたところから付けられた。

町は、北の山麓線から南に流れる荻藻川の左右に蛇行しながら沿った地形で、非常に橋の多い住宅街である。◆



### 上池田（かみいけだ）

戦後の昭和二十四（一九四九）年九月、池田村から上につく町に、新しい町名をつけることになり、旧池田村の一〇町は新しい名前をつけたが、町名改正の告示と同時に異議を申し立て、現在もそのままの町名になっている。

◆ 町は、北側を東西に山麓線が走っており、池田の名がつく町の中では最大の面積・人口である。



### 池田谷町(いけだたにまち)

蛇持の一部と、谷川・半三郎・コフリウ・山ノ谷を一町としたのが池田谷町で、荻藻川に近く、それに向って傾斜した地形から名付けられた。町は、四角い形をしており、長田高校・長田商業高校・青雲高校・上池田交番所・池田会館だけの地域である。◆

### 池田谷町



### 池田寺町(いけだてらまち)

昭和四(一九二九)年九月に、池田寺町・池田上町が、それぞれ一町として分かれ、寺町・上町となった。寺町は、字野々内に妙楽寺という寺があるところから名付けられた。

町は、池田経町を取り囲んだ三日月のような地形で、北側の長田高校との境には、長田高校のグラウンドに通じる陸橋が横断している。

### 池田広町(いけだひろまち)

もとは池田村で、池がたくさんあったことから名付けられた。明治二十二(一八八九)年二月に須磨村に分離されたが、明治二十九(一八九六)年に須磨村のうち池田村だけが神戸市に編入され、大正九(一九二〇)年十二月に、池田広町が一町として最初に独立した。旧池田村の小字「門田」を町域にしているが、当初は、野々内・広長・門田・東畑・水取・大田を抱えていたため、広町となったといわれている。◆

### 池田広町



### 池田寺町



### 池田経町(いけだきょうまち)

字観音山の内カイチ(内垣内のこと)を含む池田経町は、池田寺町の西隣にある妙楽寺があり、その読経から経町になったといわれている。

町は、九割以上が長田高校のグラウンドと観音山公園になっている。◆



### 池田新町(いけだしんまち)

旧池田村の一部から一町とした池田新町は、特に古来からの字名を使わずに新しい町というこ

とで名付けられた。町は、長田区の中で最小の地域で、南側の境界は家の間をジグザグに抜ける複雑な地形である。

### 池田塩町(いけだしおまち)

旧字塩ヶ池周辺を一町としたのが池田塩町で、シオは、クサビ形の谷の奥という意味ともいわれており、塩ヶ池とは、六甲山系によく見られる塩分を含んだ水をたたえた池という意味だと思われる。新町の次に小さく、扇の形をしている。◆

### 池田塩町

### 池田上町

### 池田上町(いけだうえまち)

昭和四(一九二九)年九月に、池田寺町・池田上町が、それぞれ一町として分かれ、西国街道沿いの北側(上)にあることから名付けられた。

町は、天秤のような地形で、西に常盤女子高校が、東に池田小学校がある。

## 大谷（おおたに）町

大正十一（一九二二）年三月に、もと西代村の大谷・上大谷・西大谷・東大谷・大谷山が一町となって大谷町になった。大谷とは、大きな谷という意で、特にいわれなどはない。

町は、北の山麓線の近くから南は中央幹線まで、縦長に丘の斜面に住宅や学校が連なる地域である。◆



## 五位ノ池（ごいのいけ）町

天正二十（一五九二）年の古文書に「五位ノ池」の名が見え、ゴイサギがよく集まったところから付けられたといわれている。

サギに五位（昇殿を許される老の最下位）がついた由来は、後醍醐天皇が神泉苑でサギを役人に捕まえるよう命令したが、サギは空へ舞い上がるうとしたため、「勅命であるぞ」と叫ぶと、サギはたちまち元に帰り、神妙に羽根を垂れたという伝説による。◆



### 蓮宮通（はすみやどおり）

旧池田村と西代村に属していた蓮池は、実測面積一七、四〇〇坪の大池で、行基菩薩が、この地方の灌漑用水として、入功德水にかたどって築いたところから、蓮の池の名がついたといわれ、昭和六（一九三一）年七月に埋め立てられた。蓮宮町は、蓮池の北にあった「蓮の宮」から名付けられた。◆



### 御船通（みふねどおり）

旧長田区役所や現在の長田税務署東の公園内に「御船山旧跡」の碑があるが、その御船山の御船を町名に付けた。御船山は長田神社の付属地で、神功皇后が船を着けたところ、あるいは船具を埋めたところといういつたえがある。

町は、東に新湊川が流れており、西は蓮池町の西代の野球場跡地に隣接している。◆



### 蓮池町（はすいけ）

昔からあった蓮池をそのまま町名にして名付けられた。旧池田村と西代村に属していた蓮池は、実測面積一七、四〇〇坪の大池で、行基菩薩が、この地方の灌漑用水として、入功德水にかたどって築いたところから、蓮の池の名がついたといわれ、昭和六（一九三一）年七月に埋め立てられた。

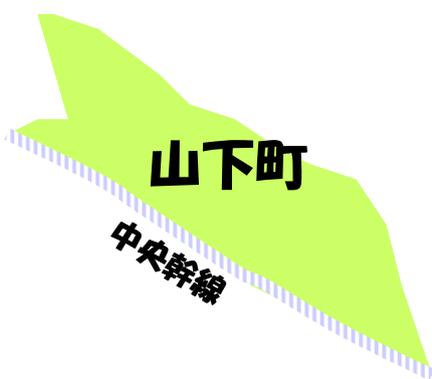
町は、南の中央幹線沿いにあり、元の西代野球場があった所で、現在はその跡地と県立文化体育館がある。◆



### 山下町（やましたちよう）

大正十一（一九二二）年三月に、西代村の藪添・東・荘山・山下・ウシロ・からから・八幡前・八幡西・トサキが一町となり、旧字の山下をとって名付けられた。荘山は庄の入会山で、山下はそのふもと、の意味と思われる。

町は、南に元山陽電車の軌道が東西に走っていた地域である。◆



### 戸崎通（とぎきどおり）

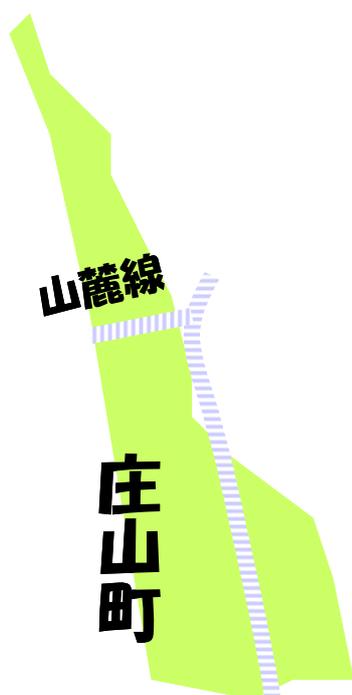
大正十一（一九二二）年三月に、もと西代村のウシロ・小幡前・からから・上替地・西替地・西端・トサキ・それに板宿の平田の一部が一町となり、戸崎通となった。トサキのサキは、突き出た地形の意味で、トは、瀬戸の鳴門、音戸と同様、同方からせまられた狭い場所を指す古語である。◆



### 庄山町（しょうやまちょう）

大正十二（一九二三）年十二月に、かつて板宿の平田・下平田・庄山・走り上り・立岬・亀ヶ池下・亀ヶ池・小林・姥ヶ家・池ノ内と呼ばれた地域が庄山町と名付けられた。旧字によるもので「庄山」は、庄の山という意味と思われる。

町は、西が須磨区との境界、山麓線や南北道で三つに分けられたような地域で、町内には源平一ノ谷合戦で戦死した「平盛俊堂」がある。◆



## 西代通（にしだいどおり）

大正十一（一九二二）年三月に、もと西代村の藪添・東・山下・西・西替地・上替地・西端が一町となって西代通になった。齊田に西代の字を充てたという説や、ダイは、河沿い、海沿いの段丘のような、上の平らな高地の意味であるという説、代は、組とか坪とか区とかに該当し、耕地の一区画をシロ（代）といったからという説などがある。

町は、南に中央幹線が走っており、四丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受け、震災復興の区画整理事業が行われている。◆



## 七番町（ななばんちょう）

明治三十四（一九〇一）年に、湊川を荻藻川に付替え、新湊川として完成したのを機に、南側一帯を区画整理することになり、明治四十（一九〇七）年に完成した際に、南から順に一番町から七番町と名付けられた。これは、もと江戸城警備を任とした番衆が住んでいた、東京の一番町から六番町にちなんだものだといわれている。

明治初期は、いまの四番町あたりが西野村と呼ばれ、この辺りの古い字に、桧門田・六の坪・鳥居前・一の坪・二の坪・堂の前・塔の本・上州六・下村六・大門・東大門・下宮の前・宮の前・室内などがあり、平安時代の郡家（郡の役所）があったところである。



### 六番町（ろくばんちょう）

町は、北側を東西に新湊川が流れているロケットのような形をした東西に細長い地形で、住商工混在の地域である。

### 五番町（ごばんちょう）

町は、東が兵庫区の境界で西は新湊川までの東西に細長い地形で、住商工混在の地域である。

### 四番町（よんばんちょう）

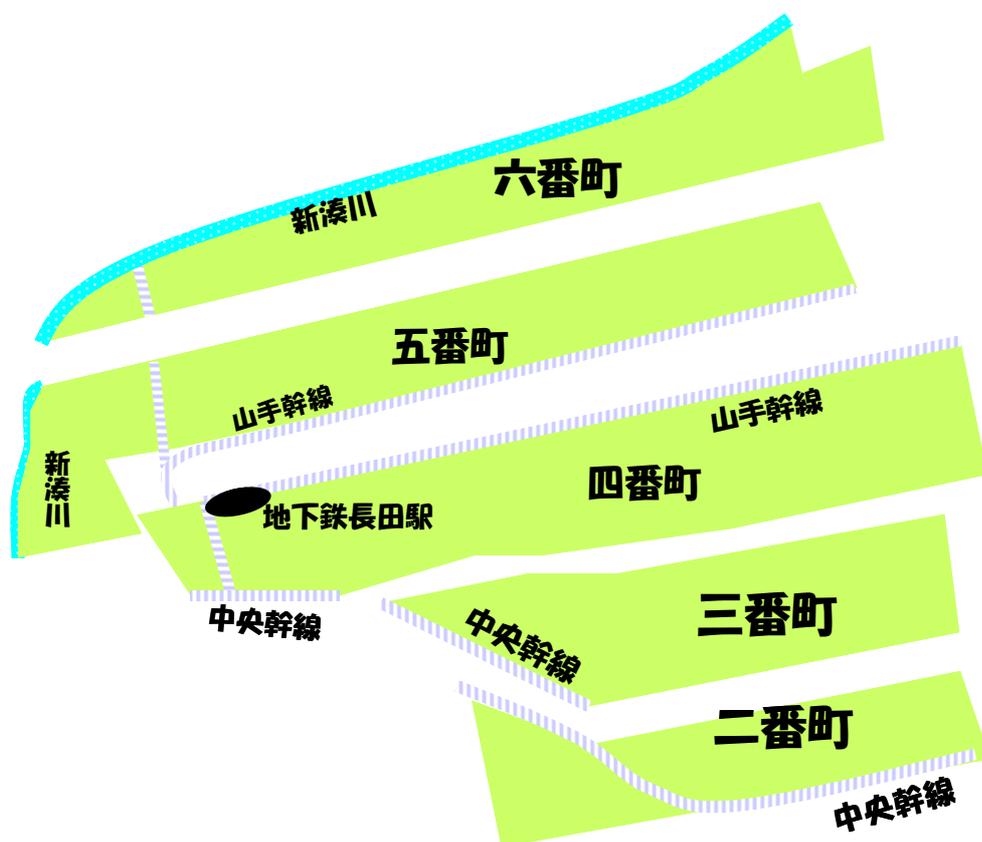
町は、山手幹線の南を東西に添った地形で、市営住宅の多い地域である。

### 三番町（さんばんちょう）

町は、西の先端が中央幹線の開通によって、斜めに切り取られた地形をしている。

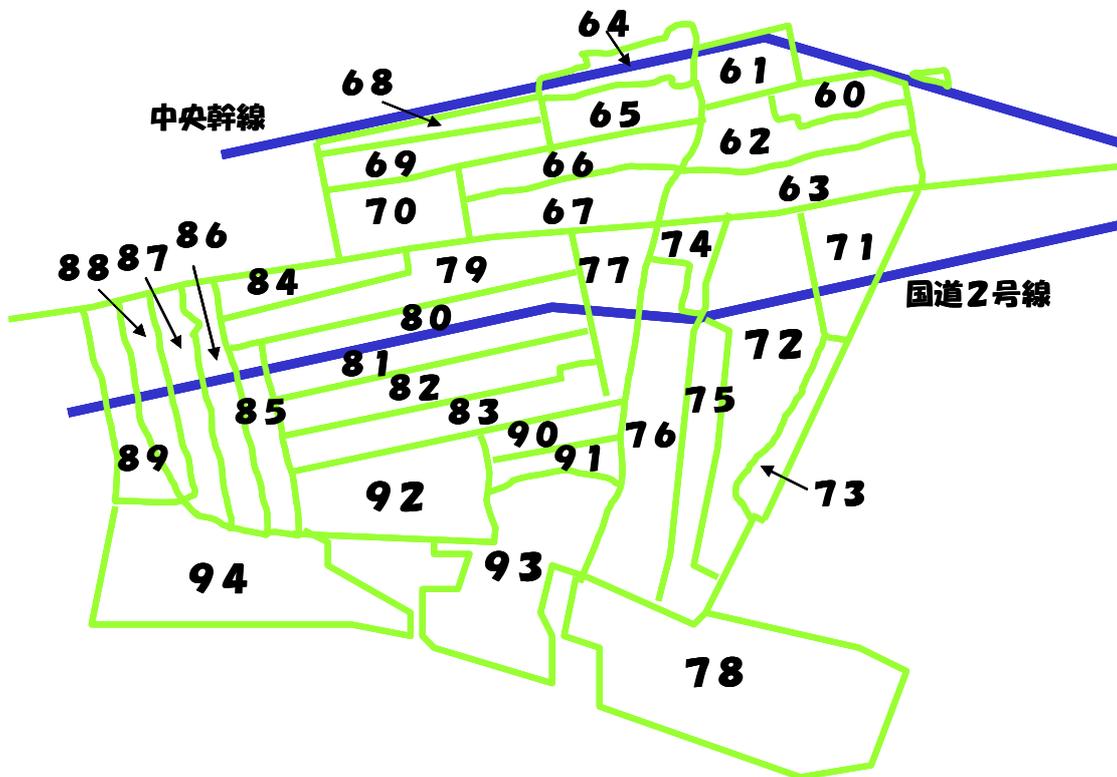
### 二番町（にばんちょう）

町は、中央幹線が斜めに縦断し二丁目と三丁目の間で分断された地形である。



三. 南部地域

93	90	87	84	81	78	75	72	69	66	63	60
南駒栄町	庄田町	本庄町	日吉町	腕塚町	荇藻島町	浜添通	東尻池町	水笠通	細田町	菅原通	一番町
94	91	88	85	82	79	76	73	70	67	64	61
駒ヶ林南町	駒栄町	長楽町	野田町	久保町	若松町	荇藻通	東尻池新町	松野通	神楽町	大道通	北町
92	89	86	83	80	77	74	71	68	65	62	
駒ヶ林町	浪松町	海運町	二葉町	大橋町	西尻池町	真野町	梅ヶ香町	御屋敷通	川西通	御蔵通	



### 一番町（いちばんちょう）

明治三十四（一九〇一）年に、湊川を荻藻川に付替え、新湊川として完成したのを機に、南側一帯を区画整理することになり、明治四十（一九〇七）年に完成した際に、南から順に一番地から七番地と名付けられた。

これは、もと江戸城警備を任

とした番衆が住んでいた、東京の一番町から六番町にちなんだものだといわれている。

町は、中央幹線に沿ってあり、

この幹線が出来たため、一部

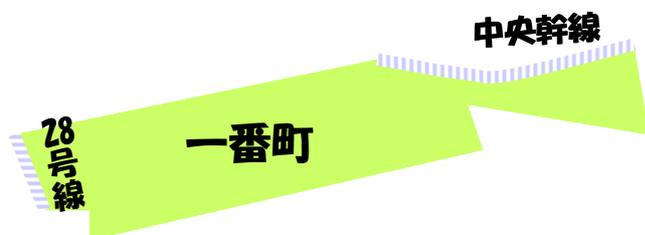
が飛び地のような形態で、東は

兵庫区との境界となっている。

西市民病院・御蔵小学校・市

営住宅などの公共施設が多く

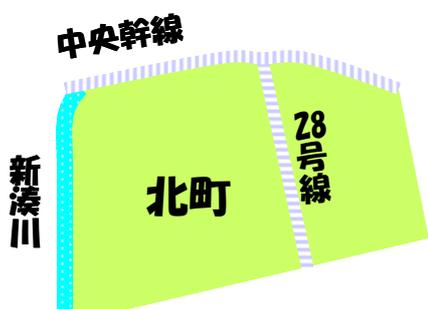
ある。



### 北町（きたまち）

昭和六（一九三一）年九月に、旧東尻池村の集落の北に当たることから「尻池北町」としていたのを北町と名付けた。しかし、尻池を取って北町としたが、須磨区の東須磨北町が、町名改正で北町となったため、近くに北町がニヶ所あることになった。

町は、中央幹線沿いに長田交差点の南側に位置し、長田区役所・長田警察署・長田消防署などがあり、長田区の官庁の中心地となっている。◆



### 御蔵通（みくらどおり）

昭和六（一九三一）年九月に、旧東尻池村の尻池御蔵通を「御蔵通」と名付けた。東尻池村には大蔵・濱蔵・中蔵・小蔵などの地名が古くから残っていた。大蔵の地名が

◆あつたところに穀物倉があり、明治になるまで年貢米を収納して、藩主の貫米を納めており、その穀倉を「御蔵」と呼んでいたものを名付けたと思われる。

町は、東を兵庫区の境界から西は新湊川までの地域で、阪神・淡路大震災によって大きな被害を受け、一、二、七丁目以外は震災復興の区画整理事業で大きく様変わりしている。

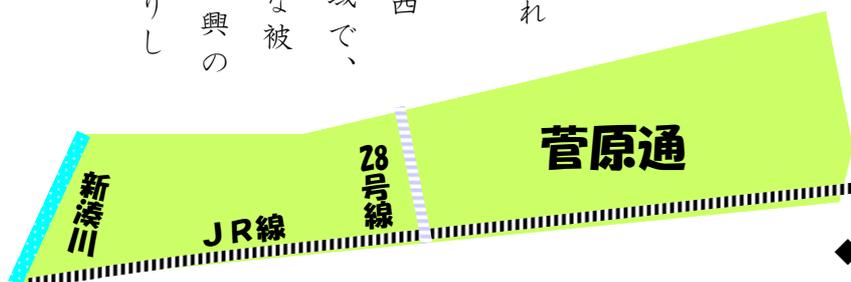


### 菅原通（すがはらどおり）

昭和六（一九三一）年九月に、旧東尻池村の尻池菅原通を「菅原通」と名付けた。

梅ヶ香町の隣にあるため菅原道真と結びつけられがちですが関係は定かではなく、昔は真野の入江や真野池のほとりに菅がたくさん生え、そこを菅野あるいは菅原と呼んでいたためと思われる。

町は、東を兵庫区の境界から西は新湊川、南はJR線までの地域で、阪神・淡路大震災によって大きな被害を受け、三、四丁目は震災復興の区画整理事業で大きく様変わりしている。



### 大道通（おおみちどおり）

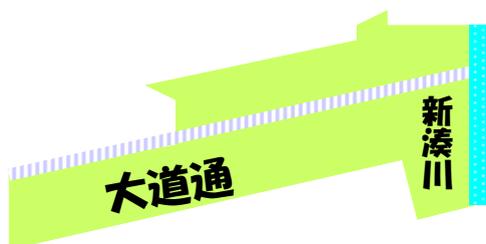
旧長田村の、上下・大道内・鳥居前・川畑・池田村カイチ・朝ク田・歳西・羽織・池川を一町とした。大道とは西国街道のことで、旧西国街道をはさむ南北両側を、大道通と名付けた。

町は、新湊川が東を流れ、中央幹線が真ん中を縦断したうえ、縦断の南北が同じ丁目という複雑な地形になっている。四、五丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた地域である。◆

### 川西通（かわにしどおり）

大正九（一九二〇）年十二月に、旧池田村の川畑・池田島・鳥居前・新シ・出口・歳西・畠田・尾細・霜田・西ノ内と西尻池村の霜田が一町になり、川西通と名付けられた。川西は、新湊川（旧荊藻川）の西にあるからといわれている。

町は、東を新湊川が流れ、四・五丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受け、町の様子は大きく変貌している。◆



### 細田町(ほそだちょう)

大正九(一九二〇)年十二月に、旧池田村の川畑・池田島・鳥居前・新シ・出口・蔵西・畠田・尾細・霜田・西ノ内と西尻池村の霜田が一町になり、細田と名付けられた。◆  
名前の由来は、この旧字の「尾細」と「霜田」を合わせて細田町としたといわれている。

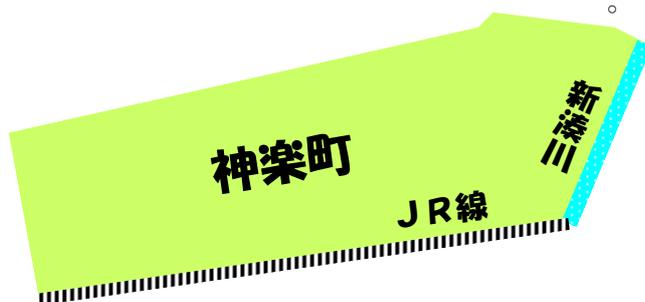
町は、東が新湊川から西に細長く伸びた地形で、公共的施設が多くある。この地域も阪神・淡路大震災で大きな被害を受け、震災復興の土地区画整理事業で大きく変貌している。



### 神楽町(かぐらちょう)

大正九(一九二〇)年十二月に、西尻池村の山ノ道・ビワクビ・立花・牛戸・ソウリ・戒の坪・六ノ坪・一ノ坪・入ノ木・戸田が一町になって名付けられた。旧字に神楽はなく、各地に神楽町がみられることから、神社の神楽田を、佳名として名付けたのかも知れない。

町は、東に新湊川が流れ、南はJR線が東西に走っている。町内には長田南小学校や神楽保育所などの施設がある。



### 御屋敷通（おやしきどおり）

昔の「蓮の池」から西へ西国街道に面した南側に位置し、西代村のおやしき・東蓬池ノ下・下池

下・陣具・西蓬池ノ下・上 ◆

水笠・ハガン田・大日前・出

口・五反田・前・大講・樋ノ

口が一町になり、旧字の

「おやしき」をとって名付けられた。

町は、北側に中央幹線が

東西に走っており、阪神・淡

路大震災によって大きな被

害を受け、まちの一丁目か

ら六丁目まですべてが、震

災復興の土地区画整理事

業によって、新しい町へと変

貌している。

## 御屋敷通

五位ノ池線

中央幹線

### 水笠通（みずかさどおり）

大正十一（一九二二）年三月に、旧西代村の

水笠・上水笠・陣具・ハガン田・横枕・五反田・野

田・松本・大藩・半田・樋ノ口が一町になって、旧

字の「水笠」をとって名付けられた。水笠の由来

ははっきりしないが、真野の入江に面した水の多い

低地の意味と思われる。 ◆

町は、五位ノ池線を挟ん

で東西に細長い地形で、阪

神・淡路大震災で大きな被

害を受け、一丁目から六丁

目まですべてが、震災復興の

土地区画整理事業によって、

新しい町へと変貌している。

## 水笠通

五位ノ池線

### 松野通（まつのどおり）

大正十一（一九三二）年三月に、旧西代村の水笠・横枕・福王寺免・野田・長上・松本・半田、キセガ内（キセリ崖）が一町になって名付けられた。旧字の「松本」と「野田」を合わせて松野通としたといわれている。

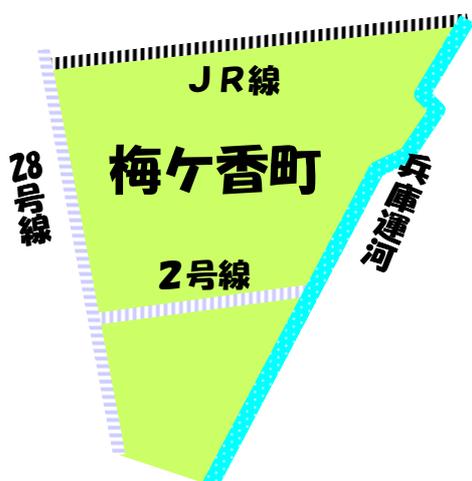
町は、南にJR線が東西に走っており、JR・市営地下鉄の新長田駅がある。阪神・淡路大震災で大きな被害を受け、一丁目から四丁目まですべてが、震災復興の土地区画整理事業によって、新しい町へと変貌している。



### 梅ヶ香町（うめがちょう）

菅原道真が筑紫へ左遷される途中、和田御崎に船を停め、かぐわしい梅の香りにひかれてやってきた、という伝説にもとづいて名付けられ、東尻池村の古文書にも「真野の継橋の北一丁に梅の台木あり、石の印を建つ」とある。

町は、北にJRの高架があり、東は兵庫運河が流れている。中央には国道二号線が東西に走り、町は分断されている。中小の町工場のレンガ造りの建物がかなり残っており、数多く見られる。



### 東尻池町（ひがししりいけちょう）

尻池村が荻藻川（新湊川）を挟んで東西に分かれて東村・西村と呼ばれていたが、大正九（一九二〇）年十二月に、東村が東尻池町と名付けられた。尻（シリ）はスソの意味で、入り江が後に大きな池になったものが真野池で、水の落とし口（尻）の低湿地で農耕が始まったところから名付けられたものと思われる。

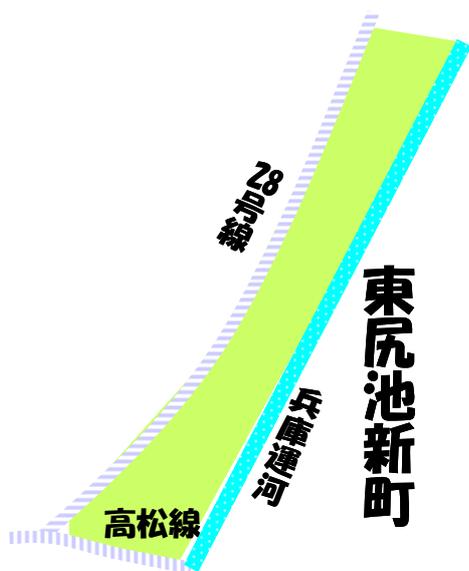
町は、北のJR線から南に二号線・高松線を縦断して荻藻島までの大きな地域である。◆



### 東尻池新町（ひがししりいけしんまち）

尻池村のうち川の東側の東村を東尻池町と名付けたが、東尻池町の東側の一部を、新たに東尻池新町と名付けた。

町は、西に国道二八号線、東に兵庫区との境界がある細長い地域で、住宅はなく、大きな工場とトラックターミナルのあるまちで、南端に尻池街園がある。◆



### 真野町(まのちよう)

真野は古来からの呼び名で、マノは、狭間・谷盆地・部落間の広い無任地を指し、古代は、荻藻川が深く湾入して、真野の入江と呼ばれていた。のちに入江の一部は、真野池となって残ったが、その真野池を埋め立てた跡地が真野町となった。

町は、北にJRが東西に、西に新湊川・南に二号線を境界とした地域で、長田中学校などの公共施設と、町工場が多くある。◆



### 浜添通(はまぞえどおり)

六、七丁目目は昭和二(一九二七)年二月に、西尻池村の東浜山・東浜が編入し、八丁目目は昭和五(一九三〇)年九月に荻藻島運河を整備した際に、埋め立てて新設したところで、浜添通と名付けられた。浜添とは、浜辺といった意味で、海岸に沿っていたから付けたと思われる。

町は、南に兵庫運河がある細長い地域で、中央を高松線が分断しており、市営地下鉄海岸線の荻藻駅がある。◆



### 苧藻通（かるもどおり）

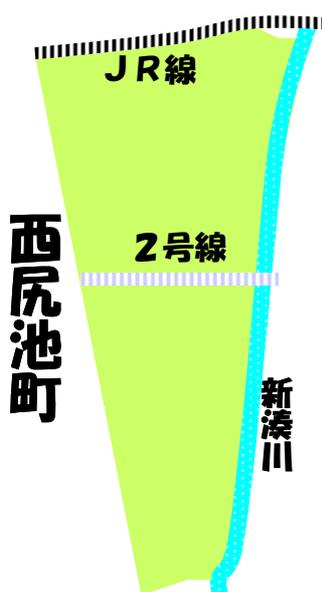
明治三十四（一九〇一）年の湊川の付替え工事で苧藻川を合流させ、合流地点から下流が新湊川となった。この地域の苧藻川の名前は消えたが、新湊川の東側に「苧藻通」として町名が残された。苧藻とは、万葉集に「玉藻苧る」という言葉が出てくるが、川の下流で玉藻を苧っていたところから、名付けられたと思われる。

町は、西と南の新湊川と兵庫運河を境界とし、まちの中を東西に二号線と高松線が分断している。◆



### 西尻池町（にしりいけちょう）

東尻池町と同じく大正九（一九二〇）年十二月に、尻池村の西村を西尻池町と名付けた。町は、北にJR線が東西に走り、東に新湊川が南北に流れ、真ん中を国道二号線が分断している地域で、二号線より北側は各種工場が建ち並んでいる。◆

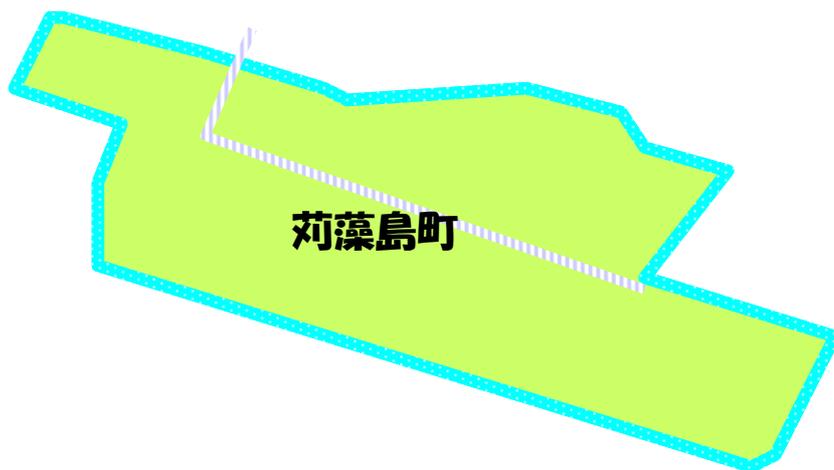


### 苧藻島町（かるもしまちょう）

明治二十九（一八九六）年八月に着工した兵庫運河の土捨て場として埋め立てられ、人工島としてできた島が

苧藻島で、その後次々と埋め立てられ、昭和四十六（一九七一）年一月の埋め立てによって編入され、苧藻島町となった。

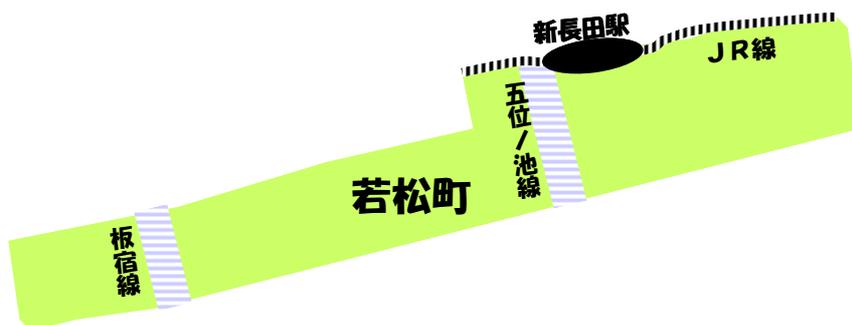
町は、周囲を運河と海に囲まれた島で、住宅は少なく、大半は様々な工場が建ち並んでいる。



### 若松町（わかまつちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、旧西尻池村と駒ヶ林村の一部を一町として名付けられたもので、「めでた、めでたの、若松さまよ」とうたわれるように、佳名として付けたもので旧字にはない。

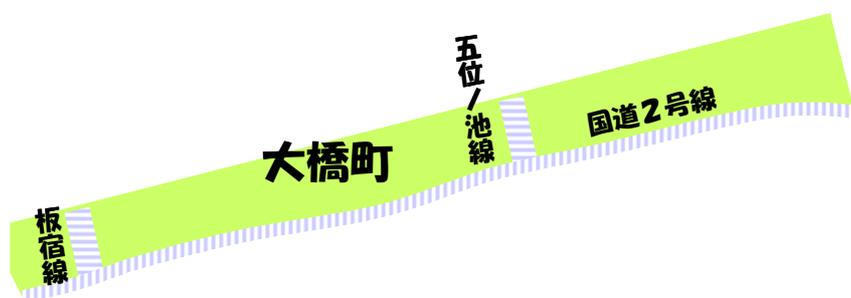
町は、北をJR線が東西に走り、新長田駅があり、その周辺は駅前の商業集積地になっている。また若松三、四、五、六丁目と十、十一丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた地域で、町並みは大きく変貌している。



## 大橋町（おおはしちょう）

大正九（一九二〇）年十二月、西尻池村と駒ケ林村のコモラ（沼地）カソデ（コソデ＝低湿地）、倉敷（倉庫）などの各一部が一町となって大橋町となった。昔の西国街道にかかっていた大橋からとったといわれている。

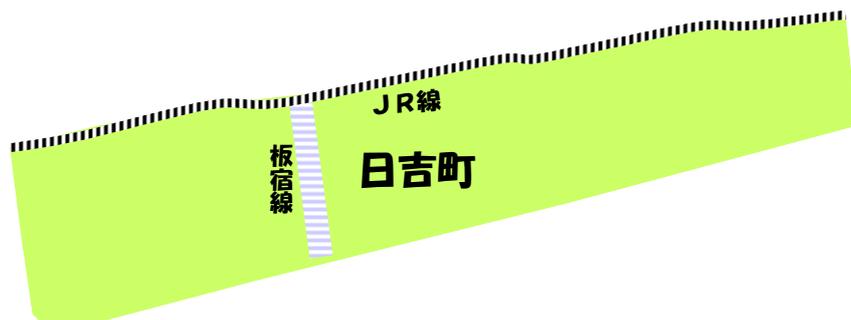
町は、南側に二号線が東西に沿った細長い地域で、中心部は駅前の商業集積地になっている。また大橋三、四、五、六、七丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた地域で、町並みは大きく変貌している。



## 日吉町（ひよしちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、駒ケ林村の上朝日・中朝日・下朝日・今上・大上・三ツ木・皆登・五毛・東上・兎ノ口・八反竿・野田・西上・兎ノ戸・小仙町・出口・堂ノ北を一町にして日吉とした。日吉は通常、日吉神社（山王さん）の所在にもとづいて地名になるが、ここに神社の形跡はなく、旧字の朝日にちなんで名付けられた。

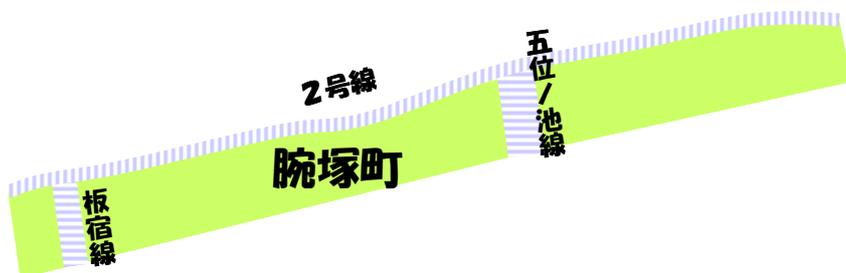
町は、北にJR線が東西に沿った細長い地域で、日吉五、六丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた地域で、町並みは大きく変貌している。



### 腕塚町（うでづかちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、腕塚町と名付けられた。一ノ谷の合戦で西城戸の大將であった平忠度が、この地において腕を切られ、その塚や腕塚堂があることから名付けられた。

町は、北に二号線が東西に沿った細長い地域で、五位ノ池線周辺は商業集積地になっている。また、腕塚三、四、五、六丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた地域で、アスタくにづかの名称で各種ビルが立ち並び、町並みは大きく変貌している。



### 久保町（くぼちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、久保町と名付けられた。クボは小さな水田適地の意味で、もとの西尻池村にはクボという小字はなく、隣の二葉町に久保の名があり、そこから名付けられたのかも知れない。

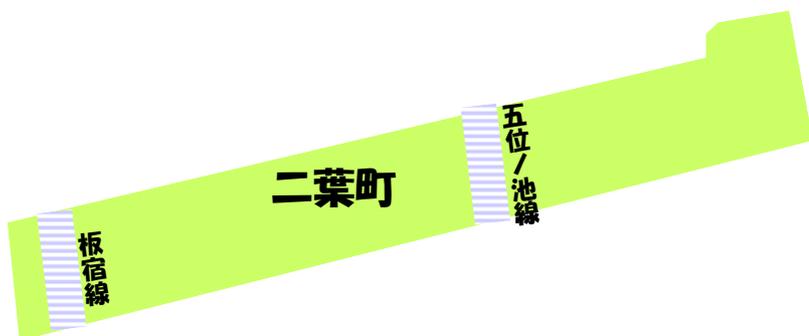
町は、東西に広がる細長い地域で、五位ノ池線周辺は商業集積地になっている。久保三、四、五、六丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた地域で、アスタくにづかの名称で各種ビルが立ち並び、町並みは大きく変貌している。



## 二葉町（ふたばちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、二葉町と名付けられた。駒ヶ林村に有名な「二葉松」があり、そこから名付けられた。この松の古名は別に「高麗泊り松」・「源氏松」・◆  
「茶筌松」とも呼ばれていた。

町は、東西に広がる細長い地域で、五位ノ池線周辺は商業集積地になっている。また二葉五、六丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた地域で、アスタクにづかの名称で各種ビルが立ち並び、町並みは大きく変貌している。この地域には真陽と二葉の二つの小学校がある。



## 野田町（のだちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、野田町と名付けられた。ノダはヌタ、ノタと同じく湿地を表わす意味である。神功皇后の三韓遠征の際に、遠征軍がこの付近から上陸したのだろうといわれており、また、廃寺となった長福寺は、平清盛が起こし、海路を行く人びとの宿舎にもあてたといわれている。

町は、途中で国道二号線を挟んで南北に長い地形で、一丁目から三丁目はない。◆



### 海運町（かいうんちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、海運町と名付けられた。廃寺となった長福寺の山号「海運山」からとったものといわれている。

町は、北にJR線を境界として、国道二号線を縦断した細長い地形で、一丁目はない。二、三丁目は阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたが、現在は復興され、美しい町並みになっている。◆



### 本庄町（ほんじょうちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、本庄町と名付けられた。荘園の中心の村を意味しており、もとは野田村の一部で、小字に福原というのがあるが、「福原庄」「福原三カ庄」などは、ここから名付けられたといわれている。

町は、北にJR線を境界とし、二号線を縦断した細長い地形で、一丁目はない。東の境界までは阪神・淡路大震災によって大きな被害を受けたが、町中にある大國公園（昔の双子池）が火勢をここで食止めたといわれている。◆



### 長楽町（ながらちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、野田村の一部を一町として、長楽町と名付けられた。この村の海岸を「長楽の浜」と呼んでおり、そこから名付けられたといわれている。国鉄山陽本線で買上げられたり、区画整理で別の町に編入されたりしたため、一丁目はない。

町は、北に鷹取駅があり、国道二号線を縦断して細長く地域である。◆



### 浪松町（なみまつちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、浪松町と名付けられた。かつて野田村の海岸に名所「白浪の松」があり、白波がかかったという意味だが、別名を「盗人松」といい、世話狂言「白浪五人男」にかけた呼び名だろうと思われる。

町は、北にJR鷹取駅があり、西は須磨区との境界で、住宅は少なく工場が多く見られる地域である。◆



### 庄田町（しょうだちょう）

大正時代の西部耕地整理の際、庄田町と名付けられた。由来は、西尻池村の旧字、上ノ庄田から名付けたといわれている。

町は、東に新湊川を、西に五位ノ池線を境に北側の東西を六間道商店街が軒を並べる、商業と住宅の混在地域である。◆



### 駒栄町（こまえちょう）

大正時代の西部耕地整理の際に、駒ケ林村の掘川と、西尻池村の上ノ庄田・水ノ子・ゴマイダ・溝ノ尻・久保を一町として名付けられた。

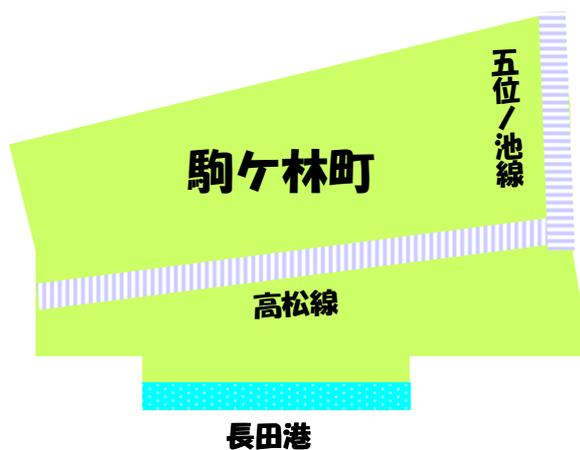
町は、東に新湊川、西に五位ノ池線を境に、南側を高松線が走り、町内には近田幼稚園と駒栄保育所がある。町工場の多い地域である。◆



### 駒ケ林町（こまがばやしちよう）

長田区の中でもその歴史は古く、古代から良  
好な漁港として様々な古文書に「小駒林」・「駒  
林」・「高麗島」などの文字が書かれている。名前の  
由来には諸説があるが、コマは「河間」または入り  
込んだ地形を示す古語で、ハヤシは、勢い激しく  
前へ進むさまを表わす形容詞であることから、潮  
の流れの激しい入り江の意味が駒ケ林となったの  
かも知れない。◆

町は、高松線を挟  
んで南北分断されて  
おり、南には長田港  
を見ることが出来る。  
町中には神社・仏  
閣・史跡などがあり、  
昔の港町特有の迷路  
のような細い路地が  
縦横に延びている。



### 南駒栄町（みなみこまえちよう）

駒ケ林の海岸地帯は、昭和「年頃から埋め立  
てが始まり、昭和三十三（一九五八）年からの  
埋立て工事によって、駒栄町の南に、一六六、四  
三〇平方メートルの南駒栄町が誕生した。

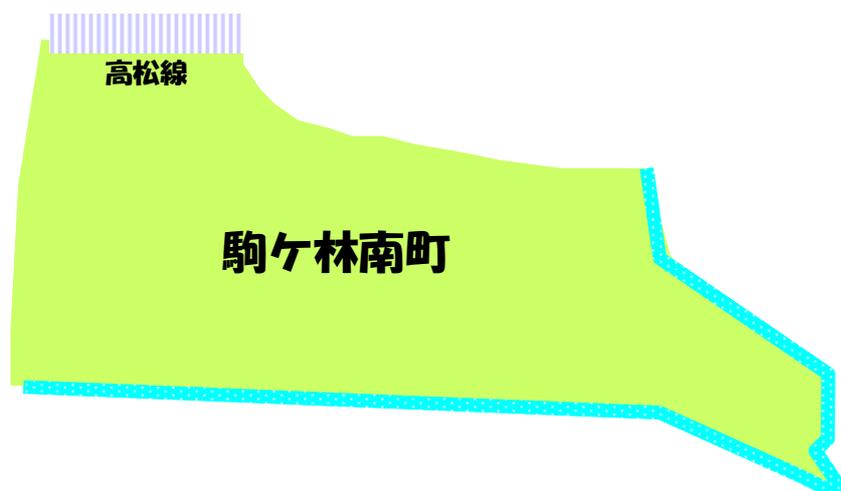
町は、北を高松線が東西に走り、西を長田港、  
東を兵庫運河に囲まれた工業地帯である。



**駒ヶ林南町（こまがばやしみなみちょう）**

駒ヶ林の海岸地帯は、昭和七（一九三二）年頃から埋め立てが始まり、昭和三十三（一九五八）年からの埋立て工事によって、駒ヶ林町の南西部に一〇万平方メートル余の駒ヶ林南町が誕生した。

町は、北を高松線が東西に走り、西は須磨区との境界で、周りを海に囲まれた工場地帯である。



長田区の町別面積・人口(平成16年4月30日現在)

町名	面積 (1/100km <sup>2</sup> )	世帯数 (世帯)	男 (人)	女 (人)	合計 (人)
池田上町	5.41	237	273	299	572
池田経町	5.8	39	49	48	97
池田塩町	0.58	20	24	22	46
池田新町	0.38	14	15	17	32
池田惣町	0.32				
池田寺町	1.5	108	124	138	262
池田広町	3.91	292	303	352	655
池田宮町	19.29				
池田谷町	2.53	2	2	1	3
一番町	6.02	475	350	427	777
一里山町	37.46	113	154	148	302
鶯町	9.42	443	493	533	1,026
腕塚町	12.84	1,297	1,175	1,371	2,546
梅ヶ香町	11.22	381	355	349	704

町名	面積 (1/100km <sup>2</sup> )	世帯数 (世帯)	男 (人)	女 (人)	合計 (人)
大谷町	21.11	1,138	1,259	1,353	2,612
大塚町	8.24	583	526	704	1,230
大橋町	10.66	802	681	736	1,417
大道通	6.06	357	263	346	609
重池町	7.95	635	487	617	1,104
御屋敷通	8.21	707	773	928	1,701
海運町	10.01	520	493	565	1,058
神楽町	10.66	387	324	372	696
片山町	16.49	1,315	1,479	1,638	3,117
上池田	24.02	1,656	1,790	1,949	3,739
荻藻島町	30.98	20	24	8	32
荻藻通	22.32	804	805	772	1,577
川西通	8.44	315	290	345	635
北町	8.32	477	423	442	865

町 名	面積 (1/100km <sup>2</sup> )	世帯数 (世 帯)	男 (人)	女 (人)	合 計 (人)
久保町	11.85	1,169	1,125	1,180	2,305
源平町	19.62	197	202	228	430
高東町	7.97	337	389	393	782
駒栄町	3.49	65	59	63	122
駒ヶ林町	17.4	1,678	1,606	1,720	3,326
駒ヶ林南町	29.73	3	4	4	8
五位ノ池町	11.56	949	884	1,052	1,936
五番町	12.95	840	717	768	1,485
三番町	9.27	541	480	507	987
鹿松町	10.48	346	389	441	830
庄田町	5.31	556	529	574	1,103
庄山町	4.77	461	423	506	929
菅原通	12.41	484	447	489	936
高取山町	49.19	1,109	1,211	1,171	2,382

町 名	面積 (1/100km <sup>2</sup> )	世帯数 (世 帯)	男 (人)	女 (人)	合 計 (人)
滝谷町	17.91	581	635	696	1,331
大日丘町	17.09	668	738	760	1,498
大丸町	9.65	349	344	375	719
長者町	36.48	243	266	246	512
寺池町	8.88	468	542	572	1,114
戸崎通	5.22	476	486	557	1,043
長尾町	13.77	965	997	928	1,925
長田町	4.87	581	558	627	1,185
長田天神町	19.19	1,700	1,720	1,760	3,480
長楽町	5.4	449	455	515	970
名倉町	7.28	387	380	404	784
七番町	0.7	28	27	35	62
浪松町	8.74	148	163	150	313
西尻池町	9.7	418	310	341	651

町名	面積 (1/100km <sup>2</sup> )	世帯数 (世帯)	男 (人)	女 (人)	合計 (人)
西代通	8.21	437	427	475	902
西丸山町	10.15	536	560	573	1,133
西山町	19.8	1,231	1,297	1,399	2,696
二番町	4.88	368	314	355	669
野田町	7.16	441	461	454	915
萩乃町	9.34	478	579	589	1,168
蓮池町	5.3	5	5	8	13
蓮宮通	7.7	585	569	655	1,224
花山町	10.28	378	429	463	892
浜添通	17.9	368	308	387	695
林山町	7.59	503	597	669	1,266
檜川町	8.46	455	494	491	985
東尻池町	29.25	1,616	1,474	1,495	2,969
東尻池新町	6.01				

町名	面積 (1/100km <sup>2</sup> )	世帯数 (世帯)	男 (人)	女 (人)	合計 (人)
東丸山町	6.5	152	147	147	294
雲雀ヶ丘	33.82	480	512	546	1,058
日吉町	7.62	681	614	679	1,293
二葉町	16.05	1,458	1,338	1,569	2,907
平和台町	8.78	619	628	690	1,318
細田町	8.09	422	356	377	733
堀切町	5.15	351	368	365	733
本庄町	8.71	593	643	661	1,304
房王寺町	21	1,795	1,560	1,727	3,287
前原町	7.58	541	562	530	1,092
松野通	10.07	449	443	510	953
真野町	4.67	163	150	154	304
丸山町	13.73	721	762	746	1,508
御蔵通	10.64	724	713	745	1,458

町名	面積 (1/100km <sup>2</sup> )	世帯数 (世帯)	男 (人)	女 (人)	合計 (人)
水笠通	8.69	696	748	828	1,576
南駒栄町	31.81	16	20	17	37
御船通	6.51	460	428	485	913
宮丘町	5.35	340	354	379	733
宮川町	9.94	822	842	959	1,801
明泉寺町	11.82	669	622	672	1,294
山下町	5.09	535	536	636	1,172
四番町	10.54	1,587	1,263	1,430	2,693
六番町	8.58	721	608	635	1,243
若松町	15.16	1,317	1,090	1,284	2,374
計	※	53,046	51,841	56,326	108,167

※長田区の面積合計は11.46km<sup>2</sup>(9区の中で最小)

## 索引

### あ

青山幸利公報謝碑……………31

### い

池田上町……………152

池田経町……………152

池田塩町……………152

池田新町……………152

池田惣町……………141

池田谷町……………151

池田寺町……………151

池田広町……………151

池田宮町……………140

一の谷の戦いと長田……………19

一番町……………160

一里山町……………133

### う

鶯町……………131

腕塚町……………171

梅ヶ香町……………165

### お

大塚町……………149

大谷町……………153

大橋町……………170

大道通……………162

重池町……………146

御屋敷通……………164

### か

海運町……………173

海泉寺……………102

神楽遺跡……………99

神楽町……………163

片山町……………148

学校の創設……………49

鎌倉時代の長田地方……………24

上池田……………150

上沢遺跡……………97

荻藻駅……………95

荻藻川……………6.102

荻藻島町……………169

荻藻通……………168

川西通……………162

菅公匂いの梅旧跡……………16.111

### き

北町……………160

行政区【林田区】の誕生……………52

近世の長田地方……………30

近代の交通と産業の発展……………41

近代の長田地方……………39

### く

空襲による被害……………57

久保町……………171

区民生活の充実に向けて……………65

区民とともに歩むまちづくり……………68

## け

軽工業の発展	45
源平町	135
源平勇士の碑	21. 22. 103
監物太郎の墓	21. 22

## こ

五位ノ池町	153
高速長田駅	90
耕地整理と新しい町名	50
高東町	139
高福寺	103
神戸高速鉄道	90
神戸市営地下鉄	88
神戸市への編入	40
神戸電鉄	92
黒漆金銅装神輿	27. 121
古代の長田地方	5
五番町	158
五番町遺跡	97
駒栄町	175
駒ヶ林駅	95
駒林神社	104
駒ヶ林町	176
駒ヶ林南町	177
ゴム産業の始まり	46

## さ

西国街道(山陽道)	15
卅六橋(三六橋)	10. 11. 104

左義長	37. 61
三番町	158
三番町遺跡	98
山陽電鉄	91
山陽道と蓮の池	14
山陽本線	85

## し

市営地下鉄(海岸線)	95
市営地下鉄(西神・山手線)	94
JR西日本	90
鹿松町	133
史跡分布図 No.1~4	117
市電	87
重工業の展開	48
終戦による混乱の時代	58
住民たちの運動	62
庄田町	175
常福寺	105
庄山町	156
条里制	9
昭和後期の長田	58
新田開発や溜め池建設	32
新長田駅	90. 94. 95

## す

菅原通	161
-----	-----

## せ

戦時下の生活	56
--------	----

## た

大化の改新と条里制	9
大國公園	105
大日丘町	132
大丸町	147
平忠度腕塚	21, 23, 108
平忠度胴塚	21, 23, 108
平知章の墓	21
平盛俊塚(碑)	20, 108
平盛俊の墓	22
鷹取カトリック教会	106
高取山	5, 107
高取山町	141
滝谷町	135

## ち

中世の長田地方	19
長者町	140
長福寺	109

## つ

追儺式	36, 122
-----	---------

## て

鉄道時代の幕開け	84
寺池町	148
電気鉄道の発展	47
天神山	109

## と

東海道本線	84
徳本上人六字妙号石	110

戸崎通	156
都市部の開発と公共施設の建設	61
豊臣政権下の長田	
30	

## な

長尾町	143
長田駅	91, 92, 94
長田区の誕生	59
長田区の町別面積・人口 (平成16年4月30日現在)	178
長田港の建設と埋め立て事業	60
長田港	60
長田神社	110
長田神社のクスノキ	124
長田神社境内遺跡	98
長田神社古式追儺式附鬼面	122
長田町	149
長田天神町	138
長田のクニと念仏山古墳	7
長田野田遺跡	101
長田の地名	5
長田本庄町遺跡	101
長田南遺跡	98
長楽町	174
名倉町	139
七番町	157
浪松町	174
南北朝時代	25

## に

西尻池町	168
西代駅	91
西代通	157
西代の楠	112
「西の副都心」としての発展	63
西丸山町	137
西山町	142
二番町	158

## ね

年表(明治～現代)	74
年表(産業関係)	83
念仏山古墳	7

## の

野田町	172
-----	-----

## は

萩乃町	132
幕藩体制の下で	

## 31

幕末のころの長田	38
蓮池町	155
蓮の池	14
蓮の池跡	112
蓮宮通	154
花山町	134
浜添通	167
林田村の成立	39
林田区の誕生	52

林山町	142
阪神大水害	53

## ひ

東尻池町	166
東尻池新町	166
東丸山町	136
檜川町	134
雲雀ヶ丘	131
兵庫運河	42
日吉町	170
鶴越の坂落とし	19

## ふ

福聚寺	113
福原遷都、和田京の計画	17
二葉町	172
二葉町遺跡	100
文化財一覧 (平成16年4月1日現在)	125

## へ

平安時代の長田の郷	15
平成を生きる長田	68
平和台町	144

## ほ

房王寺町	146
宝満寺	113
細田町	163
堀切町	137
本庄町	173

## ま

前原町	147
マッチ産業	45
松野遺跡	100
松野通	165
真野町	167
丸山駅	92, 93
丸山町	136
丸山衝上断層	114
満福寺	115

## み

御蔵遺跡	98
御蔵通	161
水笠遺跡	99
水笠通	164
湊川隧道	44
南駒栄町	176
御船遺跡	99
御船通	154
御船山旧跡	115
宮丘町	143
宮川町	150
明泉寺	20, 116
明泉寺町	138
民俗文化財から	

## 36

民鉄	86
----	----

## む

室町時代	28
------	----

## め

明治の三大土木事業	42
-----------	----

## も

木造大日如来坐像	121
----------	-----

## や

山下町	155
-----	-----

大和朝廷の勢力下へ	9
-----------	---

## よ

四番町	158
-----	-----

## り

律令制の確立と長田	12
-----------	----

## ろ

六番町	158
-----	-----

## わ

若松町	169
-----	-----

若松町遺跡	101
-------	-----

## 参 考 文 献

- 『新修神戸市史』 『神戸開港三十年史』 『神戸物語』 『神戸の歴史』  
『西摂大観』上・下 『神戸の史跡』 『神戸地方の条里』 『条里制』 『平清盛と神戸』  
『八部郡内村々書出帳』 『摂津名所図会』 『神戸史談』 『歴史と神戸』  
『兵庫県八部郡地誌』 『神戸西部耕地整理組合誌』 『日本の歴史(大正デモクラシー)』  
『兵庫県労働運動史』 『わかりやすい兵庫の交通史』  
『日本ケミカルシューズ工業組合三十五年の歩み』  
『神戸市漁協合併三十周年記念誌』 『神戸市商店街連合会五十周年史』  
『神戸市教育史』 『兵庫ゴム工業史』 『神戸市小売市場連合会五十年史』  
『靴物語』 『阪神復興と地域産業』 『神戸市水害史』 『神戸市統計書』  
『神戸市交通局八十年史』 『長田神社史』  
『山陽電気鉄道六十五年史』 『さよなら神戸市電』 『神戸開港百年史』  
『神戸史談会』(平成十六年一月号) 『神戸戦災復興誌』 『こうべ市制百年記念誌』  
『ながたの歴史』 『ながたの民話』

## あとがき

神戸の歴史研究に大きな功績を残された落合重信氏による「ながたの歴史」が発刊されたのは、昭和五十二年のことでした。それから四半世紀の間に、阪神・淡路大震災を経験した長田の町は大きく変わりました。

震災から十年、長田区の誕生から五〇年を迎える平成十七年に向けて、「ながたの歴史」の改訂版の作成が企画されました。執筆に当たっては「ながたの歴史」や「ながたの民話」、「神戸の史跡」等に多くを学びながら、現在の多くの区民の方々にぜひ知っていただきたいと思う内容が伝わるよう、文章や構成を工夫していきました。完成するまでに最大限の努力と注意をはらいましたが、まだまだ不備な点も多いことでしょう。さまざまな方面からのご批判をお待ちしております。

本書が完成するまで、長田区役所まちづくり推進課のみなさんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

平成十七年三月三十一日

田辺 真人

竹内 隆

## 著者紹介

田辺 真人(たなべ まこと)

昭和22年、神戸生まれ。関西学院大学文学部史学科卒。

現在園田学園女子大学国際文化学部教授、宝塚市教育委員長。

著書に「神戸の伝説」「歴史の須磨」「東灘歴史散歩」「ながたの民話」など。

竹内 隆(たけうち たかし)

昭和39年、神戸生まれ。神戸大学大学院教育学研究科修了。

現在神戸市立甲緑小学校教諭、神戸歴史クラブ副理事長。

ながたの歴史 @ 許可なく転載・複製を禁ずる。

平成 17 年 3 月 31 日 初版第一刷発行

著 者 田辺 真人

竹内 隆

発 行 長田区役所まちづくり推進課

〒653-8570

神戸市長田区北町 3 丁目 4 番地の3

☎(078)579-2311(代)

印 刷 有限会社ビスコム

神戸市広報印刷登録平成16年度第342号(A-1類) 頒価500円